

自己評価書（本文編）

産業技術系専門職大学院 認証評価
自己評価書（本文編）

京都情報大学院大学

ウェブビジネス技術専攻

提出日 2023年6月30日

目次

専攻情報.....	3
(1) 高等教育機関名およびその英語表記	
(2) 専攻名およびその英語表記	
(3) 学位名およびその英語表記	
(4) 連絡先	
専攻概要.....	4
自己評価.....	5
基準1 使命・目的および学習・教育目標の設定と公開.....	6
(1) 使命・目的の学則等での設定と公開.....	6
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の設定と公開.....	8
(3) 学習・教育目標.....	9
(4) 研究科等の名称.....	14
基準2 学生受け入れ方法.....	15
(1) 入学者の受け入れの方針（アドミッションポリシー）とそれに基づく選抜の実施.....	15
基準3 教育方法.....	19
(1) 教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の設定と公開.....	19
(2) カリキュラムの設計と開示.....	21
(3) カリキュラムにおける実践教育の充実.....	50
(4) シラバスの作成・開示とそれにそった教育と評価の実施.....	52
(5) 学生自身の達成度点検と授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施.....	55
(6) 授業を行なう学生数に関わる法令の遵守.....	60
(7) 年間・学期間の履修バランスに関わる法令の遵守.....	61
(8) 授業の期間および夜間・集中授業に関わる法令の遵守.....	62
(9) メディア利用に関わる法令の遵守.....	63
(10) 通信教育に関わる法令の遵守.....	66
(11) 企業等学外での履修に関わる法令の遵守.....	67
基準4 教育組織.....	68
(1) 教員組織の編成に関する基本方針.....	68
(2) 教員の数と能力および教育支援体制.....	70
(3) 専任教員数に関わる法令の遵守.....	77
(4) 専任教員が一専攻に限り専任であることに関わる法令の遵守.....	78
(5) 教授の数に関わる法令の遵守.....	79
(6) 専任教員の指導能力等に関わる法令の遵守.....	80

(7) 実務家教員数と実務家教員の配置に関わる法令の遵守	81
(8) 専任教員による主要科目担当に関わる法令の遵守	82
(9) 教員の年齢構成に関わる法令の遵守	83
(10) 専任教員の本務外業務に関わる法令の遵守	84
(11) 科目等履修生等受け入れの際の専任教員増に関わる法令の遵守	85
(12) 2以上の校地での専任教員等の配置に関わる法令の遵守	86
(13) 教員の教育に関する貢献等の評価方法とその開示、実施	87
(14) 教員間ネットワークの存在と活動の実施	88
(15) 教員の質的向上を図る仕組み（FD）の存在、開示、実施	91
(16) 職員の質的向上を図る仕組み（SD）の存在、開示、実施	94
基準 5 教育環境	98
(1) 施設・設備	98
(2) 夜間開講等における施設利用等に関わる法令の遵守	102
(3) 専任教員の研究室に関わる法令の遵守	103
(4) 科目等履修生等受け入れの際の教育環境に関わる法令の遵守	104
(5) 2以上の校地での施設・設備に関わる法令の遵守	105
(6) 大学院大学における施設に関わる法令の遵守	106
(7) 財源確保への取り組み	108
(8) 学生への支援体制	109
基準 6 学習・教育目標の達成	113
(1) 修了認定の基準と方法およびその開示と実施	113
(2) 修了認定に必要な在学期間および修得単位数に関わる法令の遵守	116
(3) 在学期間の短縮に関わる法令の遵守	118
(4) 単位互換等で取得した単位の評価方法・評価基準の作成とその実施	120
(5) 学位名称に関わる法令の遵守	122
基準 7 教育改善	123
(1) 教育点検システムの存在と実施	123
(2) 教育点検システムの社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みと 教育点検システム自体の機能も点検できる構成	127
(3) 情報公開に関わる法令の遵守	128
(4) 点検結果に基づく教育システムの継続的な改善の仕組みの存在とその実施	129
基準 8 特色ある教育研究活動	132
(1) 特色ある教育研究活動	132

専攻情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

教育機関名称：京都情報大学院大学

英語表記： The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics

(2) 専攻名およびその英語表記

専攻名称：ウェブビジネス技術

英語表記： Web Business Technology

(3) 学位名およびその英語表記

学位名：情報技術修士（専門職）

英語表記： Master of Science in Information Technology (M.S. in IT)

(4) 連絡先

- 責任者氏名 奥泉 洋子
- 同所属・職名 事務部 部長
- 郵便番号・住所 〒606-8225 京都府京都市左京区田中門前町7番地
- 電話番号 075-711-0161
- ファックス番号 075-722-2283
- メールアドレス jimukyoku@kcg.ac.jp

専攻概要

- (1) 専攻の沿革(これまでの研究科・専攻の設置・改組の経緯等)
本学は 2004 年 4 月に、研究科として応用情報技術研究科を設置し、その下にウェブビジネス技術専攻を置く、1 研究科 1 専攻から成る大学院大学として開学した。
- (2) 専門職大学院および研究科の目標と専攻の目標および育成する人材像との関係
本学は、1 研究科 1 専攻から成り、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等を教授し、高度専門職業人の養成を目的としている。本専攻は、特に広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要な高度の技術能力を備えた、高度専門職業人の養成を重視し、高い技術、幅広い知識と国際性を有した IT プロフェッショナルズの育成を主眼としている。
- (3) 学習・教育目標の特徴
応用情報技術分野における高度専門職業人養成を目的とする本学では、基礎的素養の確保、企画・設計能力の向上、開発・運用能力の向上、職業人意識と倫理観の醸成の 4 つを教育目標として掲げ、高い職業人意識と倫理観を養う実地・実践型のカリキュラムを実施している。授業には、アメリカのプロフェッショナルスクールにおいて成果を上げている教育方法を多く取り入れ、発表や討論、グループワーク、プロジェクト開発等を通じ、リーダーシップや創造性を発揮する能力を育成する機会を多数設けている。
- (4) 修了生の進路・活躍分野
修了後は、主に IT 系企業に就職し、CIO、プロジェクトマネージャー、AI アーキテクト、システム統合コンサルタント、アントレプレナー、IT アーキテクト、情報セキュリティコンサルタント、コンテンツ制作管理者、データサイエンティストなどの職種において、開発やコンサルティング業務等における有用な人材として活躍している。
- (5) 関連する他の教育課程(関連研究科・関連専攻等)との関係
単一研究科、単一専攻のため該当しない。
- (6) カリキュラム上の特色
IT (ICT) スキルとマネジメントスキルを兼ね備え、ウェブビジネス分野で活躍できる高度専門職業人を育成するためのカリキュラムを実施している。本学の定めた特定の専門領域分野および産業分野に関連して、それぞれの推奨科目群を提示し、学生の学修の目的及び志向に応じて、体系的・段階的に学ぶことができるよう詳細な履修モデルを編成している。
- (7) その他の特色
平日夜間や土曜日の授業開講、長期履修制度、e ラーニングシステムを活用した学習環境の提供など、社会人が仕事と並行して履修できる制度を整えているほか、日本語だけでなく英語で修学できる体制も整えており、世界各国からの留学生を受け入れている。また、地域貢献の一環として、地理的名称トップレベルドメイン「.kyoto」の管理運営事業を担い(レジストリ)、京都府全体の価値の向上への貢献を目標に掲げ、京都ブランド力の強化を行っている。

自己評価

表1 自己評価総括表

基準	点数(1~5)
基準1 使命・目的および学習・教育目標の設定と公開	5
基準2 学生受け入れ方法	5
基準3 教育方法	5
基準4 教育組織	5
基準5 教育環境	5
基準6 学習・教育目標の達成	5
基準7 教育改善	5
基準8 特色ある教育研究活動	5

基準1 使命・目的および学習・教育目標の設定と公開

(1) 使命・目的の学則等での設定と公開

本学大学院の建学の理念は、ウェブサイトのページ「建学の理念と設置の趣旨」、学生便覧、および大学案内に次のように記載している。(資料番号 1-1, 資料番号 1-2)

社会のニーズに応え、時代を担い、次代をリードする高度な実践能力と創造性を持った応用情報技術専門家を育成する。

IT関連技術は、社会のあらゆる分野で必要となっており、IT人材の育成に向けての社会的ニーズは高く、高度なIT人材不足が産業界のみならず、社会のあらゆる分野で求められている。本学は、こうしたIT関連技術者のますますの必要性を予見し、このような社会的課題に対処すべく開学したものであり、現在のDX社会への対応・人材育成に大きく貢献できていると自負している。

IT分野の人材育成においては、社会のニーズを踏まえた実践的な内容の教育と従来の学問分野の枠を超えた学際的なアプローチが必須である。本学でも、教育カリキュラム・教育組織体制において、高度なIT人材になるために必須の知識・技術を実践的に修得し、従来の学問分野の垣根を超えた専門性と応用力を涵養することが重要であると考えます。

このことを踏まえて、本学の使命・目的は、本学学則、ウェブサイト、大学案内、学生便覧に以下のように記載している。

「京都情報大学院大学学則」第2条 (資料番号 1-3)

(目的)

第2条 本学大学院は、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等を教授し、以って高度専門職業人の養成を目的とする。

ウェブサイトのページ、本学大学院学校紹介「本学の使命・目的」にて、本学の使命・目的を次のように記載している。(資料番号 1-4)

- ・ IT社会の高度かつ多様な人材ニーズに応え、さらに、ユビキタス時代のビジョンにおいて、従来以上の高度な技術、幅広い知識と国際性を有した高度なITプロフェッショナルズを供給することを通じて、高度情報化社会の実現と経済発展に貢献する。
- ・ 情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等を教授し、以って高度専門職業人の養成を目的とする。

本学の大学案内にも本学の使命・目的を記載しており、学外にも広く配布している。また、同様に学生便覧にも本学の使命・目的を記載している。(資料番号 1-5, 資料番号 1-2)

本専攻(ウェブビジネス技術専攻)の教育目的は、本学学則、大学案内、学生便覧に以下のように記載している。(資料番号 1-6)

「京都情報大学院大学学則」第5条(資料番号 1-3)

第5条 専門職学位課程に次の専攻を置く。

応用情報技術研究科 ウェブビジネス技術専攻

- 2 本専攻は、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等の教授・研究を通じ、広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要の高度の技術能力を備えた、高度専門職業人の養成を目的とする。

さらに、本学の使命・目的および、本専攻の教育目的は入学時の新入生オリエンテーションでも示している。(資料番号 1-8)

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学学校紹介(ウェブサイト) 建学の理念と設置の趣旨 (資料番号 1-1, p. 521)
(http://www.kcg.edu/school_info/philosophy.html)
2. 『2022 学生便覧』 建学の精神 (建学の理念, 使命・目的) (資料番号 1-2, p. 524)
3. 『2022 学生便覧』 京都情報大学院大学学則抄 (抜粋) (資料番号 1-3, p. 526)
4. 京都情報大学院大学学校紹介(ウェブサイト) 本学の使命・目的 (資料番号 1-4, p. 528)
(http://www.kcg.edu/school_info/misson.html)
5. 『2022 年度大学案内』 建学の理念, 使命・目的 (資料番号 1-5, p. 529)
6. 『2022 学生便覧』 専攻の教育目的とポリシー (資料番号 1-6, p. 530)
7. 新入生オリエンテーションスライド 使命・目的, 教育目的 (資料番号 1-7, p. 536)

《実地調査閲覧資料名》

1. 京都情報大学院大学学則 (資料番号 1)
2. 京都情報大学院大学 2022 大学案内 (資料番号 2)
3. 2022 学生便覧 (資料番号 3)

(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の設定と公開

(i) ディプロマ・ポリシー

本学はディプロマ・ポリシーを次のように定め、学生便覧に記している。(資料番号 1-6, 資料番号 1-8)

本学においては、以下の 3 つの要件をすべて満たした者に対し、修士（専門職）の学位を授与する。

1. 定められた修了年限を全うすること
2. 定められた必要単位を修得すること
3. カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、高度専門職業人としての基盤となる知識、応用力、ならびに高い倫理観を身につけていること

(ii) ディプロマ・ポリシーの社会への開示

ディプロマ・ポリシーはウェブサイトのページ、本学大学院学校紹介「教育目標と 3 つのポリシー」、大学案内に記載し、広く一般に公開している。(資料番号 1-9)

《引用・裏付資料名》

1. 『2022 学生便覧』専攻の教育目的とポリシー (資料番号 1-6, p. 530)
2. 『2022 学生便覧』ディプロマ・ポリシー (資料番号 1-8, p. 537)
3. 京都情報大学院大学学校紹介(ウェブサイト) 教育目標と 3 つのポリシー (資料番号 1-9, p. 538)
(http://www.kcg.edu/school_info/admission_policy.html)

《実地調査閲覧資料名》

1. 京都情報大学院大学 2022 大学案内 (資料番号 2)
2. 2022 学生便覧 (資料番号 3)

(3) 学習・教育目標

(i) 学習・教育目標

本学の使命・目的に即して、本専攻のカリキュラムの中で育成される人材の目標像は、前出の「教育目的」にあるとおり、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等の教授・研究を通じ、広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要の高度の技術能力を備えた高度専門職業人である。

このような人材を育成するためには、理工学・経営学等の理論的な基礎知識・基礎スキルを幅広く修得した上で、それらを具体的な職務・業務につながる課題の解決に応用し、高度な技術能力を実践的に獲得する機会を提供すべきであると考えます。また、高度専門職業人には、その課題解決能力をもって専攻分野で指導的役割を果たすことが期待されるので、技術能力だけでなく、指導者としてのリーダーシップや職業倫理をも備えているべきである。

そこで、本専攻の教育目標を次のように定め、大学案内、学生便覧に記載している。(資料番号1-6)

教育目標

本学の使命・目的を学生の教育において実現するために、本学のウェブビジネス技術専攻の教育目標を以下のように掲げる。

目標1：基礎的素養の確保

コミュニケーション能力を始めとして、ビジネスを推進する基礎となる社会的スキルを身につける。また、IT (ICT) を構成するソフトウェア・ハードウェア・ネットワークなどの基盤技術について理解する。

目標2：企画・設計能力の向上

ビジネスとそれを支えるIT (ICT) の現状および動向を広く調査・分析し、企業や社会が抱える課題に対して合理的なアプローチを企画・立案できるようにする。また、それを具体化するための様々なシステムやコンテンツを設計できるようにする。

目標3：開発・運用能力の向上

企画・設計されたシステムやコンテンツを、ソフトウェアによる実装や利用者への提供などを通じて、実際に活用できるようにする。また、それら開発・運用に必要な様々なツールや規約などに関する実務的知識を深める。

目標4：職業人意識と倫理観の醸成

ビジネスプロセスを責任を持って担当し、それらを継続的に改善していけるような高い職業人意識と倫理観を養う。併せて、実践的なリーダーシップや組織管理の方法論などを学ぶ。

上記、教育目標は、ウェブサイトのページ、本学大学院学校紹介「教育目標と3つのポリシー」にも記載している。(資料番号1-9)

(ii) 学習・教育目標が以下の要件[i]～[vi]を含むことの説明

本学の教育目標1～4と、以下の[i]～[vi]について、

[i] 当該専攻が対象とする技術分野に関する高度の専門的知識及びこれを実務に応用できる能力

- [ii] 当該専攻が対象とする技術分野において、複合的な問題を分析し、課題を設定・解決できる卓越した能力
 - [iii] 当該専攻が対象とする技術分野に関する基礎的素養
 - [iv] 継続的に学習できる能力
 - [v] 当該専攻が対象とする技術分野に関する実務を行なうために必要なコミュニケーション能力、協働力、マネジメント力などの社会・人間関係スキル
 - [vi] 職業倫理を理解し、倫理規範を守りつつ職務を果たす能力と態度
- は次の表 1-1 のように対応する。

表 1-1

本学の教育目標	要件					
	[i]	[ii]	[iii]	[iv]	[v]	[vi]
目標 1 基礎的素養の確保			○		○	
目標 2 企画・設計能力の向上		○				
目標 3 開発・運用能力の向上	○					
目標 4 職業人意識と倫理観の醸成				○	○	○

以下に、表 1-1 で示したとおり、各教育目標が対応する要件を含んでいることを説明する。

要件[i] 当該専攻が対象とする技術分野に関する高度の専門的知識及びこれを実務に応用できる能力←
目標 3：開発・運用能力の向上

目標 3 を設定した科目で、学生は、各種システムやコンテンツを実際に活用できるようになるために、ソフトウェアによる実装方法や利用者への提供方法などについての専門的な知識を修得する必要がある。また、それら開発・運用の過程で、必要な様々なツールや規約などに関する実務的知識を深めることになる。即ち、目標 3 は要件[i]を含んでいる。

要件[ii] 当該専攻が対象とする技術分野において、複合的な問題を分析し、課題を設定・解決できる卓越した能力←目標 2：企画・設計能力の向上

目標 2 を設定した科目で、学生は、ビジネスとそれを支える IT (ICT) の現状および動向を広く調査・分析し、企業や社会が抱える課題に対して合理的なアプローチを企画・立案できるようになる。また、それを具体化するための様々なシステムやコンテンツを設計できるようになることを目指す。即ち、目標 2 は要件[ii]を含んでいる。

要件[iii] 当該専攻が対象とする技術分野に関する基礎的素養←目標 1：基礎的素養の確保

目標 1 を設定した科目で、学生は、コミュニケーション能力を始めとして、ビジネスを推進する基礎となる社会的スキルを身につける。また、IT (ICT) を構成するソフトウェア・ハードウェア・ネットワークなどの基盤技術について理解することを目標とする。即ち、目標 1 は要件[iii]を含んでいる。

要件[iv] 継続的に学習できる能力←目標 4：職業人意識と倫理観の醸成

IT (ICT) 分野は技術の進歩発展が早く、事業分野に関連する技術・知識を継続的に学ばなければならない。学生は目標 4 を設定した科目で、ビジネスプロセスを責任を持って担当し、それらを継続的に改善していきけるような高い職業人意識と倫理観を醸成する。そして、継続的に学習し自分自身の様々なスキル向上を図ることが、将来属する組織に対しても重要であることを、リーダーシップや組織管理の方法論な

どを学ぶことで、実践的に修得する。即ち、目標4は要件[iv]を含んでいる。

要件[v] 当該専攻が対象とする技術分野に関する実務を行うために必要なコミュニケーション能力、協働力、マネジメント力などの社会・人間関係スキル←目標1：基礎的素養の確保、目標4：職業人意識と倫理観の醸成

目標1を設定した科目で、学生は、コミュニケーション能力を始めとして、ビジネスを推進する基礎となる社会的スキルを身につける。また、目標4を設定した科目で、ビジネスプロセスを責任を持って担当し、それらを継続的に改善していけるような高い職業人意識と倫理観を養うこと、さらに、実践的なリーダーシップや組織管理の方法論などを学ぶことで協働力、マネジメント力、社会・人間関係スキルを高めることを目指している。即ち、目標1と目標4で要件[v]をカバーしている。

要件[vi] 職業倫理を理解し、倫理規範を守りつつ職務を果たす能力と態度←目標4：職業人意識と倫理観の醸成

目標4を設定した科目で、学生は、ビジネスプロセスを責任を持って担当し、それらを継続的に改善していけるような高い職業人意識と倫理観を養うことを目標とし、併せて、実践的なリーダーシップや組織管理の方法論などを学ぶことで、高度専門職業人が準ずべき倫理規範を守りつつ職務を果たす能力と態度を醸成する。即ち、目標4は要件[vi]を含んでいる。

各授業シラバス内にその授業がどの教育目標に強く関わっているかを記載する項目欄を設け、教育目標と科目の関係がわかるようにしている。科目担当者はこの目標を学生が達成できるよう、授業内容を構成し実施する。(資料番号1-11)

(iii) 要件[i]～[vi]以外の知識・能力

前述の[i]～[vi]の知識・能力以外に、本学で学生への浸透を推進している能力としては、国際的な理解と協調の精神を養うことがあげられる。日本人学生と留学生の間、出身国の異なる学生の間での交流を推進することが、グローバルなITビジネス分野で今後活躍が期待される専門職技術者として重要なことである。

そのための実効的な特徴ある教育プログラムとしては、文化や言語の違いを超えて学生どうしでグループを組み、グループワークに取り組ませている科目を開講していることが挙げられる。日本語/英語併記の授業資料や教員による逐次通訳などのサポートのもとで、グループワークでの課題提起と解決、そのためのディスカッションを遂行することにより、学生がお互いの文化の違いや考え方の違いを認識しつつ、ベストなソリューションを導けるよう努力することになる。このことが、異文化理解に基づいたグローバル人材の育成につながることを期待される。

(iv) 学習・教育目標の水準

本専攻に入学してくる学生は多様で、それぞれ様々なバックグラウンドを有し、また修了後の進路としても、IT応用分野が多岐にわたることから、多様な方面への進路が考えられる。このような入学者の多様性、修了後進路の多様性は専門職大学院として、産業界のニーズに合うよう様々な知識・スキルを持った高度専門職業人を育成するという点においては避けられない傾向であろう。従って、教育目標の水準を様々なIT応用分野を学ぶ個々の学生に対して一意に定めることは難しい。

しかしながら、修了する学生が獲得すべき能力を包括的に言い表すものとして、本専攻では、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の推奨する「ITスキル標準」2011年版のスキルレベルを参考としている。すなわち、図1-1のスキルレベル2：「上位者の指導の下に、要求された作業を担当する」あるいはスキ

ルレベル3：「要求された作業を全て独力で遂行する」レベルを教育目標の到達最低水準と考える。

入学後の学生が、先述の IT スキル標準のレベル1：「(ICT の) 最低限必要な基礎知識を有する」ことに止まらず、具体的なタスクについて自力で調査したり、指導担当教員や周囲の学生に尋ねたり等して、解決策を出し、実際に成果を出せるようになることが、本専攻の教育目標の到達点であると言える。

そのため、本専攻では、個々の履修する科目で ICT やビジネスの各専門分野の要素的なスキルや知識、自分の専門分野に関する内容を積み重ね、学修の集大成となるマスタープロジェクト (2018 年度から 2019 年度の入学者は選択科目、2020 年度以降の入学者は必修科目) では、担当教員の指導のもと、進捗管理や報告・相談などの実務を含めた問題解決能力を養うことができる。

このことから、修了時には、少なくとも先述のスキルレベル2あるいは3を備えた高度専門職業人に到達することが期待される。

IPA は IT スキル標準の発展形として、2017 年に i コンピテンシディクショナリを作成した。本専攻では、カリキュラム拡充に際して、IPA の i コンピテンシディクショナリとの整合性の実現に重点を置いている。これにより、本専攻修了者のスキル・タスクレベルが明確になり、企業が求める人材像と、修了生とのマッチングが容易になり、産業界への効果的な人材供給に有用なものとしてされている。

レベル	説明
レベル7	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、社内外において、テクノロジーやメソドロジ、ビジネスを創造し、リードするレベル。市場全体から見ても、先進的なサービスの開拓や市場化をリードした経験と実績を有しており、 世界で通用するプレーヤ として認められる。
レベル6	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、社内外において、テクノロジーやメソドロジ、ビジネスを創造し、リードするレベル。社内だけでなく市場においても、プロフェッショナルとして経験と実績を有しており、 国内のハイエンドプレーヤ として認められる。
レベル5	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、社内においてテクノロジーやメソドロジ、ビジネスを創造し、リードするレベル。社内において、プロフェッショナルとして自他共に経験と実績を有しており、 企業内のハイエンドプレーヤ として認められる。
レベル4	プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、自らのスキルを活用することによって、独力で業務上の課題の発見と解決をリードするレベル。社内において、プロフェッショナルとして求められる経験の知識化とその応用 (後進育成) に貢献しており、 ハイレベルのプレーヤ として認められる。スキル開発においても自らのスキルの研鑽を継続することが求められる。
レベル3	要求された作業を全て 独力で遂行する 。スキルの専門分野確立を目指し、プロフェッショナルとなるために必要な応用的知識・技能を有する。スキル開発においても自らのスキルの研鑽を継続することが求められる。
レベル2	上位者の指導の下に、要求された作業を担当する 。プロフェッショナルとなるために必要な基本的知識・技能を有する。スキル開発においては、自らのキャリアパス実現に向けて積極的なスキルの研鑽が求められる。
レベル1	情報技術に携わる者に 最低限必要な基礎知識を有する 。スキル開発においては、自らのキャリアパス実現に向けて積極的なスキルの研鑽が求められる。

図 1-1 IT スキル標準における各レベルの定義 (IT スキル標準 V3 2011 対応版より)

(v) 学生・教員への周知方法とその時期

本専攻の教育目標は、大学案内、学生便覧、およびウェブサイトのページ上の本学大学院学校紹介「教育目標と3つのポリシー」に記載している。(資料番号 1-6, 資料番号 1-9)

各科目の授業シラバスには、その科目がどの教育目標に強く関わっているかを記載する項目欄を設けており、学生が科目履修にあたって授業シラバスを参照する際に、それら教育目標を把握できるようになっている。(資料番号 1-10)

授業を担当する教員にも、担当科目の授業シラバス作成の際に、対応する教育目標の記載を確認させることで、周知が図られている。

《引用・裏付資料名》

1. 『2022 学生便覧』 専攻の教育目的とポリシー (資料番号 1-6, p. 530)
2. 京都情報大学院大学学校紹介(ウェブサイト) 教育目標と3つのポリシー (資料番号 1-9, p. 538)
(http://www.kcg.edu/school_info/admission_policy.html)
3. シラバス (学習目標記入例) (資料番号 1-10, p. 540)

《実地調査閲覧資料名》

1. 2022 年度 シラバス (資料番号 4)
2. 開講科目と教育目標との対応表 (資料番号 5)

(4) 研究科等の名称

研究科および専攻の名称を以下に示す。

研究科名称 応用情報技術研究科
専攻名称 ウェブビジネス技術専攻

2004年の開学時から用いているこれらの名称は、本学の使命・目的および本専攻の目的が的確に反映されており、本研究科および本専攻の名称としてふさわしいものである。

なお、この名称はウェブサイト、大学案内の京都情報大学院大学の概要の項、学生便覧に記載表示されている。(資料番号 1-12)

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学概要(ウェブサイト) (資料番号 1-11, p. 543)
(http://www.kcg.edu/school_info/brief.html)

《実地調査閲覧資料名》

なし

- ◎ 「使命・目的および学習・教育目標の設定と公開」について表 1 に記入した点数と判定理由
点検結果の点数: 5

判定理由:

本学の使命・目的またそれらに基づく本専攻の教育目標は、社会の要求に応え、必要な教育要件の内容を満たしている。これらの内容は、大学案内、ウェブサイト等を通じ、外部に公開されており、学生・教職員には学生便覧や新入生オリエンテーションなどで周知徹底されている。また教育目標の水準は、IPAのスキル標準に即した水準に到達できるよう設定されている。研究科・専攻名称とも、本学の使命・目的、本専攻の目的に合致したものに設定されており、全体を通して、基準1の各項目を十分満たしているため、評価を5とした。

基準2 学生受け入れ方法

- (1) 入学者の受け入れの方針（アドミッションポリシー）とそれに基づく選抜の実施
 (i) アドミッションポリシー

本学では、「本学の使命・目的」を受け、以下のようにアドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）を定めている。（資料番号 2-1, 資料番号 2-2, 資料番号 2-3）

アドミッション・ポリシー（Admission Policy；入学者の受け入れに関する方針）

IT（ICT）分野は情報系・経営系の融合領域であり、その対象は複雑多岐にわたっており、この分野で活躍できる人材に対する産業界のニーズは多様化する一方です。工学部出身者を前提とする工学系研究大学院のみに IT（ICT）分野の人材育成を委ねていた従来の教育体制では、産業界の多様な人材供給のニーズに応えることは不可能でした。今後の産業・経済の発展のためには、極力多様なバックグラウンドを持った人材を IT（ICT）分野の高度専門職業人として育成していくことが必要です。

こうした観点から、本学は、出身学部を限定することなく、極力多様なバックグラウンドを有する以下のような学生を広く受け入れる方針です。

1. 本学において専門知識を修得するための基礎学力を有する人
2. 既成概念にとらわれず、新しいことを学び、自ら考え、創造する意欲を有する人
3. 周囲と協力し、コミュニケーションを通じて問題を解決する意志を有する人

アドミッション・ポリシーが示すように、本専攻においては、文科系・理科系の幅広い分野から多様な入学者を受け入れている。

本学は当初のカリキュラム設計において、ACM/AIS の IS（情報システム）系専門職修士課程モデルカリキュラムを主要な参考資料とした。一般に、米国の大学院（特に Professional School）では、学部課程での専門分野を制限することは少ないが、MSIS においてもそのような開放型大学院の重要性を指摘している。例えば、上記 MSIS2000 のモデルカリキュラムにおいては、対象となる入学者のバックグラウンドとして以下のようなカテゴリーをあげている。

(MSIS2000 <http://aisel.aisnet.org/cgi/viewcontent.cgi?article=2550&context=cais>)

表 2-1 MSIS プログラムで想定される入学者のバックグラウンド

Scenario	Short Title	Description
1	IS'97 Major	Student with an undergraduate major conforming to IS'97 and little experience
2	Business Major	Student with a BA in business and one IS survey course
3	Computer Science Major	A computer science undergraduate with no IS courses and little experience
4	Other Undergraduate Major	Undergraduate in science, social science, or humanities
5	Professional	Professional returning to school with extensive practical experience

本専攻においても、学生受け入れに際し出身学部、専門分野を限定せず、IT の知識が不十分な文科系学部出身者から、社会で IT 技術者として活躍している社会人に至るまで、様々な IT スキルレベルの学生の入学を認めている。

入学者のバックグラウンドに関する柔軟性の根底にあるのは、IS 系専門職修士を目指す学生のバックグラウンドが何であろうと、それはその学生が何らかの対価を支払って取得した貴重な資産であり、これに対して該当の修士プログラムにおいて更なる価値を付加 (Value-added) し、社会人としての価値を高めるという考えである。すなわち本学のアドミッション・ポリシーは、入学者が既に修得している知識・技術と本学での教育を結合することにより、社会により高度に貢献し得る IT 技術者を育成するという理念に基づいている。

なお、本専攻の教育目標とアドミッション・ポリシーの関連は以下の表のとおりである。

表 2-2 教育目標とアドミッション・ポリシーの関連

		教育目標			
		基礎的素養の確保	企画・設計能力の向上	開発・運用能力の向上	職業人意識と倫理観の醸成
アドミッション・ポリシー	本学において専門知識を修得するための基礎学力を有する人	○		○	
	既存概念にとらわれず、新しいことを学び、自ら考え、創造する意欲を有する人		○	○	
	周囲と協力し、コミュニケーションを通じて問題を解決する意志を有する人		○	○	○

本専攻では、文科系学部出身者など、IT の知識が不十分な入学者に対して IT の基礎知識を学習させる導入的役割の科目を設け、履修するように指導している。IT 基礎知識を持つ留学生でも、日本語での専門用語に慣れていない入学者には上記導入的科目のうち 1 科目程度の履修を推奨する場合もある。本学の修了必要単位数は 44 単位以上であり、専門職大学院設置基準第 15 条で定められた 30 単位以上を 14 単位、国際的な標準である 32 単位を 12 単位上回る。この 14 単位あるいは 12 単位分を、上述のような IT の前提知識のない学生や留学生の日本語の技術用語の修得などを目的とする入門科目として履修することができ、一方で IT の基礎知識を十分に有している学生は、高度な IT 関連科目やビジネス系等、各自の志向に応じて幅広く履修できるようになっている。

(ii) 学士課程における学習・教育内容と水準(入学生に学士課程における学習・教育内容の履修を求める場合)

本専攻は学士課程における学習・教育内容の履修は前提としていない。

(iii) 具体的選抜方法とアドミッションポリシーの反映

本専攻では、春期および秋期の入学者に向け、一般入試、社会人特別選抜入試、留学生入試の区分を設け入学者受入れを行っている。入学選考は、日本国内および海外で実施しており、海外での入学選考は、会場（本学と提携関係にある大学等の施設）またはオンライン形式を利用している。

入学者選抜は、出願時に提出される学部課程等での成績証明書、自己紹介・志望動機書、小論文を含む書類選考および面接試験により行う。その際、既修知識・技術のみで判断するのではなく、当該受験者の潜在的な能力をも勘案し、IT（ICT）を活用し実社会で活躍するリーダーたり得る素質と意欲を有する学生を選抜するよう努めている。特に面接試験において、新しいことを学び、創造しようとする意欲、コミュニケーション能力、問題解決への意志を重視している。

外国人留学生の場合は、上記に加え、言語能力に基づく選考を行う。各種日本語能力資格の有無および面接試験における判定を考慮し、学習に必要な日本語能力を備えていることを確認する。英語で修学する「英語モード学生」（後述）の場合は、日本語の場合と同様に各種英語能力資格の有無および面接試験により、英語能力を確認する。

以上のように、入学者選抜においては、アドミッション・ポリシーが反映されている。

高度な IT 人材の不足とアジア圏の学生の日本への留学希望者増を受けて、本学の入学志願者は増加傾向にある。本専攻では、多くの IT 人材を日本国内、アジアに送り出すべく、2018 年、2019 年、2020 年に入学定員を引き上げた。それに伴い、教員の増加、設備の拡充を進めてきた。（基準 4、基準 5 参照）

入学者の増加にともない、多様なバックグラウンド・目的をもった学生も入学してくる。これらの学生の要望に応えるために、カリキュラムの見直しを行い、新規科目の開講やコースパスウェイの提示などにより、種々のバックグラウンドを有する学生に対しても、修了時の質の確保ができるように努めている。また、英語で修学する学生数の増加に対応して英語講義科目を増加させるなどの対策も進めている。講義教室の問題についても、グループ校の教室の賃借、土日曜開講講義の増加などの対応を行ってきた。2022 年度秋学期からは新校舎での講義も開始され教室に関する問題はほぼ解消している。教員の増加も適宜行い、教育の質を落とすことなく円滑な授業運営を行っている。

本学はグローバルに留学生募集を展開しているが、予定学生数の確保という観点から見たときに、法務省（入管）のビザ発行方針、外務省および法務省のビザおよび在留資格発行方針、留学生の自国の経済状況など、各国のその時の事情によって、入学者数に大きな変動が生じることがある。コロナ禍の下では、予測不可能なものであり、入学定員とのある程度の差が生じることがある。致し方のない部分もあるが、種々の国からの留学生の受け入れに関連して、人材育成・国際交流政策、日本国の入国方針などの情報収集に努め、それらを踏まえて、継続して海外提携校との共同推進企画に基づく調整を行い、今後一層、入学者数予測の精度を高め、留学生の確保を行うよう努力している。

(iv) アドミッションポリシーおよび選抜方法の学内外への開示

アドミッション・ポリシーおよび選抜方法は、本学ウェブサイト上で学内外に公開している。また、学生募集要項にはアドミッション・ポリシーおよび選抜方法を掲載し、大学案内にはアドミッション・ポリシーを掲載している。大学案内および学生募集要項は、大学院説明会参加者に配布し、電話等やウェブサイトからの問い合わせ者向けには郵便等で配布している。大学院説明会においては、アドミッション・ポリシーおよび選抜方法をスライド資料を用いて説明をしている。学内に対しては、学生便覧にアドミッション・ポリシーを記載している。（資料番号 2-1、資料番号 2-2、資料番号 2-4、資料番号 2-5、資料番号 2-6、資料番号 2-7）

《引用・裏付資料名》

1. 『2022 学生便覧』アドミッション・ポリシーに関する記述部抜粋（資料番号 2-1、p. 546）

2. 『2022 年度大学案内』 アドミッション・ポリシーに関する記述部抜粋 (資料番号 2-2, p. 549)
3. 『2022 年度学生募集要項』 アドミッション・ポリシーに関する記述部抜粋 (資料番号 2-3, p. 550)
4. 京都情報大学院大学 (ウェブサイト) アドミッション・ポリシー
(<https://www.kcg.edu/school-info/admission-policy>) (資料番号 2-4, p. 551)
5. 『2022 年度学生募集要項』 アドミッション・ポリシーと選抜方法に関する記述部抜粋
(資料番号 2-5, p. 552)
6. 『2022 年度外国人留学生募集要項』 アドミッション・ポリシーに関する記述部抜粋
(資料番号 2-6, p. 554)
7. 大学院説明会使用スライド資料 (抜粋) (資料番号 2-7, p. 555)

《実地調査閲覧資料名》

1. 京都情報大学院大学 2022 大学案内 (資料番号 2)
2. 京都情報大学院大学 2022 学生募集要項 (資料番号 6)
3. 京都情報大学院大学 2022 外国人留学生募集要項 (資料番号 7)
4. 2022 学生便覧 (資料番号 3)

◎ 「学生受け入れ方法」 について表 1 に記入した点数と判定理由
点検結果の点数 5

判定理由：

本学は、アドミッション・ポリシーを定め、大学案内、募集要項をはじめ各種印刷物およびウェブサイト等で周知を図っている。入学者選抜はアドミッション・ポリシーに沿って行われている。全体として基準 2 の各項目を十分に満たしているため、評価を 5 とした。

基準3 教育方法

(1) 教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の設定と公開

(i) カリキュラム・ポリシー

本専攻のカリキュラム・ポリシーは次のように定め、学生便覧および新入生オリエンテーションにおいて学生へ周知している。（資料番号 3-1）

[カリキュラム・ポリシー（Curriculum Policy：教育課程の編成および実施に関する方針）]

本学では、その使命・目的に基づき、IT（ICT）スキルとマネジメントスキルとを兼ね備えた、ウェブビジネス分野で活躍できる高度専門職業人を育成するためのカリキュラムを実施する。

1 科目群

教授すべき科目の総体を、特定の専門領域に関する知識を深めることができるよう、体系付けグループ化された専門分野(Fields of Concentration)科目群、特定の業界についての専門・周辺知識学習や事例研究等も含め、技術の実践的活用を念頭に置いた産業(Industry)科目群、さらにヒューマンスキルや高度な理論、最先端技術動向について学ぶ共通選択科目群(Supporting Elective)に大別する。

2 履修モデルの編成と実施方式

学修の目的・志向に応じて、広範なIT関連知識の中で特定の分野において基礎から応用・実践まで広く深い専門知識を身につけることに重きを置き、系統立てた特定の分野の科目を集めた各専門分野(Fields of Concentration)から、1つの分野を選択し学ぶものとする。これとは別に、多様な学生の個々の修学目的に応じた科目を選択する履修モデルとしてビスポーク(Bespoke)カリキュラムも選択可能とする。専門分野およびビスポーク(Bespoke)カリキュラムのなかで、ICTの適用分野である各種産業における個別の知識や問題発見・企画・設計力の養成、技術の実践的活用を目指す産業(Industry)科目を併せて選択して履修することもできる。

3 マスタープロジェクト (Master Project)

各種科目の履修と併せて、担当教員の指導のもとで様々なテーマを追求するマスタープロジェクト(Master Project)を遂行し、実践的な応用能力の育成を図る。

4 変化への対応

IT（ICT）分野の急速な発展に対応するため、高度専門職業人に必要とされるコンピテンシーの変化に合わせて、カリキュラムの見直しと更新を常に行う。

以上のように、本専攻の教育目的である、「本専攻は、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等の教授・研究を通じ、広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要とされる高度の技術能力を備えた、高度専門職業人の養成を目的とする」を踏まえ、カリキュラム・ポリシーには、「本学では、その使命・目的に基づき、IT（ICT）スキルとマネジメントスキルとを兼ね備えた、ウェブビジネス分野で活躍できる高度専門職業人を育成するためのカリキュラムを実施する。」と記載している。このように情報技術系の知識・スキル

とマネジメントスキルをバランスよく兼ね備え、自分の専門分野に関する知識を深めた、種々の分野において活躍できる高度専門職業人の養成を目標としている。例えば、IT (ICT) の知識を持った経営者、経営のセンスを持った技術者といったハイブリッドな高度専門職業人の育成を目指す。このような人材は、企業における最高情報統括責任者 (Chief Information Officer : CIO)、プロジェクトマネージャー、システム統合コンサルタント、ウェブ開発などの職種において、活躍することを想定している。また、IT (ICT) の導入により革新を図ろうとする IT (ICT) 系以外の様々な産業分野においても活躍する場があることは、昨今の IT (ICT) の利活用をみれば自明である。

このような人材を育成するため、科目を、特定の専門領域に関する知識を深めることができるよう体系付けグループ化された専門分野 (Fields of Concentration) 科目群、特定の業界についての専門・周辺知識学習や事例研究等も含め、技術の実践的活用を念頭に置いた産業 (Industry) 科目群、さらにヒューマンスキルや高度な理論、最先端技術動向について学ぶ共通選択科目群 (Supporting Elective) に大別し、設置している。これらの科目群に配属された各種科目の履修により、基礎から応用・実践まで広く深く高度な専門的知識を、事例や産業分野での課題などを例にとり学ぶ。カリキュラムの詳細については基準3(2)にて記述する。

(ii) カリキュラム・ポリシーの社会への開示

カリキュラム・ポリシーは学生便覧に記載すると共に、大学案内および本学ウェブサイトでも公表している。教員にも毎年、京都情報大学院大学大学案内および学生便覧を配布している。(資料番号 3-1, 資料番号 3-2)

(iii) カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性の確保

本学は、ディプロマ・ポリシーを以下のように定め、学生便覧により学生および教員へ周知している(基準1(2))。

本学においては、以下の3つの要件をすべて満たした者に対し、修士(専門職)の学位を授与する。

1. 定められた修了年限を全うすること
2. 定められた必要単位を修得すること
3. カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、高度専門職業人としての基盤となる知識、応用力、ならびに高い倫理観を身につけていること。

ディプロマ・ポリシーに関して、学則において定められた修業年限はこれを遵守する。また同様に履修規程において定められた必要単位を修得することを遵守する。(資料番号 3-3, 資料番号 3-4)

教育目標を達成するようにカリキュラム・ポリシーに従ってカリキュラムが設定されており、各学生は、アカデミックコーディネーター(各専門分野に割り当てられている学修指導教員)(役割など詳細は後述)のもとに自己の目標を考慮しつつ科目を選択履修し、科目に合格することで本専攻の教育目標の1~4(基準1(3)を参照)を達成する。このように設定されたカリキュラムに従って学修し、情報技術系の知識・スキルとマネジメントスキル及び専門分野に関する知識を学生個々の学修目的に応じてバランスよく兼ね備えた学生が修了する。このようにカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとは一貫している。

《引用・裏付資料名》

1. 『2022 学生便覧』専攻の教育目的とポリシーに関する記述部抜粋 (資料番号 3-1)
2. 『2022 年度大学案内』カリキュラム・ポリシーに関する記述部抜粋 (資料番号 3-2)

3. 京都情報大学院大学学則抄 (2022 年度) (資料番号 3-3, p. 561)
4. 京都情報大学院大学履修規程抄 (2022 年度) (資料番号 3-4, p. 564)

《实地調査閲覧資料名》

1. 2021 学生便覧 (資料番号 8)
2. 2022 学生便覧 (資料番号 3)
3. 京都情報大学院大学 2021 年大学案内 (資料番号 9)
4. 京都情報大学院大学 2022 年大学案内 (資料番号 2)

(2) カリキュラムの設計と開示

(i) 学習・教育目標を達成させるためのカリキュラム設計

IT や IT 応用ビジネスの発展とその多様化が近年においては急激に加速し、それに応じて社会に提供されるサービスも大きく変化してきている。このような変化にあっては、産業界は様々なジャンルの様々な仕事に対応できる人材を求めているため、本学では専門技術・専門的な知識とそれを応用・適用する分野の多様な組み合わせを可能とするよう科目群の再編成とカリキュラムの設計を行うこととした。カリキュラム改編の検討を行う WG (ワーキンググループ) は海外の大学で学んだ経験を有する教員を中心として、グローバルに学生募集が促進できるよう、留学生に対しても理解し易いものになるよう留意した。次に述べる「専門分野」の概念はアメリカの大学で用いられる、集中して学ぶ分野を意味する。

カリキュラム再編には独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) の提唱する、i コンピテンシディクショナリの考え方を参考にした。コンピテンシとは職業人に求められる、身につけているべき、知識・技術・態度・コミュニケーション能力である。i コンピテンシディクショナリは IT 関連の仕事の種類をタスク、仕事に必要な技術・知識をスキルとし、どのようなタスクをするにはどのようなスキルが必要であるかといったマトリックスで、IT 人材の総合的なスキルを評価し、また自分がどのレベルにいるかを把握し、さらに高度なスキルを身につけるためのロードマップを示すものである。

このようなスキルとタスクの観点で現在の科目を整理した。主に IT 分野に関する専門学術・専門技術分野について、本専攻の既存の科目群とそれらから学べる IT スキルを整理し、系統的に学べる科目とそれらの科目を中心に学ぶ「専門分野」(2019 年度以前はコンセントレーションと呼称) を定め、次の 8 つ分野を設定している。

人工知能 (2021 年度秋学期より)

データサイエンス (2022 年度よりビジネスデータアナリティクスから改称)

ウェブシステム開発

ネットワーク管理

グローバル・アントレプレナーシップ (2021 年度より IT アントレプレナーシップから改称)

ERP

IT マンガ・アニメ

観光 IT (2019 年度秋学期より専門分野化)

※ERP は、Enterprise Resource Planning ; 企業資源計画の略称

セメスタごとに履修を推奨する科目を示した推奨履修パターンとして、本学では各専門分野のコースパスウェイ (セメスタごとに履修を推奨する科目を示した推奨履修パターン) を定め、学生へ 2021 年度までは KING-LMS (本学における学習管理システム (Learning Management System:LMS)) で、2022 年度以降はキャンパスプランポータルからアクセスできるファイル公開フォルダ「キャビネット」で教員・学生向けにファイルを公開している。専門分野ごとのコースパスウェイとして具体的に図 3-1 のように設定している (2022 年度春学期の例)。なお、緑色枠内の科目は、専門分野認定 (後述) の対象となる科目である。

図 3-1 各専門分野のコースパスウェイ

人工知能

1セメスタ 1st Semester	2セメスタ 2nd Semester	3セメスタ 3rd Semester	4セメスタ 4th Semester	
人工知能概論 Fundamentals of Artificial Intelligence 2 単位 / credits	機械学習 Machine Learning and its Application 2 単位 / credits	ゲームと人工知能 Games and Artificial Intelligence 2 単位 / credits	フィンテック論 Fundamentals of FinTech 2 単位 / credits	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">コア科目 Core Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎科目 Foundational Course</div>
アルゴリズム概論 Fundamentals of Algorithms 2 単位 / credits	組合せ最適化 Combinatorial Optimization 2 単位 / credits	自然言語処理 Natural Language Processing 2 単位 / credits	人工知能産業先端事例研究 Artificial Intelligence for Agriculture -Advanced Case Study- 2 単位 / credits	
コンピュータプログラミング (Python) Computer Programming (Python) 3 単位 / credits	人工知能ソフトウェア活用 I AI Software Applications 1 2 単位 / credits	音声理解 Speech Understanding 2 単位 / credits	新事業と人工知能 New Business and Artificial Intelligence 2 単位 / credits	
データベース概論 Fundamentals of Database Technology 2 単位 / credits	人工知能のための数学 Mathematics for AI 2 単位 / credits	先端医療情報学 Medical Frontier Informatics 2 単位 / credits	Advanced Business ICT Communication 3 credits E	
コンピュータ概論 Computer Organization 2 単位 / credits	データマイニング Data Mining 2 単位 / credits	ロボットと人工知能 Robots and Artificial Intelligence 2 単位 / credits		
ITのための統計学 Statistics for IT 2 単位 / credits	データ解析 I Data Analysis 1 2 単位 / credits	IoTと人工知能 IoT and Artificial Intelligence 3 単位 / credits		
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2 単位 / credits	オブジェクト指向プログラミング Object Oriented Programming 4 単位 / credits	人工知能ソフトウェア活用 II AI Software Applications 2 2 単位 / credits		
	データベース特論 Advanced Topics in Database Technology 4 単位 / credits	データ解析 II Data Analysis 2 2 単位 / credits		
		ロジカルシンキング Logical Thinking 2 単位 / credits		
		Business ICT Communication 3 credits E		
	マスタープロジェクト Master Project 6 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2 単位 / credits	
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2 単位 / credits	プロジェクト基礎講義 Project Foundations 2 単位 / credits	※ マスタープロジェクトの中に、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のテーマズマスタープロジェクト (2単位)、MP-6のテーマズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができる。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses.		
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2 単位 / credits		※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.		
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

データサイエンス

1セメスタ 1st Semester	2セメスタ 2nd Semester	3セメスタ 3rd Semester	4セメスタ 4th Semester	
コンピュータプログラミング概論 Fundamentals of Computer Programming 2 単位 / credits	データ解析 I Data Analysis 1 2 単位 / credits	eコマースの購手法 E-Commerce Methodologies 2 単位 / credits	データウェアハウスとビッグデータ Data Warehouses and Big Data 2 単位 / credits	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">コア科目 Core Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎科目 Foundational Course</div>
ウェブビジネス概論 Introduction to Web Business 2 単位 / credits	ウェブプログラミング II Web Programming 2 2 単位 / credits	定性データ分析技法 Qualitative Data: Analysis and Transformation 2 単位 / credits	応用情報学最先端A インメモリデータベース Advanced Cutting Information A (In Memory Database) 1 単位 / credits	
データベース概論 Fundamentals of Database Technology 2 単位 / credits	探索的データ解析と可視化 Exploratory Data Analysis and Visualization 4 単位 / credits	インターネットビジネスストラテジーとマーケティング Internet Business Strategy and Marketing 2 単位 / credits	フィンテック論 Fundamentals of FinTech 2 単位 / credits	
ITのための統計学 Statistics for IT 2 単位 / credits	データマイニングの基礎理論 Theories of Data Mining 2 単位 / credits	実践クラウドコンピューティング Practical Cloud Computing 2 単位 / credits	経営学特論 Advanced Topics in Business Administration 2 単位 / credits	
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2 単位 / credits	情報倫理特論 Advanced topics in Information Ethics 2 単位 / credits	組織行動学 Organizational Behaviour 2 単位 / credits	Advanced Business ICT Communication 3 credits E	
コンピュータ概論 Computer Organization 2 単位 / credits	データベース特論 Advanced Topics in Databases Technology 4 単位 / credits	データ解析 II Data Analysis 2 2 単位 / credits		
ウェブプログラミング I Web Programming 1 2 単位 / credits		Business ICT Communication 3 credits E		
	マスタープロジェクト Master Project 6 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2 単位 / credits	
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2 単位 / credits	プロジェクト基礎講義 Project Foundations 2 単位 / credits	※ マスタープロジェクトの中に、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のテーマズマスタープロジェクト (2単位)、MP-6のテーマズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができる。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses.		
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2 単位 / credits		※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.		
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

ウェブシステム開発

1 セメスタ 1st Semester	2 セメスタ 2nd Semester	3 セメスタ 3rd Semester	4 セメスタ 4th Semester	
ウェブ技術概論 Introduction to Web Technology 2 単位 / credits	ウェブプログラミング II Web Programming 2 2 単位 / credits	ウェブプログラミング III Web Programming 3 4 単位 / credits	ソフトウェア工学 Software Engineering 2 単位 / credits	<div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; text-align: center;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; text-align: center;">コア科目 Core Course</div> <div style="background-color: orange; padding: 5px; text-align: center;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="background-color: purple; padding: 5px; text-align: center;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="background-color: blue; padding: 5px; text-align: center;">基礎科目 Foundational Course</div>
ウェブビジネス概論 Introduction to Web Business 2 単位 / credits	オブジェクト指向システム設計 Object Oriented Systems Design 4 単位 / credits	オブジェクト指向プログラミング Object Oriented Programming 4 単位 / credits	モバイルアプリ開発 Mobile Application Development 2 単位 / credits	
コンピュータプログラミング (Python) Computer Programming (Python) 3 単位 / credits	データベース特論 Advanced Topics in Database Technology 4 単位 / credits	デザインシンキング Design Thinking 4 単位 / credits	ウェブサービス構築技法 Web Services Development 4 単位 / credits	
ウェブプログラミング I Web Programming 1 2 単位 / credits	人工知能ソフトウェア活用 I AI Software Applications 1 2 単位 / credits	Business ICT Communication 3 credits E	Advanced Business ICT Communication 3 credits E	
情報ネットワーク概論 Fundamentals of Networking 2 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 6 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2 単位 / credits	
データベース概論 Fundamentals of Database Technology 2 単位 / credits	コンピュータ構成論 Computer Organization 2 単位 / credits			
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2 単位 / credits	ITのための統計学 Statistics for IT 2 単位 / credits	<small>※ マスタープロジェクトの中に、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のサナズマスタープロジェクト (2単位)、MP-6のサナズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができる。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses. ※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.</small>		
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2 単位 / credits	プロジェクト基礎演習 Project Foundations 2 単位 / credits			
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2 単位 / credits				
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

ネットワーク管理

1 セメスタ 1st Semester	2 セメスタ 2nd Semester	3 セメスタ 3rd Semester	4 セメスタ 4th Semester	
ウェブ技術概論 Introduction to Web Technology 2 単位 / credits	情報セキュリティ Information Security 2 単位 / credits	情報ネットワーク特論 Advanced Studies in Networking 2 単位 / credits	IoTと人工知能 IoT and Artificial Intelligence 3 単位 / credits	<div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; text-align: center;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; text-align: center;">コア科目 Core Course</div> <div style="background-color: orange; padding: 5px; text-align: center;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="background-color: purple; padding: 5px; text-align: center;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="background-color: blue; padding: 5px; text-align: center;">基礎科目 Foundational Course</div>
コンピュータプログラミング (Python) Computer Programming (Python) 3 単位 / credits	サイバーセキュリティ Cyber Security 4 単位 / credits	IoTと無線ネットワーク IoT and Wireless Networks 3 単位 / credits	クラウドネットワークと仮想化 Cloud Networking and Virtualization 3 単位 / credits	
情報ネットワーク概論 Fundamentals of Networking 2 単位 / credits	人工知能ソフトウェア活用 I AI Software Applications 1 2 単位 / credits	ネットワークシステム管理 System Administration 2 単位 / credits	経路制御と交換特論 Advanced Routing and Switching 4 単位 / credits	
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2 単位 / credits	新ビジネスのためのルール New Laws for the Entrepreneur 2 単位 / credits	経路制御と交換 Routing and Switching 2 単位 / credits	ウェブサービス構築技法 Web Services Development 4 単位 / credits	
データベース概論 Fundamentals of Database Technology 2 単位 / credits	情報倫理特論 Advanced Topics in Information Ethics 2 単位 / credits	Business ICT Communication 3 credits E	Advanced Business ICT Communication 3 credits E	
ウェブプログラミング I Web Programming 1 2 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 6 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2 単位 / credits	
コンピュータ構成論 Computer Organization 2 単位 / credits				
ITのための統計学 Statistics for IT 2 単位 / credits		<small>※ マスタープロジェクトの中に、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のサナズマスタープロジェクト (2単位)、MP-6のサナズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができる。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses. ※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.</small>		
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2 単位 / credits	プロジェクト基礎演習 Project Foundations 2 単位 / credits			
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2 単位 / credits				
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

グローバル・アントレプレナーシップ

1セメスタ 1st Semester	2セメスタ 2nd Semester	3セメスタ 3rd Semester	4セメスタ 4th Semester	
ビジネスエコノミクスII Business Economics 2 2単位 / credits	プロジェクトマネジメント Project Management 2単位 / credits	グローバル人材開発 Global Human Resource Development 2単位 / credits	ゲーム理論と交渉術 Game Theory and Negotiation 2単位 / credits	<div style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">コア科目 Core Course</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">基礎科目 Foundational Course</div>
ビジネスエコノミクスI Business Economics 1 2単位 / credits	グローバル・アントレプレナーシップ ビジネスモデル Global Entrepreneurship and Business Models 2単位 / credits	インターネットビジネス戦略とマーケティング Internet Business Strategies and Marketing 2単位 / credits	経営学特論 Advanced Topics in Business Administration 2単位 / credits	
ウェブビジネス概論 Introduction to Web Business 2単位 / credits	実践クラウドコンピューティング Practical Cloud Computing 2単位 / credits	eコマースの諸手法 E-Commerce Methodologies 2単位 / credits	新ビジネスのためのルール New Laws for the Entrepreneur 2単位 / credits	
ITのための統計学 Statistics for IT 2単位 / credits	知的財産権法 Intellectual Property Rights Law 2単位 / credits	デザインシンキング Design Thinking 4単位 / credits	持続的成長のためのリーダーシップ Leading Meaningfully for Sustainable Growth 2単位 / credits	
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2単位 / credits	IT企業実践 Current Issues in IT Industry 2単位 / credits	企業経営実践 Practical Studies for Business Management 2単位 / credits	Advanced Business ICT Communication 3 credits E	
ウェブプログラミング1 Web Programming 1 2単位 / credits	情報倫理特論 Advanced Topics in Information Ethics 2単位 / credits	ブランドデザインと経営 Brand Design and Business Management 2単位 / credits		
	組織行動学 Organizational Behaviour 2単位 / credits	ITビジネス交渉学 IT Business Negotiation 2単位 / credits		
		Business ICT Communication 3 credits E		
	マスタープロジェクト Master Project 6単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2単位 / credits	
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2単位 / credits	プロジェクト基礎特論 Project Foundations 2単位 / credits	<small>※ マスタープロジェクトの中に、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のオナーズマスタープロジェクト (2単位)、MP-5のオナーズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができる。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses.</small>		
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2単位 / credits		<small>※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.</small>		
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

ERP

1セメスタ 1st Semester	2セメスタ 2nd Semester	3セメスタ 3rd Semester	4セメスタ 4th Semester	
企業システム Information Systems for Enterprises 2単位 / credits	財務会計システム開発 I・II Financial Accounting System Development 1/2 3単位 (各) / credits (each)	販売物流システム開発 I・II Sales and Distribution System Development 1/2 3単位 (各) / credits (each)	ERPコンサルティング特論 Advanced Topics in ERP Consultation 2単位 / credits	<div style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">コア科目 Core Course</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">基礎科目 Foundational Course</div>
業務の統合化とeビジネス System Integration and e-Business 4単位 / credits	ERP業務アプリケーション開発 ERP Business Application Development 3単位 / credits	購買在庫システム開発 Material Management System Development 3単位 / credits	人事管理システム開発 Human Resource Management System Development 3単位 / credits	
国際会計学 International Accounting 2単位 / credits	生産管理システム開発 Production Control System Development 3単位 / credits	オブジェクト指向プログラミング Object Oriented Programming 4単位 / credits	Advanced Business ICT Communication 3 credits E	
ウェブプログラミング1 Web Programming 1 2単位 / credits	ウェブプログラミング II Web Programming 2 2単位 / credits	Business ICT Communication 3 credits E		
ITのための統計学 Statistics for IT 2単位 / credits	データベース概論 Fundamentals of Database Technology 2単位 / credits			
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 6単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2単位 / credits	
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2単位 / credits	プロジェクト基礎特論 Project Foundations 2単位 / credits	<small>※ マスタープロジェクトの中に、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のオナーズマスタープロジェクト (2単位)、MP-5のオナーズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができる。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses.</small>		
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2単位 / credits		<small>※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.</small>		
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

IT マンガ・アニメ

1セメスタ 1st Semester	2セメスタ 2nd Semester	3セメスタ 3rd Semester	4セメスタ 4th Semester	
リッチメディアコンテンツ開発 Rich Media Content Development 4単位 / credits	デジタル・アニメーション制作 Digital Animation Creation 3単位 / credits	コンピュータグラフィックス Computer Graphics 2単位 / credits	デジタル・オーディオ制作 Digital Audio Production 2単位 / credits	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">コア科目 Core Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎科目 Foundational Course</div>
アニメ作画基礎A Animation Drawing Fundamentals A 2単位 / credits	アニメ企画・制作・プロモーション特論 Special Topics in Anime, Planning, Production and Promotion 2単位 / credits	映像構成論 Visual Story Telling and Communication 3単位 / credits	特殊映像技法特論 Advanced Special Visual Effects 3単位 / credits	
コンテンツ産業特論 Special Topics in Contents Industry 2単位 / credits	シナリオ・ストーリーボード Scenario Writing and Storyboarding 2単位 / credits	実践アニメ制作論 Practical Animation Production 2単位 / credits	舞台芸術とIT Entertainment in IT 2単位 / credits	
ウェブプログラミング1 Web Programming 1 2単位 / credits	ビジュアル・プロセッシング Visual Image Processing 2単位 / credits	特殊映像技法 Special Visual Effects 3単位/3 credits	ブランドデザインと経営 Brand Design and Business Management 2単位 / credits	
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2単位 / credits	アニメ作画基礎B Animation Drawing Fundamentals B 2単位 / credits	Business ICT Communication 3 credits / E	Advanced Business ICT Communication 3 credits / E	
コンピュータ構成論 Computer Organization 2単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 6単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2 単位 / credits	
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2単位 / credits	プロジェクト基礎演習 Project Foundations 2単位 / credits	<small>※ マスタープロジェクトの中には、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のオアーズマスタープロジェクト (2単位)、MP-6のオアーズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができます。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses. ※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.</small>		
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2単位 / credits				
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

観光 IT

1セメスタ 1st Semester	2セメスタ 2nd Semester	3セメスタ 3rd Semester	4セメスタ 4th Semester	
観光ビジネス概論 Fundamentals of Tourism Business 2単位 / credits	観光デザイン Tourism Design 2単位 / credits	ツーリズム・目的地・観光マネジメント Tourism Destination Management 2単位 / credits	観光IT特論 Advanced Topics in IT Tourism 2単位 / credits	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">必修科目 Mandatory Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">コア科目 Core Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">専門科目 Concentration Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">産業科目 共通選択科目 Industry Course Supporting Elective Course</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎科目 Foundational Course</div>
観光IT概論 Fundamentals of IT Tourism 2単位 / credits	グローバル人材開発論 Global Human Resource Development 2単位 / credits	観光データ分析 Tourism Data Analysis 2単位 / credits	観光ITインターンシップ IT Tourism Internship 2単位 / credits	
プロジェクトマネジメント Project Management 2単位 / credits	ウェブプログラミングII Web Programming 2 2単位 / credits	オブジェクト指向システム設計 Object Oriented Systems Design 4単位 / credits	モバイルアプリ開発 Mobile Application Development 2単位 / credits	
日本社会 Understanding the Japanese Society 2単位 / credits	ビジネスエコノミクスI Business Economics 1 2単位 / credits	データ解析1 Data Analysis 1 2単位 / credits	リッチメディアコンテンツ開発 Rich Media Content Development 4単位 / credits	
コンピュータプログラミング概論 Fundamentals of Computer Programming 2単位 / credits	メディアコミュニケーション Media Communication 2単位 / credits	アニメ企画・制作・プロモーション特論 Special Topics in Anime, Planning, Production and Promotion 2単位 / credits	特殊映像技法 Special Visual Effects 3単位 / credits	
ウェブプログラミングI Web Programming 1 2単位 / credits		映像構成論 Visual Story Telling and Communication 3単位 / credits	ブランドデザインと経営 Brand Design and Business Management 2単位 / credits	
ITのための統計学 Statistics for IT 2単位 / credits		Business ICT Communication 3 credits / E	Advanced Business ICT Communication 3 credits / E	
応用情報技術のための数学 Fundamental Mathematics for Applied Informatics 2単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 6単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2,4 単位 / credits	マスタープロジェクト Master Project 0,2 単位 / credits	
ICT 実践コミュニケーション Professional Communications in the ICT Industry 2単位 / credits	プロジェクト基礎演習 Project Foundations 2単位 / credits	<small>※ マスタープロジェクトの中には、MP-0のマスターレポート (0単位)、MP-2のマスタープロジェクト (2単位)、MP-4のオアーズマスタープロジェクト (2単位)、MP-6のオアーズマスター論文 (2単位) はコア科目に含めることができます。 * Only Master report (0credit), Master Project (2 credits), Honors Master Project (2 credits), and Honors Master Thesis (2 credits) can be included in the core courses. ※ 緑色の枠内の科目は専門分野認定科目を示しています。 * The courses in the green frame indicate the field of concentration certificate courses.</small>		
リーダーシップセオリー Leadership Theory 2単位 / credits				
他の専門分野科目、産業科目、共通選択科目より選択 Courses from other Concentrations, Industries, and Supporting Electives	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	左に同じ (same as on the left)	

本専攻では、特定の専門領域に関する知識を深めることができるよう専門分野ごとに体系付けグループ化された専門分野 (Fields of Concentration) 科目群、特定の産業界についての専門・周辺知識学習や事例研究等も含め、技術の実践的活用を念頭に置き産業界ごとにグループ化された産業 (Industry) 科目群、これらに加えて、ヒューマンスキルや高度な理論、最先端技術動向について学ぶ共通選択科目群 (Supporting Elective) に大別している。

また、IT を産業界に最適に適用するには、その分野の特有の課題や問題点を理解しなければならない。対象とする分野そのものの知識がまず必要である。このような観点から、産業界の課題や実例などを基に実践的な IT の応用・適用技術や問題発見、関連・周辺知識を広く学ぶ科目の系統を、上述のとおり「産業科目群」として定め、次の6つの分野を設定した。

金融／農業／海洋／医療・健康／コンテンツマーケティング／教育

学生は個々の目的・目標に応じて、一つの専門分野を選択して専門分野を中心に関連する選択科目等を含めて学ぶ、あるいは、専門分野に依らず個々の目的に合うよう、アカデミックコーディネーターと相談して科目を履修する「ビスポークカリキュラム」(2020年度以降の入学より「一般ITモデル」から改称)のいずれかの方法で、履修計画を立てる。さらに特定の専門分野と特定の産業科目を修得することで、組み合わせ的に、産業界で求められている様々な要求に応えることのできる人材を育成することができる。図3-2はこの組合せにより、修了後に如何なる進出分野が考えられるかの例を示している。多くの産業分野において、今後もITの応用・活用が見込まれ、発展が予想されており、「産業科目群」のカテゴリーは今後さらに種類を増やし各内容の充実を図っていく予定である。特定の産業科目を履修することで、どの産業に適用し、またその産業の特定の要件は何であるのかなど、より焦点を絞った形でITの活用を学び考えることができ、実践的で実用的な知識を得た人材を育成することができる。学生には入学時の新入生オリエンテーションにてカリキュラムの詳細説明を行っている。(資料番号 3-5, 資料番号 3-6)

図3-2 「技術分野×産業分野」の組合せによる修了後の進出分野の例

		産業分野					
		教育	コンテンツマーケティング	農業	海洋	医療・健康	金融
専門分野	人工知能	メンター/チューター・システムの開発と運用	EC向けレコメンデーションシステム開発と運用	需要予測・生産管理システムの開発と運用	資源保護アセスメントシステムの開発と運用	医療支援・ヘルスケアシステムの開発	与信評価システムの開発と運用
	データサイエンス	eラーニングシステム利用者分析	アナリティクス・レポートイング	各産業分野においてデータ分析によるマイニング			アナリティクス・レポートイング
	ウェブシステム開発	eラーニングシステム開発	ウェブサービス開発	IoTアプリケーション開発			ウェブサービス開発
	ネットワーク管理	eラーニングシステム開発・セキュリティ	セキュリティコンサルテーション	IoTアプリケーション・セキュリティコンサルテーション			セキュリティコンサルテーション
	グローバル・アントレプレナーシップ	各産業分野での起業					
	ERP	各産業分野でのERPコンサルタント					
	ITマンガ・アニメ	教材クリエイター、コンテンツマーケティング開発	各産業分野においてIT活用に関する説明・教育用コンテンツ制作				説明・教育用コンテンツ制作
	観光IT	説明用・観光マーケティング用コンテンツ制作		各分野におけるツーリズム・デスティネーション・マーケティングと開発			観光産業分析

産業科目は、学生が学修目的や目標に応じて履修することで、専門分野科目で修得した知識やITスキルを適用および応用する特定の業界における専門知識や技術の実践的活用を学び、修了後に図3-2で示した分野への進出に繋がるように設定している。

カリキュラムに設定された科目を履修し、合格することで、その科目に設定された目標（表 3-1）基準 3（2）（表 2）「授業科目の学習・教育目標に対する関与の程度」を達成し、本専攻の教育目標であるところの、「基礎的要素の確保」「企画・設計能力の向上」「開発・運用能力の向上」「職業人意識と倫理観の醸成」を達成する。各々の科目と本専攻の教育目標との対応について、次のように説明する。

各科目と教育目標との関与の程度については、主体的に関与（◎），付随的に関与（○）の別を表記するよう指示があるが、本専攻では各々の科目に教育目標を対応させているので、（◎）で表記している。そしてそれらは各科目の授業シラバスに「教育目標との対応」の欄を設け示している。（資料番号 3-7）

表 3-1 では、基準 3（2）（表 2）のうち、2022 年度ものを示す。また、表 3-1 で示した各科目コードの先頭のアルファベットは、次のように、各科目についてどの専門分野が授業内容を検討及び決定するかを示す。（資料番号 3-8）

A:IT マンガ・アニメ / B:データサイエンス（ビジネスデータアナリティクス） / E:ERP / F:グローバル・アントレプレナーシップ（IT アントレプレナーシップ） / J:人工知能 / K:観光 IT / N:ネットワーク管理 / W:ウェブシステム開発

また、R は必修科目，SA, SC, SE, SF, SM は産業科目，G は共通選択科目を示す。S は、IT の知識が不十分な入学者に対して IT の基礎知識を学習させる導入的役割の科目（基礎科目）を示している（2022 年度秋学期以降）。

表 3-1 （表 2） 授業科目の学習・教育目標に対する関与の程度（2022 年度の例）

必修科目

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
ICT実践コミュニケーション	R0010	2	◎			◎
リーダーシップセオリー	R0020	2	◎	◎		◎
プロジェクト基礎演習	R0040	2		◎	◎	◎
マスタープロジェクト (MP)	MR000/MP020/ HP020/HT020	0/2/2/2		◎	◎	◎

専門分野：人工知能

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
コンピュータ構成論	N0000(春まで), S0000(秋より)	2	◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
データベース概論	B0000(春まで), S0040(秋より)	2	◎	◎		
人工知能概論	J0000	2	◎	◎		
アルゴリズム概論	J0010	2		◎	◎	
コンピュータプログラミング (Python)	J0020	3	◎	◎		
人工知能のための数学	B0020(春まで), J0030(秋より)	2			◎	
データ解析 I	J0040	2	◎			
データマイニング	J0050	2	◎	◎		
人工知能ソフトウェア活用 I	J0060	2		◎	◎	
組合せ最適化	J0070	2	◎	◎		
機械学習	B5040(春まで), J5120(秋より)	2		◎	◎	
データベース特論	B5100	4		◎	◎	
オブジェクト指向プログラミング	W5020	4	◎	◎		
IoT と人工知能	J5010	3		◎	◎	
ロボットと人工知能	J5020	2		◎	◎	
データ解析 II	J5040	2		◎		
ゲームと人工知能	J5050	2		◎	◎	
人工知能ソフトウェア活用 II	J5060	2		◎	◎	
ロジカルシンキング	J5100	2	◎			◎
先端医療情報学	SH020	2			◎	
自然言語処理	J5080	2		◎	◎	
音声理解	J5090	2		◎	◎	
人工知能農業先端事例研究	J5070	2		◎	◎	

新事業と人工知能	J5110	2		◎	◎	
フィンテック論	SF010	2	◎	◎		
リサーチプロジェクトイン ディペンデント・スタディ	YJ200/YJ300	2/2		◎	◎	◎

専門分野：データサイエンス（旧ビジネスデータアナリティクス）

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
コンピュータ構成論	N0000(春まで), S0000(秋より)	2	◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
コンピュータプログラミング概論	B0050(春まで), S0030(秋より)	2	◎			
データベース概論	B0000(春まで), S0040(秋より)	2	◎	◎		
ウェブプログラミング I	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
ウェブビジネス概論	F0030	2	◎	◎		
データマイニングの基礎理論	B5030	2	◎	◎		
定性データ分析技法	B5010	2		◎	◎	
探索的データ解析と可視化	B5020	4		◎		
データベース特論	B5100	4		◎	◎	
情報倫理特論	F0020	2	◎			◎
データ解析 I	J0040	2	◎			
ウェブプログラミング II	W5000	2		◎	◎	
インターネットビジネス ストラテジーとマーケティング	F5100	2		◎		
e コマースの諸手法	F5110	2		◎		
実践クラウドコンピューティング	F5230	2			◎	
組織行動学	F0010	2	◎			◎
データ解析 II	J5040	2		◎		
経営学特論	F5010	2	◎	◎		

データウェアハウスとビッグデータ	B5200	2		◎	◎	
応用情報学最先端A インメモリデータベース	G5500(春まで), G5510(秋より)	1		◎	◎	
フィンテック論	SF010	2	◎	◎		
リサーチプロジェクトインディペンデント・スタディ	YB200/YB300	2/2		◎	◎	◎

専門分野：ウェブシステム開発

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
データベース概論	B0000(春まで), S0040(秋より)	2	◎	◎		
情報ネットワーク概論	N0010(春まで), S0050(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミングⅠ	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
ウェブビジネス概論	F0030	2	◎	◎		
ウェブ技術概論	N5200	2	◎	◎		
コンピュータプログラミング (Python)	J0020	3	◎	◎		
コンピュータ構成論	N0000(春まで), S0000(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミングⅡ	W5000	2		◎	◎	
オブジェクト指向システム設計	W5100	4		◎	◎	
データベース特論	B5100	4		◎	◎	
人工知能ソフトウェア活用Ⅰ	J0060	2		◎	◎	
ウェブプログラミングⅢ	W5010	4		◎	◎	
オブジェクト指向プログラミング	W5020	4	◎	◎		
デザインシンキング	W5120	4		◎	◎	
ウェブサービス構築技法	N5210	4			◎	
ソフトウェア工学	W5110	2		◎		

モバイルアプリ開発	W5200	2		◎	◎	
リサーチプロジェクトイン ディペンデント・スタディ	YW200/YW300	2/2		◎	◎	◎

専門分野：ネットワーク管理

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の 確保	(2) 企画・設計能 力の向上	(3) 開発・運用能 力の向上	(4) 職業人意識と 倫理観の醸成
コンピュータ構成論	N0000(春まで), S0000(秋より)	2	◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
データベース概論	B0000(春まで), S0040(秋より)	2	◎	◎		
情報ネットワーク概論	N0010(春まで), S0050(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
ウェブ技術概論	N5200	2	◎	◎		
コンピュータプログラミング (Python)	J0020	3	◎	◎		
情報倫理特論	F0020	2	◎			◎
新ビジネスのためのルール	F5240	2		◎	◎	
情報セキュリティ	N5100	2		◎	◎	
サイバーセキュリティ	N5250	4		◎	◎	
人工知能ソフトウェア活用 I	J0060	2		◎	◎	
ネットワークシステム管理	N5000	2		◎	◎	
IoT と無線ネットワーク	N5020	3		◎	◎	
情報ネットワーク特論	N5110	2	◎	◎		
経路制御と交換	N5120	2		◎	◎	
クラウドネットワークと仮想化	N5010	3		◎	◎	
ウェブサービス構築技法	N5210	4			◎	
経路制御と交換特論	N5520	4		◎	◎	
IoT と人工知能	J5010	3		◎	◎	

リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YN200/YN300	2/2		◎	◎	◎
---------------------------	-------------	-----	--	---	---	---

専門分野：グローバル・アントレプレナーシップ（旧 IT アントレプレナーシップ）

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
ウェブビジネス概論	F0030	2	◎	◎		
ビジネスエコノミクス I	F0040	2	◎			
ビジネスエコノミクス II	F5030	2	◎			
組織行動学	F0010	2	◎			◎
情報倫理特論	F0020	2	◎			◎
知的財産権法	F5000	2	◎			◎
IT 企業実践論	F5050	2		◎		◎
実践クラウドコンピューティング	F5230	2			◎	
グローバル・アントレプレナーシップとビジネスモデル	F5300	2		◎		◎
プロジェクトマネジメント	G5230	2			◎	◎
企業経営実践論	F5040	2			◎	◎
ブランドデザインと経営	F5060	2	◎			◎
インターネットビジネス戦略とマーケティング	F5100	2		◎		
e コマースの諸手法	F5110	2		◎		
IT ビジネス交渉学	F5210	2				◎
デザインシンキング	W5120	4		◎	◎	
グローバル人材開発論	K0040	2				◎
持続的成長のためのリーダーシップ	F0000	2	◎			◎
経営学特論	F5010	2	◎	◎		
ゲーム理論と交渉術	F5220	2		◎	◎	

新ビジネスのためのルール	F5240	2		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YF200/YF300	2/2		◎	◎	◎

専門分野：ERP

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミングⅠ	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
企業システム	E0000	2	◎	◎		
業務の統合化とeビジネス	E0010	4		◎	◎	
国際会計学	E0020	2	◎			
データベース概論	B0000(春まで), S0040(秋より)	2	◎	◎		
ウェブプログラミングⅡ	W5000	2		◎	◎	
財務会計システム開発Ⅰ	E5100	3			◎	
財務会計システム開発Ⅱ	E5110	3			◎	
生産管理システム開発	E5300	3			◎	
ERP業務アプリケーション開発	E5330	3		◎	◎	
販売物流システム開発Ⅰ	E5200	3			◎	
販売物流システム開発Ⅱ	E5210	3			◎	
購買在庫システム開発	E5310	3			◎	
オブジェクト指向プログラミング	W5020	4	◎	◎		
人事管理システム開発	E5320	3			◎	
ERPコンサルティング特論	E5350	2		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YE200/YE300	2/2		◎	◎	◎

専門分野：IT マンガ・アニメ

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
コンピュータ構成論	N0000(春まで), S0000(秋より)	2	◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
アニメ作画基礎 A	A0100	2	◎			◎
リッチメディアコンテンツ開発	A5200	4	◎		◎	
コンテンツ産業特論	SC000	2		◎		◎
アニメ作画基礎 B	A0110	2	◎			◎
デジタル・アニメーション制作	A5100	3	◎	◎		
シナリオ・ストーリーボーディング	A5110	2		◎		
ビジュアル・プロセッシング	G5260	2	◎		◎	
アニメ企画・製作・プロモーション特論	A5400	2		◎		◎
映像構成論	A5210	3	◎	◎		
特殊映像技法	A5220	3		◎	◎	
コンピュータグラフィックス	A5430	2		◎	◎	
実践アニメ製作論	A5500	2		◎		◎
デジタル・オーディオ制作	A5300	2	◎		◎	
特殊映像技法特論	A5320	3		◎	◎	
ブランドデザインと経営	F5060	2	◎			◎
舞台芸術と IT	SC020	2		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YA200/YA300	2/2		◎	◎	◎

専門分野：観光 IT

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
応用情報技術のための数学	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
ITのための統計学	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
コンピュータプログラミング概論	B0050(春まで), S0030(秋より)	2	◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
観光 IT 概論	K0000	2	◎	◎		
観光ビジネス概論	K0020	2		◎		
日本社会	K0030	2		◎		
プロジェクトマネジメント	G5230	2			◎	◎
ビジネスエコノミクス I	F0040	2	◎			
メディアコミュニケーション	G5110	2		◎	◎	
グローバル人材開発論	K0040	2				◎
観光デザイン	K5050	2	◎	◎	◎	
ウェブプログラミング II	W5000	2		◎	◎	
映像構成論	A5210	3	◎	◎		
アニメ企画・製作・プロモーション特論	A5400	2		◎		◎
ツーリズムデスクティネーションマネジメント	K5020	2	◎	◎		
観光データ分析	K5030	2	◎	◎		
オブジェクト指向システム設計	W5100	4		◎	◎	
データ解析 I	J0040	2	◎			
リッチメディアコンテンツ開発	A5200	4	◎		◎	
特殊映像技法	A5220	3		◎	◎	
ブランドデザインと経営	F5060	2	◎			◎
観光 IT 特論	K5040	2		◎	◎	
観光 IT インターンシップ	K5100	2		◎	◎	◎
モバイルアプリ開発	W5200	2		◎	◎	

リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YK200/YK300	2/2		◎	◎	◎
---------------------------	-------------	-----	--	---	---	---

産業科目

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
金融						
金融論	SF000	2	◎	◎	◎	
フィンテック論	SF010	2	◎	◎		
フィンテックシステム設計	SF020	2		◎	◎	
農業						
次世代農業情報学	SA000	2	◎	◎		
農業経済学	SA010	2	◎			
農業情報システム設計	SA020	2		◎	◎	
海洋						
海洋産業論	SM000	2	◎			◎
海洋情報システム設計	SM010	2		◎	◎	
マリン IT 概論 (春まで)	SM020	2	◎			
海洋 IT 概論 (秋より)	SM030	2	◎			
医療・健康						
医療情報と法	SH000	2	◎			◎
医療情報システム設計	SH010	2		◎	◎	
先端医療情報学	SH020	2	◎			
コンテンツマーケティング						
コンテンツ産業特論	SC000	2		◎		◎
音楽とテクノロジー	SC010	2		◎		
舞台芸術と IT	SC020	2		◎	◎	
コンテンツ・プロモーション戦略	SC030	2		◎		◎
教育						
e ラーニングシステム概論	SE010	2		◎		
e ラーニングビジネスにおけるインストラクショナル・デザイン	SE020	2		◎	◎	
e ラーニング教材開発	SE030	2			◎	
図書館情報学	SE050	2	◎			◎

学校・企業内教育国際比較研究	SE060	2	◎			
----------------	-------	---	---	--	--	--

共通選択科目

※印の科目は秋学期より基礎科目として学生便欄へ記載

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
ウェブプログラミング I (※)	W0010(春まで), S0060(秋より)	2	◎			
データベース概論 (※)	B0000(春まで), S0040(秋より)	2	◎	◎		
コンピュータ構成論 (※)	N0000, S0000(秋より)	2	◎			
情報ネットワーク概論 (※)	N0010(春まで), S0050(秋より)	2	◎			
ITのための統計学 (※)	B0040(春まで), S0020(秋より)	2	◎			
応用情報技術のための数学 (※)	G0060(春まで), S0010(秋より)	2	◎			
コンピュータプログラミング概論 (※)	B0050(春まで), S0030(秋より)	2	◎			
技術コミュニケーション	G0000	2	◎			◎
ビジネスプレゼンテーション	G0010	2	◎		◎	
応用技術動向研究	G0030	2	◎	◎		◎
建築IT概論	G0070	2	◎			
ビジネスコミュニケーション I	G0110	2	◎			
ビジネスコミュニケーション II	G0120	2	◎			◎
技術英語とコミュニケーション	G0200	2	◎			◎
ビジネス ICT コミュニケーション	G0300	3	◎	◎		
メディアコミュニケーション	G5110	2		◎	◎	
環境情報システム (秋より共通選択科目)	B5110(春まで), G5130(秋より)	2		◎	◎	
システム設計特論	G5210	2		◎		
システム理論特論	G5220	2	◎	◎		
生産システム工学	G5240	4		◎	◎	

ロボティック・プロセス・オートメーション	G5250	2		◎	◎	◎
ビジュアル・プロセッシング	G5260	2	◎		◎	
アドバンスド・ビジネスICTコミュニケーション	G5300	3	◎			◎
応用情報学最先端A	G5500～G5590	1		◎	◎	
応用情報学最先端B	G5700～G5710	2		◎	◎	

その他の選択科目

科目名	科目コード	単位	(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
リサーチプロジェクトインディペンデント・スタディ	Y0100～Y0400	2		◎	◎	◎
インターンシップ1～8	IN010～IN080	1～8		◎	◎	◎

○科目履修について

本専攻の修了に必要な単位数は 44 単位であり、学生は必修科目を履修し合格することおよび、さらにマスタープロジェクトを履修し合格（2020 年度以降の入学学生）すること、を修了する条件としている。これにより学生は情報技術系の知識・スキルとマネジメントスキル及び専門分野に関する知識についてバランスよく学ぶことができる。マスタープロジェクトにおいては、学生はグループまたは個人でプロジェクトを遂行する。学生が選んだテーマにおいて現状の問題点や特定の業務への応用やプログラム等の開発など、プロジェクトを遂行し、実践的な内容を学ぶ。なお、選択した専門分野に属する科目群よりコア科目 10 単位以上を含む 26 単位以上履修し、単位を修得した学生に対して、専門分野を履修したことの証明をする旨、修了証明書に記載している（2020 年度 4 月以降の入学生より。2018 年度から 2019 年度入学生は応用科目を 16 単位以上及び専門分野に属する科目群より 20 単位以上修得した場合）。なお、IT の基礎知識を学習させる導入的役割の科目（基礎科目）は、専門分野認定のための科目として計上されない。また、既存の専門分野の枠にこだわらず、学生個人のニーズに合わせて柔軟にカリキュラムを構成できるようにビスポークカリキュラムも設定している。アカデミックコーディネーターとともに独自のカリキュラムを設計し、必修以外の科目群から学修目的に合わせて科目を選択する。ビスポークカリキュラムを選択した場合、専門分野認定の対象外となる。（資料番号 3-4、資料番号 3-5、資料番号 3-9）

各科目の本専攻の教育目標との対応が授業シラバスに明示されているが、専門分野に属する科目は要素技術や開発・運用の目標に当てはまるものが多い。他方、必修科目では、問題発見・企画、開発・運用そして職業人意識や倫理観の醸成といった、総合的なヒューマンスキル獲得にも重要な役割を果たす。

履修にあたっては、学生はアカデミックコーディネーターと相談しながら、教育目標の 1～4（基準 1(3) 参照）の特定のものだけに偏らないよう配慮しつつ科目選択を行う。また、学生が自分のキャリア（進路）指向を決める際に役立つよう、専門分野ごとのコースパスウェイ（セメスタごとに履修を推奨する科目を示した推奨履修パターン）が 2021 年度までは KING-LMS 上で 2022 年度以降は「キャビネット」で提示されており、いつでもアクセス可能である。コースパスウェイは「図 3-1 各専門分野のコースパスウェイ

イ」としてすでに示したものである。学生は履修相談を行うアカデミックコーディネーターおよびオリエンテーションコンサルタント（新入生への履修相談に対応するアカデミックコーディネーター）とこれらを確認しつつ履修登録を行う。新入生オリエンテーションの際には「履修プラン相談シート」を配布する。コースパスウェイには推奨履修時期が記載されているので、どのセメスタ（学期）で履修すればよいか計画を作成することができる。（表3）「学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ」の2022年度の例は次の通りである。（資料番号3-10，資料番号3-11）

表3-2（表3）学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（2022年度の例）

必修科目

科目名	科目コード	履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
ICT実践コミュニケーション	R0010	●				◎			◎
リーダーシップセオリー	R0020	●				◎	◎		◎
プロジェクト基礎演習	R0040		●				◎	◎	◎
マスタープロジェクト(MP)	MR000/ MP020/ HP020/ HT020			●	●		◎	◎	◎

専門分野：人工知能

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
コンピュータ構成論	N0000(春まで) S0000(秋より)	●				◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
ITのための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)	●				◎			
データベース概論	B0000(春まで) S0040(秋より)	●				◎	◎		
人工知能概論	J0000	●				◎	◎		
アルゴリズム概論	J0010	●					◎	◎	
コンピュータプログラミング(Python)	J0020	●				◎	◎		
人工知能のための数学	B0020(春まで) J0030(秋より)		●					◎	

データ解析 I	J0040		●			◎			
データマイニング	J0050		●			◎	◎		
人工知能ソフトウェア活用 I	J0060		●				◎	◎	
組合せ最適化	J0070		●			◎	◎		
機械学習	B5040(春まで) J5120(秋より)		●				◎	◎	
データベース特論	B5100		●				◎	◎	
オブジェクト指向プログラミング	W5020		●			◎	◎		
IoT と人工知能	J5010			●			◎	◎	
ロボットと人工知能	J5020			●			◎	◎	
データ解析 II	J5040			●			◎		
ゲームと人工知能	J5050			●			◎	◎	
人工知能ソフトウェア活用 II	J5060			●			◎	◎	
ロジカルシンキング	J5100			●		◎			◎
先端医療情報学	SH020			●				◎	
自然言語処理	J5080			●			◎	◎	
音声理解	J5090			●			◎	◎	
人工知能農業先端事例研究	J5070				●		◎	◎	
新事業と人工知能	J5110				●		◎	◎	
フィンテック論	SF010				●	◎	◎		
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YJ200/YJ300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：データサイエンス（旧ビジネスデータアナリティクス）

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
コンピュータ構成論	N0000(春まで) S0000(秋より)	●				◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
ITのための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)	●				◎			
コンピュータプログラミング概論 (※)	B0050(春まで) S0030(秋より)	●				◎			

データベース概論	B0000(春まで) S0040(秋より)	●				◎	◎		
ウェブプログラミング I	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			
ウェブビジネス概論	F0030	●				◎	◎		
データマイニングの基礎理論	B5030		●			◎	◎		
定性データ分析技法	B5010			●			◎	◎	
探索的データ解析と可視化	B5020		●				◎		
データベース特論	B5100		●				◎	◎	
情報倫理特論	F0020		●			◎			◎
データ解析 I	J0040		●			◎			
ウェブプログラミング II	W5000		●				◎	◎	
インターネットビジネスストラテジーとマーケティング	F5100			●			◎		
e コマースの諸手法	F5110			●			◎		
実践クラウドコンピューティング	F5230			●				◎	
組織行動学	F0010			●		◎			◎
データ解析 II	J5040			●			◎		
経営学特論	F5010				●	◎	◎		
データウェアハウスとビッグデータ	B5200				●		◎	◎	
応用情報学最先端A インメモリデータベース	G5500(春まで) G5510(秋より)				●		◎	◎	
フィンテック論	SF010				●	◎	◎		
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YB200/ YB300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：ウェブシステム開発

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
データベース概論	B0000(春まで) S0040(秋より)	●				◎	◎		
情報ネットワーク概論	N0010(春まで) S0050(秋より)	●				◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			

ウェブビジネス概論	F0030	●				◎	◎		
ウェブ技術概論	N5200	●				◎	◎		
コンピュータプログラミング (Python)	J0020	●				◎	◎		
コンピュータ構成論	N0000(春まで) S0000(秋より)		●			◎			
ITのための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)		●			◎			
ウェブプログラミングⅡ	W5000		●				◎	◎	
オブジェクト指向システム設計	W5100		●				◎	◎	
データベース特論	B5100		●				◎	◎	
人工知能ソフトウェア活用Ⅰ	J0060		●				◎	◎	
ウェブプログラミングⅢ	W5010			●			◎	◎	
オブジェクト指向プログラミング	W5020			●		◎	◎		
デザインシンキング	W5120			●			◎	◎	
ウェブサービス構築技法	N5210				●			◎	
ソフトウェア工学	W5110				●		◎		
モバイルアプリ開発	W5200				●		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YW200/ YW300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：ネットワーク管理

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
コンピュータ構成論	N0000(春まで) S0000(秋より)	●				◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
ITのための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)	●				◎			
データベース概論	B0000(春まで) S0040(秋より)	●				◎	◎		
情報ネットワーク概論	N0010(春まで) S0050(秋より)	●				◎			
ウェブプログラミングⅠ	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			
ウェブ技術概論	N5200	●				◎	◎		

コンピュータプログラミング (Python)	J0020	●				◎	◎		
情報倫理特論	F0020		●			◎			◎
新ビジネスのためのルール	F5240		●				◎	◎	
情報セキュリティ	N5100		●				◎	◎	
サイバーセキュリティ	N5250		●				◎	◎	
人工知能ソフトウェア活用 I	J0060		●				◎	◎	
ネットワークシステム管理	N5000			●			◎	◎	
IoT と無線ネットワーク	N5020			●			◎	◎	
情報ネットワーク特論	N5110			●		◎	◎		
経路制御と交換	N5120			●			◎	◎	
クラウドネットワークと仮想化	N5010				●		◎	◎	
ウェブサービス構築技法	N5210				●			◎	
経路制御と交換特論	N5520				●		◎	◎	
IoT と人工知能	J5010				●		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YN200/ YN300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：グローバル・アントレプレナーシップ (旧 IT アントレプレナーシップ)

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
IT のための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)	●				◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			
ウェブビジネス概論	F0030	●				◎	◎		
ビジネスエコノミクス I	F0040	●				◎			
ビジネスエコノミクス II	F5030	●				◎			
組織行動学	F0010		●			◎			◎
情報倫理特論	F0020		●			◎			◎
知的財産権法	F5000		●			◎			◎
IT 企業実践論	F5050		●				◎		◎

実践クラウドコンピューティング	F5230		●					◎	
グローバル・アントレプレナーシップとビジネスモデル	F5300		●				◎		◎
プロジェクトマネジメント	G5230		●					◎	◎
企業経営実践論	F5040			●				◎	◎
ブランドデザインと経営	F5060			●		◎			◎
インターネットビジネスストラテジーとマーケティング	F5100			●			◎		
eコマースの諸手法	F5110			●			◎		
ITビジネス交渉学	F5210			●					◎
デザインシンキング	W5120			●			◎	◎	
グローバル人材開発論	K0040			●					◎
持続的成長のためのリーダーシップ	F0000				●	◎			◎
経営学特論	F5010				●	◎	◎		
ゲーム理論と交渉術	F5220				●		◎	◎	
新ビジネスのためのルール	F5240				●		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YF200/ YF300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：ERP

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
ITのための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)	●				◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			
企業システム	E0000	●				◎	◎		
業務の統合化と e ビジネス	E0010	●					◎	◎	
国際会計学	E0020	●				◎			
データベース概論	B0000(春まで) S0040(秋より)		●			◎	◎		
ウェブプログラミング II	W5000		●				◎	◎	
財務会計システム開発 I	E5100		●					◎	
財務会計システム開発 II	E5110		●					◎	
生産管理システム開発	E5300		●					◎	

ERP 業務アプリケーション開発	E5330		●				◎	◎	
販売物流システム開発 I	E5200			●				◎	
販売物流システム開発 II	E5210			●				◎	
購買在庫システム開発	E5310			●				◎	
オブジェクト指向プログラミング	W5020			●		◎	◎		
人事管理システム開発	E5320				●			◎	
ERP コンサルティング特論	E5350				●		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YE200/ YE300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：IT マンガ・アニメ

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の確保	(2) 企画・設計能力の向上	(3) 開発・運用能力の向上	(4) 職業人意識と倫理観の醸成
		1	2	3	4				
コンピュータ構成論	N0000(春まで) S0000(秋より)	●				◎			
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			
アニメ作画基礎 A	A0100	●				◎			◎
リッチメディアコンテンツ開発	A5200	●				◎		◎	
コンテンツ産業特論	SC000	●					◎		◎
アニメ作画基礎 B	A0110		●			◎			◎
デジタル・アニメーション制作	A5100		●			◎	◎		
シナリオ・ストーリーボーディング	A5110		●				◎		
ビジュアル・プロセッシング	G5260		●			◎		◎	
アニメ企画・製作・プロモーション特論	A5400		●				◎		◎
映像構成論	A5210			●		◎	◎		
特殊映像技法	A5220			●			◎	◎	
コンピュータグラフィックス	A5430			●			◎	◎	
実践アニメ製作論	A5500			●			◎		◎
デジタル・オーディオ制作	A5300				●	◎		◎	
特殊映像技法特論	A5320				●		◎	◎	

ブランドデザインと経営	F5060				●	◎			◎
舞台芸術と IT	SC020				●		◎	◎	
リサーチプロジェクト/イン ディペンデント・スタディ	YA200/ YA300	●	●	●	●		◎	◎	◎

専門分野：観光 IT

科目名	科目コード	推奨履修セメスタ				(1) 基礎的素養の 確保	(2) 企画・設計能 力の向上	(3) 開発・運用能 力の向上	(4) 職業人意識と 倫理観の醸成
		1	2	3	4				
応用情報技術のための数学	G0060(春まで) S0010(秋より)	●				◎			
IT のための統計学	B0040(春まで) S0020(秋より)	●				◎			
コンピュータプログラミング概論	B0050(春まで) S0030(秋より)	●				◎			
ウェブプログラミング I	W0010(春まで) S0060(秋より)	●				◎			
観光 IT 概論	K0000	●				◎	◎		
観光ビジネス概論	K0020	●					◎		
日本社会	K0030	●					◎		
プロジェクトマネジメント	G5230	●						◎	◎
ビジネスエコノミクス I	F0040		●			◎			
メディアコミュニケーション	G5110		●				◎	◎	
グローバル人材開発論	K0040		●						◎
観光デザイン	K5050		●			◎	◎	◎	
ウェブプログラミング II	W5000		●				◎	◎	
映像構成論	A5210			●		◎	◎		
アニメ企画・製作・プロモーション特論	A5400			●			◎		◎
ツーリズムデスティネーションマネジメント	K5020			●		◎	◎		
観光データ分析	K5030			●		◎	◎		
オブジェクト指向システム設計	W5100			●			◎	◎	
データ解析 I	J0040			●		◎			
リッチメディアコンテンツ開発	A5200				●	◎		◎	
特殊映像技法	A5220				●		◎	◎	
ブランドデザインと経営	F5060				●	◎			◎

観光 IT 特論	K5040				●		◎	◎	
観光 IT インターンシップ	K5100				●		◎	◎	◎
モバイルアプリ開発	W5200				●		◎	◎	
リサーチプロジェクト/インディペンデント・スタディ	YK200/ YK300	●	●	●	●		◎	◎	◎

基準2でも述べているように本専攻では、様々なバックグラウンドを持った学生が入学するが、文科系学部出身者など、ITの知識が不十分な入学者に対してITの基礎知識を学習させる導入的役割の科目を設け、履修するように指導している。これらの基礎科目である、「コンピュータ構成論」、「データベース概論」、「情報ネットワーク概論」、「ウェブプログラミングI」、「ITのための統計学」(2019年度秋学期から開講)、「応用情報技術のための数学」(2019年度秋学期から開講)、「コンピュータプログラミング概論」(2020年度春学期より開講)は学生便覧および履修プラン相談シートの科目一覧に※印をつけるなどしてわかるようにしている。履修相談の際に、アカデミックコーディネーターと相談し、当該学生のIT関連知識のレベルなどを考慮して履修の可否を決める。本学の修了必要単位数は44単位以上であり、専門職大学院設置基準第15条で定められた30単位以上を14単位、国際的な標準である32単位を12単位上回る。この14単位あるいは12単位分を、上述のようなITの前提知識のない学生や留学生の日本語の技術用語の修得のための履修科目に充当でき、一方でITの基礎知識を十分に有している学生は、高度なIT関連科目やビジネス系等、各自の目的・志向に応じて幅広く履修できるようになっている。(資料番号3-12)

○マスタープロジェクトについて

2017年度までの旧カリキュラムで入学した学生は、課程修了プロジェクト(現在のマスタープロジェクトに相当)を必修科目として、個人またはグループで実施し、第4セメスタに公聴会で発表していた。しかしこの課程修了プロジェクトの多くはグループで実施する関係上、学生個人の貢献が明確には見えないという問題点があった。そこで2018年度からの専門分野の概念を導入した新しいカリキュラムへの移行に伴い、学生の学修方法の改善を目指して、マスタープロジェクトの実施方法を検討した。検討の結果、2018年度以降に入学した新カリキュラムで学修する学生に対してマスタープロジェクトを選択科目として設定することとなった。その際、マスタープロジェクトは、学生自身の専門分野に基づく内容に関して学生が個人またはグループ(ただし、個人の分担を明確化し、個別にマスタープロジェクトレポートを執筆する)で実施し、その専門分野に属する教員がプロジェクトスポンサーとして指導する方式へ変更した。これはアメリカの多くの専門職大学院と同様に、研究レベルの修士研究相当のマスタープロジェクトを実施する、またはマスタープロジェクトを実施する代わりに追加で科目の単位を取得する、という選択肢を学生へ提供する考え方に基づく。さらに、学生がマスタープロジェクトに取り組むことで専門職大学院として学生の専門知識とプロジェクト遂行などの能力を証明する目的も含め、2020年度以降に入学したすべての学生がマスタープロジェクトを実施することとした。それに伴い、学生個々の様々な学修目的、能力や興味とそれに伴う学習量に応じて様々な実施期間のマスタープロジェクトを必修科目へ再編した。

マスタープロジェクトは、学生が授業で修得した知識や実習経験を踏まえ、プロジェクトを企画・遂行する能力を育成することを主な目的とした科目である。学生は、第2セメスタ時の「プロジェクト基礎演習」でプロジェクトの立案及び計画書の執筆方法、マスタープロジェクトのレポート執筆にあたって必要な文章構成、他文献からの引用の仕方、著作権などについて演習を通して学んだ後、第3セメスタ以降に「マスタープロジェクト」を履修してプロジェクトに取り組む。マスタープロジェクトは、2018年度から2019年度の入学者は第4セメスタの半年間で実施する選択科目(6単位)であったが、2020年度以降の入学者は学習時間の量に応じて実施期間と単位数が異なる4つのタイプ(MP-0, MP-2, MP-4, MP-6)から1つ

を選び履修する。MP-0/MP-2/MP-4/MP-6 の実施時期と単位数は以下の通りとしている。なお、MP-0 は、専門分野の科目（2020 年度から 2021 年度の入学者は応用科目）履修に合わせて同一セメスタに履修し、その科目の学習に加えて、別途、文献調査や実地調査などを行い、当該科目の学習内容を発展させる観察や応用事例研究などについてのマスターレポートを提出するものである。また、MP-4 は第 3 セメスタに、MP-6 は第 2 及び第 3 セメスタに、前段階学習とする RP/IS に取り組んだ上で、第 4 セメスタで取り組む。なお、IT の基礎知識学習の導入的役割の科目（基礎科目）は MP-0 と組み合わせることはできない。

タイプ	実施時期	単位数
MP-0	第 3 または第 4 セメスタ	0
MP-2	第 3 または第 4 セメスタ	2
MP-4	第 3 及び第 4 セメスタ	4 (前段階学習とする RP/IS の 2 単位を含む)
MP-6	第 2, 第 3 及び第 4 セメスタ	6 (前段階学習とする RP/IS を 2 科目の合計 4 単位を含む)

なお、学生には入学時の新入生オリエンテーションにてカリキュラムの詳細説明を行っている。(資料番号 3-5, 資料番号 3-6)

(ii) カリキュラムの教員および学生への開示方法

前述のように、学生および教員に学生便覧を配布し、履修相談の際には履修プラン相談シートを基に履修科目を決める。また、学生は新入生オリエンテーションにて、カリキュラムについての説明を受ける。さらに、詳細は学生および教員に配布される学生便覧や、履修プラン相談シート等の資料によって開示している。(資料番号 3-5, 資料番号 3-6, 資料番号 3-10)

《引用・裏付資料名》

- 2021 年春学期新入生オリエンテーションで使用したスライド資料 (抜粋) (資料番号 3-5, p. 566)
- 2021 年春学期新入生オリエンテーションで使用したスライド資料_英語版 (抜粋)
(資料番号 3-6, p. 578)
- 授業シラバスの例 (資料番号 3-7, p. 590)
- 京都情報大学院大学履修規程抄 (2022 年度) (資料番号 3-4, p. 564)
- 表 2_授業科目の学習・教育目標に対する関与の程度 (資料番号 3-8, p. 595)
- 修了証明書の例 (資料番号 3-9, p. 638)
- 2021 年度春学期入学生用履修プラン相談シート (資料番号 3-10, p. 639)
- 表 3_各学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (資料番号 3-11, p. 644)
- 『2021 学生便覧』開講科目と修了条件に関する記述部抜粋 (資料番号 3-12, p. 676)

《実地調査閲覧資料名》

- 2021 学生便覧 (資料番号 8)
- 2022 学生便覧 (資料番号 3)
- 京都情報大学院大学 2021 年大学案内 (資料番号 9)
- 京都情報大学院大学 2022 年大学案内 (資料番号 2)
- 2022 年度開講科目一覧 (資料番号 10)
- 履修プラン相談シートの記入例 (資料番号 11)

(3) カリキュラムにおける実践教育の充実

本専攻の4つの目標達成による高度専門職業人育成のために、様々な実践的教育手法を取り入れている。

○授業形式

授業は主に「講義」、「実習」、「グループワーク」、「ケーススタディ（事例研究）」、「プロジェクト（現地調査・討論）」などがあり、これらを組み合わせた形式で授業が構成されている。また、授業中での課題・成果の発表なども行う。授業やマスタープロジェクトにおいては、学生はグループまたは個人でプロジェクト等を遂行し、その過程でテーマに関する問題発見や、解決法の立案、プログラム等の実装、グループ内でのコミュニケーション能力の向上、倫理観や職業人意識などの涵養など、総合的に学ぶことができるプロジェクトベースドラーニング（PBL）を適用することで実践的・実証的な内容を学びとる。マスタープロジェクトを実施する準備として必修科目「プロジェクト基礎演習」（2019年度以前は「マスタープロジェクト基礎演習」の名称で開講）において、プロジェクトの立案及び計画書の執筆方法、マスタープロジェクトのレポート執筆にあたって必要な文章構成、他文献からの引用の仕方、著作権などを演習を通して学ぶ。（資料番号3-13）

○実務能力の強化

例えば、専門分野 ERP においては、専門化したアプリケーション開発能力が要求されている。この対応として、本専攻では ERP の代表的なパッケージソフトウェアであるドイツ・SAP 社の ERP システムを導入し、その認定コンサルタント試験に対応した科目を開講し、修了後、即戦力として期待できる人材の育成も図り、成果を挙げている。（資料番号3-14）

○学習環境

全ての授業において授業資料は学習管理システム（Learning Management System:LMS、本学では KING-LMS と称する）に保存され、学生はキャンパス以外からでもアクセスし、ダウンロードすることができる。また、2019 年度秋学期までは、各キャンパスをリアルタイムで接続する高品位遠隔講義システムを整備した教室を多数設置して活用していた。2020 年度春学期以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、リアルタイムオンライン形式や、キャンパス内の教室で対面での参加またはリアルタイムオンラインで参加のいずれかを学生が選択できるハイブリッド形式で授業を実施しており（いずれも Zoom を使用）、大学のキャンパスに限定されず、自宅から参加したり日本へ入国ができない留学生が海外から参加したりすることもできるようにしており、以前よりも多様な参加形態で参加できるようになっている。2022 年度秋学期から使用開始した百万遍キャンパス本部棟（新校舎）にはアクティブラーニングなど多様な学習形態に対応可能なハイフレックス仕様の教室を多く備え、授業に活用している。これらによって離れた場所にいる学生とのコミュニケーションも円滑に行うことができ、支障なく授業を行うことができる。なお、遠隔講義システムの詳細については基準 3(9)で述べる。

○国際化環境

グローバルな視点を具備する職業人を育成するためには、英語はきわめて重要である。本専攻では英語に堪能な（あるいはネイティブな英語話者である）外国籍教員を多数採用している。また日本人教員でも英語に堪能で、JICA（独立行政法人国際協力機構）関連の外国人教育、あるいは海外専門家派遣の経験者も在職している。そこで、本学では、英語のみで開講される科目を履修し、修了が可能なカリキュラム設計としている。また、留学生が多いことから、事務室等においても多言語で対応できるよう環境を整えている。

これらの教員による授業では国際的な視野と豊富な経験を基にしたコミュニケーション力によって、国

際的センスのある人材の育成にも寄与している。日本語で履修する学生でも、英語に堪能な学生については、英語のみで開講する科目についても、アカデミックコーディネーターと相談の上で履修することができる。また、日本人を含めたいろいろな国籍の学生との交流により、学生の国際的センスは更に向上する。

○ヒューマンスキルの強化

いかなる職業分野においても、いわゆるヒューマンスキルは重要である。本専攻では、全ての新生入生に対して第1セメスタの必修科目となっている「ICT実践コミュニケーション」及び「リーダーシップセオリー」において、文章作成やプレゼンテーションによる表現力の強化、組織の内部的及び外部的要因分析における考え方やグループでのプロジェクトの運営におけるリーダーシップ発揮能力などの修得に力を入れている。また、グループワークを積極的に取り入れ、授業外でも活動する課題を課している。これによって社会に出て活躍する際に必要とされる「協働する力」や「コミュニケーション能力」すなわちヒューマンスキルの基礎を修得させる。

○授業外での取り組み

授業外での取り組みとしては、社会人としての基礎力を身につけ、自分自身の適性を把握し、実践的な能力を育成できるよう、インターンシップへの参加を支援している。インターンシップの種類として、本学が独自に企業等と提携したプログラムや、公的機関等が斡旋するプログラム等がある。最近のインターンシップ参加実績を資料にて記す。(資料番号3-15)

《引用・裏付資料名》

1. プロジェクト基礎演習のシラバス (資料番号3-13, p. 684)
2. ウェブサイトのニュース「KCGIからのSAP認定試験合格者が200人突破！」 (資料番号3-14, p. 689)
3. インターンシップ実施状況 (資料番号3-15, p. 692)

《実地調査閲覧資料名》

1. マスタープロジェクトのテーマの例 (資料番号12)
2. 学習管理システム(KING-LMS)によるデモンストレーション (資料番号13)

(4) シラバスの作成・開示とそれにそった教育と評価の実施

(i) 各科目のシラバスの作成

授業シラバスはすべての科目に対して用意しており、履修登録の前に学生に開示され、学生は授業シラバスを見て、希望する科目を履修する。授業シラバスには次の項目が記載され、学生へ公開する前に教務課が内容を確認している。

<授業シラバス記載項目>

科目名、担当教員名、単位数、科目概要、目標、対象者、主要トピック、前提科目・前提知識、教科書、教育メディア、参考文献、各回の講義内容、課題、評価方法、授業中の注意事項、教育目標との対応

各科目のカリキュラム構成上での位置づけは、授業シラバスに記載されている科目名とコースパスウェイ（推奨履修パターン）を参照することで確認できる。授業の進行にともない、実施する授業内容が週によって多少前後することがあるものの、おおむね授業は授業シラバスに沿った形で実施されている。主要な科目の授業シラバスを資料番号 3-16 に示す。本学では必修科目「リーダーシップセオリー」に加え、各専門分野 2 科目を主要科目として設定している。（資料番号 3-16）

必修科目/専門分野	主要科目
必修科目	リーダーシップセオリー
専門分野	主要科目
人工知能	人工知能概論，機械学習
データサイエンス (ビジネスデータアナリティクス)	データサイエンス (2021 年度秋学期まで) (2022 年度以降はデータ解析 I)，データベース特論
ウェブシステム開発	ウェブプログラミング II，ソフトウェア工学
ネットワーク管理	情報ネットワーク特論，IoT と無線ネットワーク
グローバル・アントレプレナーシップ (IT アントレプレナーシップ)	ウェブビジネス概論，企業経営実践論
ERP	企業システム，業務の統合化と e ビジネス
IT マンガ・アニメ	リッチメディアコンテンツ開発，デジタル・アニメーション制作
観光 IT	グローバル人材開発論，映像構成論

(ii) シラバスの開示方法

授業シラバスは、2021 年度までは学習管理システム (KING-LMS) から、2022 年度からはキャンパスプランポータルからリンクされたキャンパスプラン Web メニューによってウェブから検索が可能となっている。学生は個人のユーザー ID とパスワードでシステムにログインし、希望する講義名を入力し、検索することで授業シラバスを閲覧することが可能となっている。（資料番号 3-17）

(iii) シラバスにそった教育の実施

授業シラバスおよび、実際に授業で使用される授業スライドなどの授業資料は、本学の学習管理システム (KING-LMS) に授業進行にあわせてアップロードされており、授業が授業シラバスに沿った形で進行していることが確認できる。また、教員相互による授業評価においても評価項目として、授業シラバスに沿って授業が行われているかをあげ、確認している。（資料番号 3-18，資料番号 3-19）

(iv) シラバスにそった評価の実施

科目の達成度・目標および評価方法と基準をシラバスから抜粋したものが（引用・裏付け資料）の表4である。授業シラバスには評価方法と基準が記載されており、また各学期終了後に実施される授業報告会及び担当科目終了報告書により、担当授業の評価方法についての説明があり、シラバスに沿った評価がなされていることが確認できる。学生便覧により開示している本学の成績評価の基準を次に示す。（資料番号3-20、資料番号3-21）

学業成績

1. 学業成績は、上記評価基準により100点満点とし、60点以上が合格、59点以下が不合格です。

成績はA+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、F（不合格）の10段階で評価します。成績評価がF以外に対しては、所定の単位が与えられます。

科目により、P（合格）またはF（不合格）で評価する場合があります。

A+	A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-	F
94点以上	93～87	86～80	79～77	76～74	73～70	69～67	66～64	63～60	59点以下

2. 授業日数の3分の2以上の出席がない場合や、eラーニング授業における視聴時間が十分でない場合は、科目担当教員の判断により、評価をF（不合格）とすることがあります。
3. 履修科目の成績の発表は、春学期は9月に、秋学期は3月に行われます。
4. 成績に疑問がある場合は、成績発表から1週間以内に事務部に申し出ることとします。
5. 合格点を得た科目は原則として再履修することはできません。
6. 学生の申し出により不可抗力な条件により学生が科目を完了できない事由を担当教員が認めた場合、評価をI（Incomplete：成績未確定）とし、次学期に評価を持ち越すことができます。申請を希望する場合は、事務部に申し出てください。次学期内に学生から評価変更手続きが行われない場合、評価はF（不合格）となります。

申請期間：各学期の終講日から3週間以内

※集中講義または終講日以降に授業が行われる場合は講義終了後1週間以内

申請条件：次のいずれかを満たすこと

- ・出席が3分の2以上あること
- ・課題が2分の1以上提出されていること

※特段の事情があると担当教員が認めた場合は、上記の申請条件に関わらず申請を認めることがあります。

7. GPAが一定の基準以下となった場合、次学期の履修単位を制限する等の措置をとる場合があります。次学期以降も改善が見られない場合は、学則第23条の定めにより、諭旨退学させることがあります。

また、奨学金の申請等においてGPAによる成績基準を設けることがあります。

8. 授業料など諸学費が未納の学生は、成績評価を得ることができません。

図3-3 成績評価基準

(v) 個別の学習・教育目標に対する達成度評価

各科目に設定された学習目標は、その科目の課題、試験、授業中のプロジェクト遂行などによって達成できるように科目内容が設計・設定されており、その科目に合格することで、教育目標に到達すると考えられている。

《引用・裏付資料名》

1. 主要科目の授業シラバスの例 (資料番号 3-16, p. 693)
2. 授業シラバスの開示の方法例 (資料番号 3-17, p. 702)
3. KING-LMS (学習管理システム) 上での授業シラバスに沿った授業進行例 (資料番号 3-18, p. 703)
4. 教員相互による授業評価フォーマット (資料番号 3-19, p. 704)
5. 表 4_学習・教育目標を達成するのに必要な主要科目の評価方法と評価基準 (資料番号 3-20, p. 707)
6. 『2021 学生便覧』試験と学業成績に関する記述部抜粋 (資料番号 3-21, p. 712)

《実地調査閲覧資料名》

1. 2022 年度 シラバス (資料番号 4)
2. 授業資料例 (資料番号 14)
3. 教員相互による授業評価の結果 (資料番号 15)
4. 成績および関連記録 (資料番号 16)

(5) 学生自身の達成度点検と授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施

(i) 学生自身の達成度点検

各学期の終了時（9月始めと3月始め）には当該学期の履修科目の成績評価が開示され、キャンパスプラン Web メニュー上で、過去の履歴も含め、成績状況、単位取得状況を学生自身がいつでも確認できるようになっている。また、自己の課題の提出状況、授業資料の閲覧状況を KING-LMS から確認することもできるようになっており、このシステムによって学生は自身の成績評価や達成度をいつでも、どこからでも確認することができる。

○新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーションでは、全体ガイダンスにおいて、履修科目の選択と決定に必要なカリキュラムや履修の方法について、また授業を受ける上での注意や学生生活について説明している。全体説明後に行われる履修相談では各専門分野でアカデミックコーディネーターを担当している教員がオリエンテーションコンサルタントとして、「履修プラン相談シート」を用いて、学生ごとの学習目標や修了後の希望なども踏まえ、履修のアドバイスをしている。なお、新入生オリエンテーション後の学生への学修指導等はアカデミックコーディネーターが担当する。（資料番号 3-5、資料番号 3-6、資料番号 3-10）

○履修相談

学生は毎学期の履修登録に先立ち、アカデミックコーディネーターと成績状況や履修状況などを確認しながら履修登録へ向けて履修する科目に関する相談（履修相談）を行う。相談で受けたアドバイスを参考にしながら、学生は自ら修了へ向けての今後の学修計画を決める。第1セメスタの学生（新入生）については、今後2年間の「学習目標」（履修プラン相談シートの「個人目標」欄を使用）を設定し、本人にとってそれらの科目を履修することが適当なのかどうかを確認して適宜アドバイスする。（資料番号 3-10）

○在学生対象ガイダンス

在学生に対して、自身の学修の方向性を見直し、履修科目を精査する機会として、ガイダンス（全体説明）を開催している。ガイダンスの後、学生はアカデミックコーディネーターと相談し、個別に履修科目および学修計画を決めている。本専攻では、第2セメスタ以降、マスタープロジェクトを開始する（タイプにより開始時期と実施期間が異なる）。マスタープロジェクト（2018年度から2019年度の入学者は選択科目、2020年度以降の入学者は必修科目）については、学修計画やこれまでの学修内容を踏まえ、アカデミックコーディネーターや希望する指導教員（プロジェクトスポンサー）に相談しながら、学生自らプロジェクトのテーマとタイプを決める。特にMP-2/MP-4/MP-6に関しては、計画書を含む申請書を準備し、専門分野主任による承認の上で実施する。なお、テーマの決め方や計画書の執筆の仕方は、必修科目「プロジェクト基礎演習」で学生が学ぶようカリキュラムを設計している。（資料番号 3-22、資料番号 3-23）

○履修相談資料の準備

履修相談に必要な個々の資料は事務部が作成してアカデミックコーディネーターへ提供し、また、学生に対しては事務部から履修相談および履修登録等についての案内を行っている。アカデミックコーディネーターの資料には、学生の履修状況（単位取得状況）などの情報を記載している。

特に最終セメスタとなる学生は、残りの必要単位数や、修得済みおよび履修予定の科目を併せて修了要件を満たしているかを確認し、単位不足が発生しないよう、個々の学生にあわせて細かな履修指導を実施している。

さらに集中講義の履修追加申請や、学期途中での履修科目の Withdraw（履修取り消し）は、アカデミックコーディネーターの許可を経て行われ、学生の履修状況を把握できるようにしている。（資料番号 3-

24, 資料番号 3-25, 資料番号 3-26, 資料番号 3-27)

(ii) 学生支援の仕組み

上述のようにキャンパスプランポータルおよび KING-LMS を利用して学生支援を実施している。学生は必要に応じてすでに取得した科目（単位）と成績などを確認することができる。また、学生とも相談を実施した教員は、教務システム（学生情報管理）に指導の記録を個別に残すことになっており、指導履歴を教員間で共有することができる。

アカデミックコーディネーターは少なくとも年 2 回（9 月上旬と 3 月上旬）の履修登録前の相談時に、履修プラン相談シートを使用して学生と履修相談を実施し、学習状況、生活状況等に関して相談しながら、アドバイスをする。

また、これ以外にも、オフィスアワーなどに、状況に応じて学生と面談を行うなどにより、学生の支援を実施している。すべての教員のメールアドレスは開示されており、学生は自らコンタクトをとってアカデミックコーディネーターからアドバイスを受けることが可能となっている。

以下に学生支援の具体例を説明する。

○アカデミックコーディネーターによる支援

アカデミックコーディネーターは担当学生に対し、修了に至るまで、以下の点で支援を行う。

1. 学修に関するアドバイス
2. 履修登録に関する相談、および各種申請書への承認等
3. 学生の就職活動の支援やアドバイス
4. 一般的な学生の日常的相談やアドバイス
5. 学生相談室の学生カウンセラーの紹介

学生とアカデミックコーディネーターは、e メール、KING-LMS のフォーラム、Zoom Meeting（2020 年度春学期以降）などを用いて、日常的に連絡を取り合うことが可能である。

○学費納入に関連した相談

経済的に困窮している学生の学費納入に関しては、事務部で相談を受け付けているほか、学費延納制度も取り入れており、学生へは学費納入案内とともに案内している。学費納入の状況は、アカデミックコーディネーターと事務部との間で、教務システム（学生情報管理）によって情報を共有する体制となっている。（基準 4 図 4-1, 図 4-2 参照）

○学生指導情報の共有

授業の欠席や成績不良、学費未納などが退学や留年の主要因となることが多いため、学生の出席状況を毎月確認の上、出席率が 50%を下回る学生については、e メール、LINE や Wechat などの SNS および電話で事務部から個別に連絡を行うほか、アカデミックコーディネーターへも事務部から連絡をとって指導を依頼している。また、学生の成績状況を各学期の履修相談開始前に確認し、GPA (Grade Point Average) が一定値以下の学生及び必修科目が不合格となった学生については、事務部からアカデミックコーディネーターへ報告する。それを受け、アカデミックコーディネーターは当該学生に対して個別面談をして、状況の把握と的確な学修指導を行う。

個別面談結果や特記事項は、アカデミックコーディネーターがまとめ、事務部へ提出しており、アカデミックコーディネーターと事務部で学生情報システムにより共有できる仕組みを整えている。これによって学生への過去の指導履歴を踏まえた学修指導が可能となっている。

また、個別の事情や就学意欲の低下、進路変更等により、退学や休学を考えていると推察される学生に

については、アカデミックコーディネーターが面談を行い、学修上や生活上の悩みを聞き、アドバイスする体制を整えているほか、事務部でも学生の相談に対応している。

○成績調査

学期末に発表される成績評価に疑問がある場合には、成績発表から1週間以内に「成績調査依頼」を事務部へ提出し申し出をすることができ、それを受けて事務部から、当該授業の担当教員に問合せ、事務部はその結果を調査依頼した学生に回答することになっている。これにより成績評価の間違いをなくし、公正さや適格性を振り返る機会としている。この調査依頼に基づき、担当教員が評価を修正する場合もある。

○留学生に対する学生支援

留学生については、入学当初は環境の違いや言葉に慣れないことなどから、スムーズに学修を開始できない場合もある。このような留学生の学修や生活を支援するため、事務部では、英語および中国語、ベトナム語、ネパール語での相談や面談を行うなど、サポート体制を整えている。

英語で学修する学生もいるため、各種のお知らせは日英併記とし、事務資料、シラバス、学生便覧などは英語版も用意している。また、Mix方式の授業（基準8(1)の「英語モードの教育について」参照）の授業シラバスや授業資料などは日英併記としている。このように学修に支障が生じないように配慮している。（資料番号3-28、資料番号3-29、資料番号3-30）

○授業における支援

一部の授業においては、教員または職員がサポートをする体制となっており、必要に応じて、実習、演習等の授業における教育補助業務、授業資料作成にかかわる情報収集等の業務、eラーニングコンテンツ作成、アップロードなどの業務等を行うティーチングアシスタント（TA）や授業における機器操作などの授業補助業務、授業資料等の補助業務などを行うグラデュエイトアシスタント（GA）を使ってサポートする体制をとっている。

○授業における通訳サービス

本専攻の授業には、英語と日本語を用いて行う授業（Mix方式の授業；詳しくは基準8を参照）がある。Mix方式の授業には、教員は英語により講義し、通訳者が通訳して進める授業もあり、英語の能力が十分ではない学生でも受講することができるようにしている。

○学生からの意見汲み上げ

各学期中に「学生による授業評価」を行っている。授業の良い点・改善要望点に関しては、自由記述形式にしており、学生は自由に意見を書き込むことができる。授業担当者は担当科目終了報告書にこれらの評価の結果を必ず確認して改善策等を記入することになっており、学生の意見は必ず授業担当者に伝わる仕組みになっている。（資料番号3-31、資料番号3-32）

さらに「学生による授業評価」の期間以外でも学生の要望を汲み上げる仕組みとして、専用のメールアドレスを設置し、意見を受け付ける体制を設けている。メールアドレスは学生便覧に記載するとともに、KING-LMSを通じても学生へ周知し、学校への要望を受け付けるようにしている。（資料番号3-33）

また、教育目的の達成状況の点検を行う一環として、「学生生活満足度調査」を毎年実施している。この調査で、学生生活の実態と満足度の把握に加え、本学の教育システムへの評価も行った結果、概ね肯定的に評価されている。具体的には「本学での学習」「授業」「教員」に関する各項目において、カリキュラムや時間割の編成の適切さ、授業内容の新規性、教員からの助言や指導などが評価され、本学の教育システムに対する肯定的な回答を得ている。

○日本語及び英語文書作成支援

第1セメスタの留学生を対象とした日本語の能力を上げるための科目を開講している。また、個別指導を行うための日本語ライティングセンターを2018年春学期から開設している(日本人学生も対象)。また、英語が母語ではない学生のために、英語ライティングセンターも2019年秋学期から開設している。なお、両ライティングセンターとも、自宅などから利用できるように利便性を向上し、また新型コロナウイルス感染症による健康面を考慮して、2020年春学期より Zoom Meeting による遠隔指導体制へ移行した。(資料番号 3-34, 資料番号 3-35)

(iii) 学生支援の仕組みの開示方法

教員のオフィスアワーは KING-LMS に掲示され、また、全教員のメールアドレスも開示されているため、学生から教員へ連絡をとることは容易である。ただし、コロナ禍では Zoom Meeting によるオンラインまたはメールでの対応を原則としている。日本語及び英語ライティングセンターについては、指導時間帯と指導予約について教務課から学生へ連絡されており (KING-LMS からのお知らせおよび学内ポスターにて掲示)、学生は予約して指導を受けることができる体制をとっている。(資料番号 3-36)

(iv) 学生支援の仕組みの活動実績

アカデミックコーディネーターによる学生への履修相談指導は各学期(春学期, 秋学期)の履修登録に先んじて行われる。履修相談では、履修プラン相談シートを使用して学生と履修科目を相談しながら決め、アカデミックコーディネーターの承認を受けて、学生は履修登録をする。

また、新入生は、2年間の学習をより効果的に進めるために、新入生オリエンテーション時にオリエンテーションコンサルタントとその後の2年間の学修計画など個別の面談を行う。

○新入生オリエンテーションおよび在学生向けガイダンス

新入生向けに新入生オリエンテーションを入学時に行っている。全体的なカリキュラム説明のあと、オリエンテーションコンサルタントとの履修相談により、学生は当該セメスタにおいて履修する科目を決定するほか、今後2年間の学修などを個別に相談して学修計画を立てる。

第2セメスタ以降の学生については、その後履修を進めるマスタープロジェクトの流れの説明を在学生向けガイダンスで受け、アカデミックコーディネーターと個別に履修科目および学修計画を決めている。(資料番号 3-22, 資料番号 3-23)

○履修相談

各学期開講前月である9月上旬と3月上旬にアカデミックコーディネーター(新入生オリエンテーション時はオリエンテーションコンサルタント)と履修相談を行っている。相談結果を踏まえ、学生は履修登録を行う。

《引用・裏付資料名》

1. 2021年春学期新入生オリエンテーションで使用したスライド資料(抜粋) (資料番号 3-5, p. 566)
2. 2021年春学期新入生オリエンテーションで使用したスライド資料_英語版(抜粋)
(資料番号 3-6, p. 578)
3. 2021年度春学期入学生用履修プラン相談シート (資料番号 3-10, p. 639)
4. 2021年度秋学期在学生向けガイダンス資料 (資料番号 3-22, p. 714)
5. 2021年度秋学期在学生向けガイダンス資料_英語版 (資料番号 3-23, p. 721)

- | | |
|--|---------------------|
| 6. 在学生向け履修相談案内 | (資料番号 3-24, p. 726) |
| 7. 在学生向け履修相談案内_英語版 | (資料番号 3-25, p. 730) |
| 8. 履修追加申請書 | (資料番号 3-26, p. 731) |
| 9. WITHDRAW 申請書 | (資料番号 3-27, p. 732) |
| 10. 学生への掲示 (日英併記) | (資料番号 3-28, p. 733) |
| 11. Mix 方式の授業の日本語及び英語シラバスの例 | (資料番号 3-29, p. 733) |
| 12. 『2021 学生便覧』開講科目と修了条件に関する記述部抜粋 英語版 | (資料番号 3-30, p. 742) |
| 13. 学生による授業評価の結果 例 | (資料番号 3-31, p. 750) |
| 14. 担当科目終了報告書 例 | (資料番号 3-32, p. 753) |
| 15. 『2021 学生便覧』学校への意見・要望などに関するメールアドレス記述部抜粋 | (資料番号 3-33, p. 756) |
| 16. 日本語ライティングセンター開設の学生向け告知 | (資料番号 3-34, p. 758) |
| 17. 英語ライティングセンター開設の学生向け告知 | (資料番号 3-35, p. 760) |
| 18. 日本語ライティングセンター指導予約画面 | (資料番号 3-36, p. 761) |

《実地調査閲覧資料名》

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. 学生の成績状況 | (資料番号 17) |
| 2. 教員のメールアドレス | (資料番号 18) |
| 3. 学生生活満足度調査 結果 | (資料番号 19) |
| 4. 指導教員別在学生履修相談資料 例 | (資料番号 20) |
| 5. 履修プラン相談シートの記入例 | (資料番号 11) |
| 6. 学習管理システム (KING-LMS) での課題提出などの確認例 | (資料番号 21) |
| 7. 英語による科目授業資料 例 | (資料番号 22) |

(6) 授業を行なう学生数に関わる法令の遵守

授業を行う学生数については、専門職大学院設置基準第七条に次のように規定されている。

第七条 専門職大学院が一の授業科目について同時に授業を行う学生数は、授業の方法及び施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられるような適当な人数とするものとする。

各授業については、各科目の特色に沿って、また、教室収容可能人数に基づいて受講する学生の数を管理している。新型コロナウイルス感染症対策実施以前（2019年度秋学期以前）は、コンピュータによる実習・演習を行う科目については実習室のコンピュータの設置台数を超えないよう、また、講義科目については教室の収容可能人数を超えないように受講者数を調整していた。新型コロナウイルス感染症対策実施以降（2020年度春学期以降）は、6限以降を除くリアルタイムオンライン形式の授業とハイブリッド形式のいずれの形式の授業についても教室を割り当て、受講者数が収容人数を大幅に超えないように調整し、かつ、対面で受講する学生数が収容人数を超えた場合には教室変更を予定していた。しかし、実際には、対面で受講する学生数が教室の収容人数を超えることはなかった。なお、例年履修希望が集中する科目については、過去の傾向から、あらかじめ複数の授業を配置している。

また、多人数が一斉に受講する授業では、2019年度秋学期以前は、京都駅前サテライト6階の大教室（560人収容可）を利用する等の対応をしていた（「ICT実践コミュニケーション」「リーダーシップセオリー」「プロジェクト基礎演習」）。これらの授業においては、複数の教員が授業に参加し、グループワークなどの指導・サポートをする体制をとり、教育効果があげられるよう適切な学生数で運営していた。2020年度春学期以降、これら3つの科目は新型コロナウイルス感染症対策により授業内容に応じてリアルタイムオンライン形式またはオンデマンド形式で授業を実施した（2022年度秋学期よりすべてリアルタイムオンライン形式）。この場合においても、複数の教員が授業に参加し、オンラインでのグループワークなどの指導・サポートをする体制をとり、教育効果があげられるよう適切な学生数で運営している。（資料番号3-37）

《引用・裏付資料名》

1. 科目ごとの受講者数

（資料番号3-37, p.762）

《実地調査閲覧資料名》

なし

(7) 年間・学期間の履修バランスに関わる法令の遵守

履修科目の登録の上限については、専門職大学院設置基準第十二条に、次のように規定されている。

第十二条 専門職大学院は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が一年間又は一学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

学生が当該学期に履修登録できる単位数の上限は、授業以外の予習・復習や課題に必要な学習時間を考慮し、最大 18 単位と履修規程に定めており、学生便覧にて学生および教職員へ公開している。また、履修相談時にオリエンテーションコンサルタントまたはアカデミックコーディネーターが確認する。さらに、当該学期の各学生の履修単位数を教務課でチェックし、最大履修可能単位数を超えて登録されていた場合は、アカデミックコーディネーターを介して履修取消 (Withdraw) を行っている。(資料番号 3-4)

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学履修規程抄 (2022 年度)

(資料番号 3-4, p. 564)

《実地調査閲覧資料名》

1. 2021 学生便覧

(資料番号 8)

2. 2022 学生便覧

(資料番号 3)

(8) 授業の期間および夜間・集中授業に関わる法令の遵守

授業の期間および夜間・集中授業については、大学設置基準に次のように規定されている。

第二十二條	一年間の授業を行う期間は、三十五週にわたることを原則とする。
第二十三條	各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、八週、十週、十五週その他の大学が定める適切な期間を単位として行うものとする。
第二十六條	大学は、教育上必要と認められる場合には、昼夜開講制(同一学部において昼間及び夜間の双方の時間帯において授業を行うことをいう。)により授業を行うことができる。

本学では、授業は2学期制(春学期、秋学期)を採用しており、春学期は4月1日～9月30日、秋学期は10月1日～翌年3月31日として、各学期に15週の授業期間と試験・補講期間を設けている。これら授業スケジュールは、学校行事などと共に学生便覧に記載している。(資料番号3-38)

また、授業スケジュールは、平日昼間の時間帯だけでなく、企業に勤めながら学ぶ社会人学生も学習が容易になる終業後の時間帯(18:30～21:40)や通常勤務日ではない土曜日も含めて組んでいる。さらに、2019年度秋学期までは非同期式eラーニング、2020年度春学期以降はオンデマンド形式授業、及びハイブリッド形式授業またはリアルタイムオンライン形式授業をZoom Meetingにより録画した動画のLMSへのアップロード((9)メディア利用に関わる法令の遵守 参照)も併用しており、時間と場所を限定せずに学ぶことができる科目もある。そのほか、集中講義も開講している。

授 業 時 間

授業時間は右表のとおりです。

時限	授 業 時 間
1	9 : 3 0 ~ 1 1 : 0 0
2	1 1 : 1 0 ~ 1 2 : 4 0
3	1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0
4	1 5 : 1 0 ~ 1 6 : 4 0
5	1 6 : 5 0 ~ 1 8 : 2 0
6	1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0
7	2 0 : 1 0 ~ 2 1 : 4 0

図3-4 授業時間

《引用・裏付資料名》

1. 2022年度学年暦

(資料番号3-38, p. 777)

《実地調査閲覧資料名》

1. 2021 学生便覧
2. 2022 学生便覧
3. 2022 年度開講科目一覧

(資料番号8)

(資料番号3)

(資料番号10)

(9) メディア利用に関わる法令の遵守

メディア利用については、大学設置基準に次のように規定されている。

- 第二十五条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
 - 3 大学は、第一項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
 - 4 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第一項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

本専攻は応用情報技術研究科・ウェブビジネス技術専攻であり、高度な IT (ICT) を学び、実践することを目標としている。その実践例としても、多様なメディアを用いた教育を積極的に取り入れている。メディアを利用した教育としては、高品位遠隔講義システムによるオンラインでのリアルタイム遠隔講義および非同期式 e ラーニング (2019 年度秋学期以前) や、ハイブリッド形式またはリアルタイムオンライン形式の授業や、オンデマンド形式の授業を実施している (2020 年度春学期以降)。

高品位遠隔講義システムでは、京都本校とサテライト間 (札幌サテライトおよび東京サテライト) で各教室の講義や討論を双方向にリアルタイムで送受信でき、教員と学生とのコミュニケーションが可能としていた。教員はビデオカメラとマイクで遠隔地の教室の様子をモニタリングしながら、授業をすることができる。教員は、サテライトで受講する学生からの質問にも即座に答えることができ、かつサテライトの学生の音声は、もう一方の教室にいる教員および学生にも聞こえる。このように、双方の学生にとって、物理的距離が離れているという心象を極力取り除くよう配慮されている。(資料番号 3-39)

さらに、高品位遠隔講義システムは、授業コンテンツや、講義中の講師の講義映像と音声を動画として収録し、KING-LMS のサーバーにアップロードする機能も有している。対面授業を実施しながら、学生との質疑応答も含めて授業の様子をそのまま収録し、e ラーニングのための配信教材としても利用することができる (非同期式 e ラーニング)。なお、本システムは、京都本校 (M103 講義室, M102 講義室, M205 実習室)、および京都駅前サテライト EW31 実習室, E601 講義室に備わっている。

2020 年度春学期以降は、授業はハイブリッド形式やリアルタイムオンライン形式またはオンデマンド形式で実施している。ハイフレックス仕様教室などで実施するハイブリッド形式やリアルタイムオンライン



図 3-5 ハイフレックス仕様教室での授業の様子

形式の授業では、Zoom Meetingなどの遠隔会議システム用ソフトウェアを用いており、学生は各自の希望に応じて、キャンパス内の教室や国内外を問わず自宅などから参加することが可能となっている。このハイフレックス仕様教室は、グループワークやプレゼンテーションなど、学生が主体となり授業に参加するアクティブラーニングによる能動的な学習や対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業など様々な授業形態に柔軟に対応できるよう設計されており、スマートディスプレイや集音マイク・スピーカーなどを装備し教育と学習のためのシームレスな環境が構築され、教室内やオンライン上など受講する場所の影響を受けずに一緒に授業を受けることができる。教室内の壁は全体がホワイトボードとして利用でき、アイデアボードとしても機能するようになっている。

また、PCの画面をキャプチャし、またPC付属のカメラの映像とマイクからの音声と合わせて、授業の動画コンテンツを作成するためのツール（Screencast-O-Matic社のScreencast-O-Maticなど）も教員がいつでも利用できるようにライセンス契約し、その利用を推奨している。担当教員が自身のPCにそれらのツールを導入し、作成した動画コンテンツをKING-LMSにアップロードすることができる。オンデマンド授業では、これらのツールを用いて作成されKING-LMSにアップロードされた録画ビデオを使って、日本国内外にかかわらず学生は時間や場所の制約を受けずに、自分のペースに合わせて授業を繰り返し視聴することができる。これらのツールは、各回の予習・復習用教材作成にも活用されている。また、原則として授業はZoom Meetingで録画しKING-LMSにアップロードすることになっており、復習や事情があつて出席できなかった学生が視聴できるようになっている。

また、本学は学生と教職員を含めた、全体の学習とコミュニケーション環境を実現している。KING-LMSは、授業のためのコンテンツ提示や参考資料・サイトの提示、課題提出やQ&Aなどの学習管理支援機能に加え、担当教員やアカデミックコーディネーターと学生との連絡手段としても活用されている。行事、授業（休講、補講）、就職指導などに関する学生への連絡などの提示は、2021年度秋学期まではKING-LMS、2022年度春学期以降はキャンパスプランポータルが、活用されている。これらにより、本学でのポータルサイトとしてネットワーク上に必要な連絡網を提供している。

このようにメディアを授業の様々な局面で利用することによって、教育効果が十分に期待出来るようなシステムとサービスを学生へ提供している。



《引用・裏付資料名》

1. 高品位遠隔講義システムを用いた科目と履修者数

(資料番号 3-39, p778)

《実地調査閲覧資料名》

1. 多様なメディアを用いた授業例

(資料番号 23)

(10) 通信教育に関わる法令の遵守
本基準には該当しない。

《引用・裏付資料名》
なし

《実地調査閲覧資料名》
なし

(11) 企業等学外での履修に関わる法令の遵守

本学では、国内外の企業へのインターンシップを推奨している。

教員を通じた企業のインターンシップの他、大阪外国人雇用サービスセンター等を介したインターンシップを学生に紹介している。

教員を通じたインターンシップについては、担当教員が先方の担当者と話し合い、学外での実習中は先方の担当者と連絡をとりあい進行状況を確認し、終了後は報告会を行うなどして適切な体制で実施している。なお、インターンシップに関する指導期間や単位認定等について次のように履修規程に定め、学生便覧において教職員および学生へ公開している。(資料番号 3-15, 資料番号 3-4)

(インターンシップ制)

第10条 教育上有益と認められるときは、本学大学院学生が企業等において必要な指導を受けることを認めることができる。ただし、当該指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の企業における学習成果に対して、大学院委員会の議を経て、1～8単位の範囲で単位認定することができる。

《引用・裏付資料名》

1. インターンシップ実施状況 (資料番号 3-15, p. 692)
2. 京都情報大学院大学履修規程抄 (2021年度) (資料番号 3-4, p. 564)

《実地調査閲覧資料名》

1. 2021 学生便覧 (資料番号 8)
2. 2022 学生便覧 (資料番号 3)

◎ 「教育方法」について表1に記入した点数と判定理由

点検結果の点数 5

判定理由:

本専攻ではカリキュラム・ポリシーを明確に定め、本学の教育目標を達成させるために体系的にカリキュラムを構成している。本学のカリキュラム・ポリシーは、学生および教員に限らず社会へも公開し、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保することを留意して設計している。カリキュラムは、科目ごとに適切な教育手法や授業形態をとり、また、授業科目と教育目標との対応は明確に授業シラバスに示している。なお、カリキュラムおよびそれに基づく授業シラバスは学生及び教員へ開示している。また、学生自身による達成度の継続的 point 検や学生の理解を増進する仕組みを学生へ提供し、その仕組みは学生および教員へ開示している。授業の受講者数は適切な人数であり、多様なメディアを利用した授業は適切な方法で、教育効果を高めるべく実施している。さらに、年間の授業期間は適切に設定し、1学期に履修できる単位の上限も設定しており、履修のバランスを配慮している。全体として、各点検項目を十分満たしているため、5と判断した。

基準4 教育組織

(1) 教員組織の編成に関する基本方針

「専門職大学院」制度設立の基礎となった平成14年8月5日の中教審（中央教育審議会）答申「大学院における高度専門職業人養成について」においては、教員組織の指針として以下が示されている。

5-(2) 専門職大学院は、高度専門職業人養成に特化した実践的な教育を行うものであり、研究者養成を目的としないことから、特定の研究課題についての研究を行わせ、その成果をまとめさせるという方法ではなく、体系的な授業を中心に教育を展開することが有効な場合も多いと考えられる。このため、教育方法については、専門職大学院の目的を踏まえ、設置基準上は個別の研究指導は必須とせず、授業科目の履修のみを必須とし、事例研究、討論、現地調査、実習その他の適切な方法の授業により、国際水準の高度で実践的な教育を行い、社会経済の各分野で指導的な役割を果たし、国際的にも活躍できる人材を養成する。

6-(1) 専門職大学院においては研究指導を必須の修了要件としないことから、研究指導教員は必置とはしないこととする。一方、当該専門職大学院における教育を担当するにふさわしい高度の教育上の指導能力があると認められる者を、専任教員として必要数置くこととする。

6-(2) 実践的な教育を行う観点から、実務家教員を専任教員中に相当数置くことを義務付ける。

本学の教員組織は、上記の指針に基づいて編成している。

本学は、応用情報技術研究科を置き、その下にウェブビジネス技術専攻のみを置く、1研究科1専攻で構成している。本専攻の目的は、学則第5条2項において、以下のように定めている。

2 本専攻は、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等の教授・研究を通じ、広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要の高度の技術能力を備えた、高度専門職業人の養成を目的とする。

この目的を達成するために、本学では「教育職員任用・昇任に関する内規」において、以下のように教員編成の基本方針を定めている。（教育職員任用・昇任に関する内規 第2条 基本方針等より抜粋）

（基本方針等）

第2条 京都情報大学院大学は応用情報分野における社会の多様なニーズに応えるため、必要に応じて関連する各分野より多様な教員を採用する。

2 京都情報大学院大学は、専門職大学院としての使命・目的に鑑み、各々の専門領域における各教員の役割を考慮し、単一の基準に拘泥することなく、多様な教育職員を任用する。

専門職大学院は、理論と実務の架橋を図るため、高度な実務上の知識や能力を有する実務家教員と高度な研究能力を有する研究者教員のバランスの取れた教員組織が求められる。また、我が国では制度創設から比較的歴史の浅い専門職大学院制度に関して、米国のプロフェッショナルスクールなどに熟知した教育

学系の教員も必要となる。このような事情に対応し、2023年5月1日現在の本専攻の教員数ならびに構成は表4-1のようになっている。

表4-1 教員数と構成比率

(2023年5月1日現在)

	専任教員数	構成比率	うち実務家教員数
教授	68名	51.5%	39名
准教授	13名	9.8%	6名
講師	10名	7.6%	7名
助教	41名	31.1%	5名
専任教員数計	132名		57名
	兼任教員数		
客員教授・講師	32名		

本専攻の教員採用にあたっては、学長により適宜召集される人事委員会において、人事案件ごとに任用候補者の学歴、職歴、教育業績、研究業績および実務業績に基づき、本学の定める基準に鑑み審査を行うほか、本学の建学の理念や使命・目的を理解し、教育活動に取り組めるかどうかという大学アドミニストレーションの観点からも、慎重な審査を行っている。人事委員会での審査を経て、最終的な採否は理事会にて決定する。

《引用・裏付資料名》

1. 表2 専攻関係基礎データ：教員組織(p.4)
2. 教育職員選考規程 (資料番号4-1, p.782)
3. 教育職員任用・昇任に関する内規 (資料番号4-2, p.784)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(2) 教員の数と能力および教育支援体制

(i) 教員の数と能力

本専攻の専任教員数は表 4-1 のとおり、132 名（教授 68 名、准教授 13 名、講師 10 名、助教 41 名）、兼任教員は 32 名を配置している。

教員の能力ならびに専門分野については、表 4-2 「専任教員の研究教育分野に関する一覧表」のとおりである。また、各教員の担当科目については表 3 専攻関係基礎データ：専任・兼任教員個別表に記載している。

表 4-2 「専任教員の研究教育分野に関する一覧表」の研究教育分野は、日本学術振興会の科学研究費助成事業の審査区分表を参考に分類している。これによると、最も多いのは「情報科学・情報工学」分野で 35 名 (26.5%)、次いで「経済学・経営学」分野が 19 名 (14.4%) となり、「人間情報学」分野 19 名 (14.4%)、「応用情報学」分野 13 名 (9.8%)、「教育学」分野 13 名 (9.8%)、と続く。上位 5 つの分野で全体の 75% を占めている。また、「情報科学・情報工学」、「人間情報学」、「応用情報学」の情報学系の分野が全体の 51% になっている。本専攻は、情報系と経営系の融合領域を専門分野とし、さらにリーダーとなる人材を育成するために企業内教育の観点に基づき、教育学の知見を取り入れた科目を開学当初より開講していることから、適切な教員構成と言える。

また、本専攻では、英語での科目を多数開講しているが、英語で授業が可能な教員は 56 名 (42.4%) となっている。

表 4-2 「専任教員の研究教育分野に関する一覧表」(2023 年 5 月 1 日現在)

職位	氏名	研究教育分野 (大分類)	研究教育分野 (小分類)	指導 言語
教授	富田眞治	情報科学・情報工学	計算機システム	日
教授	寺下陽一	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日/英
教授	英保茂	人間情報学	感性情報学	日
教授	土持ゲーリー法一	教育学	教育学	日/英
教授	長谷川亘	教育学	教育学関連	日/英
教授	茨木俊秀	情報科学・情報工学	最適化理論、組合せ最適化	日/英
教授	柏原秀明	生産工学関連	生産工学	日/英
教授	高弘昇	情報科学・情報工学	統計科学	日
教授	森田正康	経済学・経営学	経済政策	日/英
教授	内藤昭三	情報科学・情報工学	情報セキュリティ	日
教授	作花一志	宇宙惑星科学関連	理論天文学	日
教授	手塚正義	情報科学・情報工学	データベース	日
教授	Milan Vlach	情報科学・情報工学	Mathematics for Informatics	英
教授	Peter G. Anderson	人間情報学	ソフトコンピューティング	英
教授	William K. Cummings	教育学	教育学	英
教授	植田浩司	応用情報学	エンターテインメントおよびゲーム情報学	日/英
教授	Maya Bentz	教育学	Educational Technology	英
教授	Fredric Laurentine	人間情報学	Human Interaction	英
教授	長谷川晶	教育学	教育学	日/英

教授	武田康廣	思想, 芸術およびその関連分野	芸術実践論	日
教授	中村真規	経済学・経営学	経営学	日
教授	里見英樹	応用情報学	ウェブ情報学およびサービス情報学	日
教授	向井正	宇宙惑星科学関連	宇宙惑星科学	日
教授	立石聡明	情報科学・情報工学	情報ネットワーク	日
教授	渡邊昭義	応用情報学	エンターテインメントおよびゲーム情報学	日
教授	劉非	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
教授	岡本敏雄	教育学	教育工学	日/英
教授	向井苑生	応用情報学	環境動態解析	日
教授	北山寛巳	経済学・経営学	経営学	日
教授	李美慧	教育学	教育学	日
教授	Nitza Melas	思想, 芸術およびその関連分野	Video Creation	英
教授	伊藤博之	人間情報学	知覚情報処理	日
教授	松尾正信	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日/英
教授	野一色康博	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
教授	李鶴	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日/英
教授	モディカ静香	教育学	教育学	日/英
教授	Mark Hasegawa Johnson	人間情報学	Image / Speech Understanding	英
教授	中村行宏	情報科学・情報工学	計算機システム	日
教授	田中久也	応用情報学	論理的思考法	日
教授	高橋豊	情報科学・情報工学	情報ネットワーク関連	日/英
教授	高橋良英	人間情報学	ソフトコンピューティング	日
教授	Sanford Gold	教育学	高等教育学	英
教授	甲斐良隆	経済学・経営学	金融およびファイナンス	日
教授	今井 正治	情報科学・情報工学	計算機システム	日
教授	倉谷昌伺	船舶海洋工学	船舶海洋工学	日
教授	藤原正樹	経済学・経営学	経営学関連	日
教授	長谷川功一	文学, 言語学およびその関連分野	映画研究	日/英
教授	藤原隆男	人間情報学	デザイン学	日
教授	秋山功	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
教授	別所直哉	経済学・経営学	法と経済学	日
教授	Cyryl Koshyk	思想, 芸術およびその関連分野	Film Production / Entertainment	英
教授	周培彦	歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野	史学一般関連	日
教授	孫躍新	建築学およびその関連分野	建築史および意匠関連	日
教授	福嶋雅夫	情報科学・情報工学	数理情報学	日

教授	眞弓浩三	経済学・経営学	経済政策	日/英
教授	古澤昌宏	経済学・経営学	経営学関連	日
教授	近藤正	人間情報学	ソフトコンピューティング	日
教授	赤石雅典	人間情報学	知能情報学	日
教授	石田勝則	情報科学・情報工学	ソフトウェア工学	日
教授	真野宏子	思想, 芸術およびその関連分野	美術史	日
教授	蔡全勝	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日
教授	三浦仁	人間情報学	ヒューマンインタフェースおよびインタラクション	日
教授	飯田史雄	応用情報学	エンターテイメントおよびゲーム情報学	日
教授	千葉博人	応用情報学	エンターテイメントおよびゲーム情報学	日
教授	Volodymyr Mygdalskyy	数学	Applied Analytics	日/英
教授	Viktoriiia Migdalska	文学, 言語学およびその関連分野	Japanese Language Education	日/英
教授	岳五一	情報科学・情報工学	情報ネットワーク	日
教授	多川響子	思想, 芸術およびその関連分野	音楽論	日
准教授	高橋良子	思想, 芸術およびその関連分野	美術史関連	日
准教授	竹田明彦	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
准教授	大西健吾	人間情報学	デザイン学	日
准教授	青木成一郎	教育学	科学教育	日
准教授	中口孝雄	応用情報学	ウェブ情報学およびサービス情報学	日
准教授	胡明	情報科学・情報工学	数理情報学	日/英
准教授	望月バドル	情報科学・情報工学	ネットワークアーキテクチャ	日/英
准教授	Amit Pariyar	応用情報学	Social Informatics	英
准教授	増田祐子	心理学およびその関連分野	臨床心理学関連	日/英
准教授	安平勲	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
准教授	松尾伊都	観光学	観光学	日/英
准教授	梶谷明大	人間情報学	画像処理	日
准教授	川倉慎司	人間情報学	ヒューマンインタフェースおよびインタラクション	日
講師	山崎聡	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
講師	寺下浩	人間情報学	環境デザイン 空間デザイン	日
講師	Kyriakos Melas	思想, 芸術およびその関連分野	Food Direction, Chef	英
講師	井上清美	経済学・経営学	経営学関連	日
講師	李兆剛	文学, 言語学およびその関連分野	外国語教育	日/英
講師	大野広敬	船舶海洋工学	船舶海洋工学	日
講師	大槻佐保子	思想, 芸術およびその関連分野	芸術実践論	日
講師	松村寿之	経済学・経営学	金融およびファイナンス	日/英

講師	上野未貴	人間情報学	感性情報学	日
講師	前川真司	情報科学・情報工学	データベース	日
助教	永野直人	経済学・経営学	会計学	日
助教	小寺敦子	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日
助教	田中恵子	応用情報学	学習支援システム	日/英
助教	栗田量夫	情報科学・情報工学	情報ネットワーク	日
助教	西村祐二郎	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日
助教	奥泉洋子	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日/英
助教	岸田憲也	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日/英
助教	董慧敏	応用情報学	ウェブ情報学およびサービス情報学	日
助教	藤戸俊行	応用情報学	環境動態解析関連	日
助教	蔣丹	教育学	高等教育学	日
助教	Ton Nu Quynh Thi	経済学・経営学	経営学関連	日/英
助教	伊藤雅之	応用情報学	図書館情報学および人文社会情報学	日/英
助教	蔣輝	情報科学・情報工学	ソフトウェア	日
助教	Nepal Ananda	情報科学・情報工学	Computer Systems	日/英
助教	小林祐也	教育学	教育学	日
助教	Matej Drdla	情報科学・情報工学	Software	英
助教	許領君	経済学・経営学	経営学関連	日
助教	Pernau Alexandra	思想, 芸術およびその関連分野	芸術実践論	日/英
助教	Nishan Sameera	経済学・経営学	Human resource management	日/英
助教	許洽	情報科学・情報工学	データベース関連	日
助教	常振雲	情報科学・情報工学	計算機システム	日
助教	陳曦	経済学・経営学	商学	日
助教	Katerina Kvochova	観光学	Tourism	英
助教	Milan Kostak	人間情報学	Softcomputing	英
助教	孫宜蒙	人間情報学	ソフトコンピューティング関連	日
助教	Giri Rabin	観光学	Tourism	日/英
助教	George Liluashvili	情報科学・情報工学	Information Security	英
助教	Limanjaya Ryan	情報科学・情報工学	Information Networks	英
助教	鄭爽	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日
助教	Maharjan Suraj	経済学・経営学	経営学	日/英
助教	Oyunaa Nomin	文学, 言語学およびその関連分野	Foreign Language Education	日/英
助教	Dinh Duy Tai	情報科学・情報工学	データサイエンス	英
助教	Arantxa Ramos	人間情報学	Designing	日/英
助教	Prabachan Shrestha	経済学・経営学	Business Administration	日/英

助教	De Laurentis Saskia	教育学	Pedagogy	日/英
助教	Nguyen Phu Thanh	人間情報学	知能情報学	日/英
助教	Kwanjira Kaewfak	経済学・経営学	経営学関連	英
助教	龐月婷	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日
助教	片平英里	文学, 言語学およびその関連分野	日本語教育	日
助教	王麗鳳	経済学・経営学	経営学関連	日
助教	張世界	情報科学・情報工学	情報ネットワーク	日

※氏名の下線はアドミニストレーション教員（アドミニストレーション教員については後述する）

(ii) 教育支援体制

事務部による教育支援体制は以下のとおりである。事務部は、研究科長のもとに設けられ、その下に総務課、教務課、学生課を配置している。教育支援に関する業務内容は、「事務分掌規程」において、次のように定めている。（（ ）内は、各課に配置されている職員数）

表 4-3 事務部の業務内容（事務分掌規程より抜粋）（2023年5月1日現在）

担当課	業務内容
総務課（6名）	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生に関する業務 ・学校行事に関する業務 ・同窓会に関する業務 ・情報システム管理
教務課（6名）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業運営に関する業務 ・成績評価試験の実施に関する業務 ・学生の成績管理・学位授与に関する業務 ・各種証明書の発行に関する業務 ・図書室の利用と管理に関する業務 ・教育の自己点検、評価に関する業務
学生課（8名）	<ul style="list-style-type: none"> ・修学指導支援に関する業務 ・生活指導支援に関する業務 ・課外活動支援に関する業務

また、本学では教員が教育行政、学校経営等を理解し、教員と職員とが円滑なコミュニケーションを促進し、効率的に業務を遂行することを目的として、アドミニストレーション教員（組織規程第16条）を配置し教育部門と事務部門との情報共有を緊密に図っている。（アドミニストレーション教員については後述する。）

○学修指導業務

上記の教育支援体制に加えて、本専攻では、学生に対しアカデミックコーディネーターによるきめ細かな支援を行っている。教員は単に授業を担当するのみでなく、アカデミックコーディネーターとして、学生の志向・特性に沿って彼らの履修計画の決定に関するアドバイスや、その後の進行状況のチェックを行う。これに対して、事務部は、定期的に学生の出席状況やGPAを確認し、GPAが一定より下回る学生については、アカデミックコーディネーターに連絡を行い、これを受けて、アカデミックコーディネーターは

当該学生に対して面談を行うなど、学修状況の把握と学生指導を行う。このように、アカデミックコーディネーター（教員）と事務部は連携を図り、教育支援の体制をとっている。

また、本専攻の教職員は、各学生の特記事項や面談内容を学生情報管理システムに入力し、情報を共有し、学生指導に活用している。（図 4-1、図 4-2）

図 4-1 学生情報管理システムトップページ

学籍番号	M19W	クラス	M2B	生年月日	1997年
フリガナ		性別	男性	入学日付	2019年
氏名		在籍状態	卒業	卒業予定日	2021年
英語氏名					
所属学科	KCGI応用情報技術研究科ウェブビジネス技術専攻				
連絡先	個人情報	大学院成績	KCG・KCGM成績	進路希望状況	取得資格
面談記録	出席	学費	進路活動	内定状況	

面談状況 [M19W7153]						面談・指導内容登録
	日付	時間	面談方法	面談種類	対応者	面談内容
更新	20210316	13:00 ~ 13:20	その他	学業	中口	Zoomにて履修相談。44単位まであと8単位。ウェブシステム開発の講義は多数取れており、4セメスタはアニメや金融を履修したいとのこと。問題ないの了承。学校生活で特に困っていることはなく、問題なく過ごしている。
更新	20200910	13:00 ~ 13:20	その他	学業	中口	Zoom面談を行った。履修登録の相談と、オンライン授業に関する感想や不満など。履修登録については、順調に履修できており、選択内容も問題ないため登録を許可。オンライン授業は、対面よりも参加しやすく、自分にとっては今の形の方が良いとのこと。春学期に受けたオンライン授業も、どれも特に不満はないとのこと。
更新	20200713	16:20 ~ 16:30	電話	出席指導	重	ウェブプログラミング(a1)の4月、5月の出席率が低い電話指導を行った。1回は欠席したが、他は出席しているとのこと。その後はすべて出席しており、欠席扱いとなった原因を担当先生に相談するとのこと。

図 4-2 学生情報管理システム面談記録（例）

○授業運営支援業務

履修者人数が多い授業や実習を伴う授業などにおいては、授業担当者の申請により、ティーチングアシスタント（TA）を配置している。

また、2023年度より、反転授業を実践していくための仕組みとして認定TA制度を開始している。認定TA制度は、高等教育・学習革新センターによるTA研修を修了し、同センターの教員の面談を経て、登録されたTAで教員の反転授業を行う授業運営をサポートする。認定TAの詳細については基準7に記載する。

《引用・裏付資料名》

1. 表3 専攻関係基礎データ：専任・兼任教員個別表（p.6）
2. 学校法人京都情報学園組織図 （資料番号 4-3, p.786）

《実地調査閲覧資料名》

1. 組織規程 （資料番号 24）
2. 事務分掌規程 （資料番号 25）
3. ティーチングアシスタント規程 （資料番号 26）

(3) 専任教員数に関わる法令の遵守

専門職大学院に配置する教員数については、文部科学省告示第五十三号において以下のように定められている。

(専攻ごとに置くものとする専任教員の数)

第一条 専門職学位課程には、専攻ごとに、平成十一年文部省告示第百七十五号（大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件）の別表第一及び別表第二に定める修士課程を担当する研究指導教員の数の一・五倍の数（小数点以下の端数があるときは、これを切り捨てる。）に、同告示の第二号、別表第一及び別表第二に定める修士課程を担当する研究指導補助教員の数を加えた数の専任教員を置くとともに、同告示の別表第三に定める修士課程を担当する研究指導教員一人当たりの学生の収容定員に四分の三を乗じて算出される収容定員の数（小数点以下の端数があるときは、これを切り捨てる。）につき一人の専任教員を置くものとする。

2023年5月1日現在の本学の収容定員は1300名であり、上記の告示に基づき計算した必置教員数は130名となる。表4-1のとおり、本専攻の専任教員は132名であり、当該法令の基準を満たしている。

《引用・裏付資料名》

1. 表2 専攻関係基礎データ：教員組織 (p.4)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(4) 専任教員が一専攻に限り専任であることに関わる法令の遵守

専任教員が一専攻に限り専任であることに関しては、文部科学省告示第五十三号2項において以下のよう定められている。

2 前項の規定により専攻ごとに置くものとされる専任教員は、専門職学位課程について一専攻に限り専任教員として取り扱うものとする。

本学は、一専攻のみのため、本学の専任教員が他の専攻の専任を兼ねることはない。よって、当該法令の基準を満たしている。

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(5) 教授の数に関わる法令の遵守

専任教員の教授の数に関しては、文部科学省告示第五十三号3項において以下のように定められている。

3 第一項の規定により専攻ごとに置くものとされる専任教員の数の半数以上は、原則として教授でなければならない。
--

本専攻は、表4-1のとおり、専任教員132名中、67名が教授であり、構成比率は50.8%が教授である。よって、当該法令の基準を満たしている。

《引用・裏付資料名》

1. 表2 専攻関係基礎データ：教員組織(p.4)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(6) 専任教員の指導能力等に関わる法令の遵守

本専攻の専任教員の研究教育分野ならびに教育・研究業績については、表 4-2「専任教員の研究教育分野に関する一覧表」および専攻関係基礎データ（表 4）の記載のとおりであり、本専攻の開講する科目群に対して適切な教員構成となっている。

専任教員の指導能力については、専門職大学院設置基準第五条に以下のように規定されているが、いずれにおいても十分に基準を満たしており、教育・研究、実務実績からなる高度な技術・技能、あるいは一芸に秀でた優れた知識・経験を有しており、高い指導能力を備えていると判断できる。なお、本専攻の専任教員を専門職大学院設置基準第五条に規定される3つの基準に照らして分類したところおよそ以下のようになる。（表 4-4）

<p>第五条 専門職大学院には、前条に規定する教員のうち次の各号のいずれかに該当し、かつ、その担当する専門分野に関し高度の教育上の指導能力があると認められる専任教員を、専攻ごとに、文部科学大臣が別に定める数置くものとする。</p> <p>一 専攻分野について、教育上又は研究上の業績を有する者</p> <p>二 専攻分野について、高度の技術・技能を有する者</p> <p>三 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者</p>

表 4-4 専任教員を専門職大学院設置基準第五条の分類に区分した場合の一覧

一 専攻分野について、教育上又は研究上の業績を有する者	富田眞治, 寺下陽一, 英保茂, 土持ゲーリー法一, 長谷川亘, 茨木俊秀, 作花一志, Milan Vlach, Peter G. Anderson, William K. Cummings, 向井正, 岡本敏雄, 向井苑生, Mark Hasegawa Johnson, 中村行宏, 高橋豊, 高橋良英, 今井正治, 藤原隆男, 福嶋雅夫, 眞弓浩三, 近藤正, 眞野宏子, 蔡全勝, Volodymyr Mygdalskyy, 岳五一, 青木成一郎, 中口孝雄, 胡明, 望月バドル, Amit Pariyar, 川倉慎司, 大槻佐保子, 上野未貴, 蔣輝, 小林祐也, 常振雲, 陳曦, George Liluashvili, Dinh Duy Tai, Nguyen Phu Thanh, Kwanjira Kaewfak (42名)
二 専攻分野について、高度の技術・技能を有する者	柏原秀明, 高弘昇, 森田正康, 内藤昭三, 手塚正義, 植田浩司, Maya Bentz, Fredric Laurentine, 武田康廣, 中村真規, 里見英樹, 立石聡明, 渡邊昭義, 劉非, 北山寛巳, 李美慧, Nitza Melas, 伊藤博之, 松尾正信, 野一色康博, 李鶴, モディカ静香, 田中久也, Stanford Gold, 甲斐良隆, 倉谷昌伺, 藤原正樹, 長谷川功一, 秋山功, 別所直哉, Cyryl Koshyk, 周培彦, 孫躍新, 古澤昌宏, 赤石雅典, 石田勝則, 三浦仁, 飯田史雄, 千葉博人, 多川響子, 竹田明彦, 大西健吾, 安平勲, 松尾伊都, 梶谷明大, 山寄聡, 寺下浩, Kyriakos Melas, 井上清美, 大野広敬, 松村寿之, 前川真司, 永野直人, 栗田量夫, Ton Nu Quynh Thi (55名)
三 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者	長谷川晶, Viktoriia Migdalska, 高橋良子, 増田祐子, 李兆剛, 小寺敦子, 田中恵子, 西村祐二郎, 奥泉洋子, 岸田憲也, 董慧巖, 藤戸俊行, 蔣丹, 伊藤雅之, Nepal Ananda, Matej Drdla, 許領君, Pernau Alexandra, Nishan Sameera, 許洽, Katerina Kvochova, Milan Kostak, 孫宜蒙, Giri Rabin, Limanjaya Ryan, 鄭爽, Maharjan Suraj, Oyunaa Nomin, Arantxa Ramos, Prabachan Shrestha, De Laurentis Saskia, 龐月婷, 片平英里, 王麗鳳, 張世界 (35名)

《引用・裏付資料名》

1. 表 4 専攻関係基礎データ：専攻関係基礎データ：専任教員の教育・研究業績(p. 42)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(7) 実務家教員数と実務家教員の配置に関わる法令の遵守

実務家教員数については、文部科学省告示第五十三号 第 2 条において以下のように定められている。

(専攻分野における実務の経験及び高度の実務の能力を有する教員)

第二条 前条第一項の規定により専攻ごとに置くものとされる専任教員の数のおおむね三割以上は、専攻分野におけるおおむね五年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者とする。

本専攻における専任教員は 132 名であり、上記の法令上、おおむね 40 名以上の実務家教員を配置する必要があるが、本専攻においては 57 名の実務家教員を配置しており、法令を満たしている。

《引用・裏付資料名》

1. 表 2 専攻関係基礎データ：教員組織(p. 4)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(8) 専任教員による主要科目担当に関わる法令の遵守

2022 年度の本専攻における主要科目とその担当者は表 4-5 のとおりである。本専攻の主要科目については専任教授または准教授が代表教員（○印）として授業を設計して統括し、他の教員と分担して担当している。よって、法令を満たしている。

表 4-5 2022 年度の主要科目と担当者の一覧

必修科目／専門分野	主要科目	担当者
必修科目	リーダーシップセオリー	○長谷川亘教授, Sanford Gold 教授, モディカ静香教授, 真野宏子教授, 倉谷昌伺教授, 中村真規教授, 長谷川晶教授, 森田正康教授, 高橋良子准教授, Nouvel Benjamin 准教授, Amit Pariyar 准教授, 松村寿之講師, 董慧澈助教, 伊藤雅之助教, 小林祐也助教, 孫宜蒙助教, 胡明准教授, Nepal Ananda 助教, Katerina Kvochova 助教, Giri Rabin 助教, Maharjan Suraj 助教, Limanjaya Ryan 助教, Prabachan Shrestha Haluwai 助教, Nishan Sameera 助教, De Laurentis Saskia 助教, Oyunaa Nomin 助教
専門分野	主要科目	担当者
人工知能	人工知能概論	○石田勝則教授, 今村耕介講師 (兼任)
	機械学習	○高橋良英教授
データサイエンス (ビジネスデータアナリティクス)	データ解析 I (データサイエンス)	○作花一志教授, Hannah Nolasco 講師 (兼任)
	データベース特論	○佐藤孝司教授, Roberto Espinoza Chamorro 講師 (兼任)
ウェブシステム開発	ウェブプログラミング II	○野一色康博教授, 李鶴教授, 安平勲講師, Milan Kostak 助教
	ソフトウェア工学	○松尾正信教授, Nguyen Ngoc Binh 客員教授 (兼任), Dinh Duy Tai 助教
ネットワーク管理	情報ネットワーク特論,	○高橋豊教授
	IoT と無線ネットワーク	○今井正治教授, Matej Drdla 助教
グローバル・アントレプレナーシップ (IT アントレプレナーシップ)	ウェブビジネス概論	○高弘昇教授, 松尾伊都准教授
	企業経営実践論	○北山寛巳教授, 松尾伊都准教授
ERP	企業システム	○藤原正樹教授, Ton Nu Quynh Thi 助教
	業務の統合化と e ビジネス	○藤原正樹教授, 李鶴教授, Maharjan Suraj 助教,
IT マンガ・アニメ	リッチメディアコンテンツ開発	○植田浩司教授, 藤原隆男教授, 簡逸威講師
	デジタル・アニメーション制作	○植田浩司教授, 千葉博人教授, Arantxa Ramos 助教
観光 IT	グローバル人材開発論	○土持ゲーリー法一教授, 李美慧教授, 李兆剛, 蔣丹助教, Nishan Sameera 助教
	映像構成論	○長谷川功一教授

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(9) 教員の年齢構成に関わる法令の遵守

教員の年齢構成について、大学院設置基準第8条5項において以下のように定められている。

第八条

五 大学院は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。

本専攻の専任教員の年齢ごとの人数と割合は、表4-6のとおりである。最新の技術演習的な科目については、若手中心に実務的な教育を行っている。また、表面的なあるいは短期的な風潮に流されるのではなく、技術の底流にある考え方や将来への見通しなどを考慮しつつ、カリキュラムなどの更新を的確な判断で実施していくことも、専門職大学院としては重要であると考えており、そういった面においてベテラン教員の果たす役割は極めて重要であると考えている。教員の年齢比率においては、いわゆるベテラン教員・中堅・若手教員が補完し合いながら、概ねバランスのとれた年齢構成である。

表4-6 専任教員の年齢ごとの人数と割合 (2023年5月1日現在)

年 齢	人 数	比 率
21～30 歳	4	3.0%
31～40 歳	31	23.5%
41～50 歳	19	14.4%
51～60 歳	26	19.7%
61～70 歳	26	19.7%
71 歳以上	26	19.7%

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(10) 専任教員の本務外業務に関わる法令の遵守

先述のとおり、本学では教員が教育行政、学校経営等を理解し、教員と職員とが円滑なコミュニケーションを促進し、効率的に業務を遂行することを目的として、アドミニストレーション教員（組織規程第16条）を配置し教育部門と事務部門との情報共有を緊密に図っている。また、教員がアドミニストレーションを事務職員とともに行うことにより、学生に対して、より身近な目線での指導も可能となり、有効な教育支援の仕組みとなっている。現在、アドミニストレーション教員は、授業時間などにも配慮のうえ、8名を配置している。（表4-7）（以下、組織規程第16条 アドミニストレーション教員より抜粋）

（アドミニストレーション教員）	
第16条	教育職員が教育行政、学校経営等を理解し、また教育職員と事務職員との円滑なコミュニケーションを促進すること、業務の効率化を図ることなどを目的とし、必要に応じてアドミニストレーション教員を置く。
2	アドミニストレーション教員は、学長の意見を聴いて理事長が任命する。
3	アドミニストレーション教員は、法人事務局、事務部、アドミッションセンターまたはキャリアセンターに配置する。
4	アドミニストレーション教員の授業時間は、原則として年間16時間までとする。ただし、本人が16時間を超える授業時間を望みかつ業務に支障がないと学長が判断する場合は妨げない。

表4-7 アドミニストレーション教員（2023年5月1日現在）

職位	氏名	担当事務業務
教授	高橋 豊	キャリアセンター長
教授	李 美慧	アドミッションセンター長
助教	奥泉 洋子	事務部長、教務課長
助教	小寺 敦子	法人事務局、学生課長、
助教	董 慧敏	学生課
助教	伊藤 雅之	教務課
助教	岸田 憲也	アドミッションセンター
助教	蔣 丹	アドミッションセンター

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

1. 組織規程（資料番号27）

(11) 科目等履修生等受け入れの際の専任教員増に関わる法令の遵守

科目等履修生の受け入れに関しては、科目等履修生規程に基づき、正規生の学習の支障のない範囲において受け入れを行っている。2023年1月時点での本専攻の科目等履修生は表4-8のとおりであり、教育指導ならびに設備面においてもまったく支障のない範囲である。表4-7は、2018年度春学期からの各学期における科目等履修生の人数である。

表4-8 各学期の科目等履修生の人数一覧

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
春学期	2名	0名	1名	2名	1名
秋学期	5名	2名	0名	0名	3名

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

1. 科目等履修生規程

(資料番号27)

(12) 2以上の校地での専任教員等の配置に関わる法令の遵守

2以上の校地において、教育を行う場合の専任教員の配置については、大学院設置基準第8条6項に次のように定められている。

第八条

六 大学院は、二以上の校地において教育を行う場合においては、それぞれの校地ごとに必要な教員を置くものとする。なお、それぞれの校地には、当該校地における教育に支障のないよう、原則として専任の教授又は准教授を少なくとも一人以上置くものとする。ただし、その校地が隣接している場合は、この限りでない。

本学の校地は、京都本校のみであり、2つ以上の校地において教育を行うことはない。よって、当該法令の基準を満たしている。

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(13) 教員の教育に関する貢献等の評価方法とその開示, 実施

(i) 教員の教育に関する貢献等の評価方法

本専攻の教員の教育に関する貢献等の評価, およびそれに関連する採用・昇任のプロセスについては, 「教育職員選考規程」に定めている。また, 採用・昇任に関する基本方針や職位ごとに必要とされる基準については「教育職員任用・昇任に関する内規」において定めている。その概要は以下のとおりである。

採用, 昇任に関する案件(以下, 人事案件)が生じた場合, 学長により人事委員会が適宜召集される。採用案件の場合, 候補者の学歴, 職歴, 教育業績, 研究業績および実務業績に基づき, 本学の定める基準を鑑み審査を行うほか, 本学の建学理念や使命・目的を理解し, 教育活動に取り組むための資質の有無について審査を行う。

昇任案件の場合, 昇任候補者の教育・研究業績, 校務活動, 社会貢献実績に基づいて審査を行う。教育業績に関しては, 「教員相互による授業評価」と「学生による授業評価」の評価結果を参考資料として用いる。

採用, 昇任いずれの場合も, 人事委員会での審査を経て, 最終的な採否は理事会にて決定する。

(ii) 教育貢献等の評価方法の開示状況

本専攻の教員の評価方法については, 「教育職員選考規程」「教育職員任用・昇任に関する内規」を就業規則ともに教職員がいつでも閲覧できるように事務室に備え付けるとともに, イントラネットにもアップしている。

(iii) 教育貢献等の評価の実績

本専攻では, 先に述べた教育貢献等の評価の結果, 資料に示すとおり昇任を行っている。(資料番号 4-4 資料番号 4-5, 資料番号 4-6)

《引用・裏付資料名》

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 教育職員選考規程 | (資料番号 4-1, p. 782) |
| 2. 教育職員任用・昇任に関する内規 | (資料番号 4-2, p. 784) |
| 3. 過去5年の昇任者 | (資料番号 4-4, p. 787) |
| 4. 教員相互による授業評価フォーマット | (資料番号 4-5, p. 788) |
| 5. 「学生による授業評価」入力フォーム | (資料番号 4-6, p. 794) |

《実地調査閲覧資料名》

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 人事委員会議事録 | (資料番号 28) |
|-------------|-----------|

(14) 教員間ネットワークの存在と活動の実施

(i) 教員間連絡ネットワーク

本専攻における主な教員間連絡ネットワークとしては、大学院委員会、授業報告会、さらには理事長、学長、副学長で行われる理事長教育諮問会議などがあげられる。

○大学院委員会

大学院委員会は、原則として隔週で定例会議が開催されており、教授・准教授を委員として構成するが、教授・准教授以外の教員や事務職員も必要と認めるときは参加し意見を述べるができる。大学院委員会では、課程の修了、学位の授与などに関する審議などの他に教育課程の編成に関すること（大学院委員会運営規程 第4条3号）および、教育研究に関する重要な事項で、委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの（大学院委員会運営規程 第4条4号）に関して審議し、学長に意見を述べる。（以下、大学院委員会運営規程より抜粋）

(構成)

第2条 委員会は、本学大学院の教授および准教授をもって構成する。ただし、学長が必要と認めた場合は、その都度構成員以外の教職員の出席を求め、参考意見を聴くことができる。

2 委員会は学位授与の審議に関し、必要と認めるときは、前項の規程による構成員以外の教職員を、その都度その構成に加えることができる。

3 大学院学則第7条第7項に定める他の大学・大学院または企業等において研究指導を受けることを認めたときは、当該学生の研究指導に関する事項に限り、当該学生の指導教員を構成に加えることができる。

(議決)

第3条 委員会は、委員の過半数をもって成立し、出席者の過半数により議決する。ただし、「学位規程」に定められた事項については、出席者の3分の2以上により議決する。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項について審議し、学長に対して意見を述べるものとする。

1. 学生の入学および課程の修了、学位の授与
2. 学生の退学、転学、留学および懲戒に関すること
3. 教育課程の編成に関すること
4. 前号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

○授業報告会

授業報告会は、各学期の終了時に高等教育・学習革新センター（Center for Teaching and Learning Excellence : CTLE）が開催している。

授業報告会では、新任教員が担当する科目、あるいは新規開講科目を中心に専攻主任が選定し、授業シラバス、授業コンテンツ、成績評価の方針と成績分布、学生からの意見などについて当該科目の担当教員より報告される。また、CTLE から「学生による授業評価」や「教員による相互評価」の結果と改善策および今後の対策についても報告される。各報告の後には質疑応答の時間が設定されており、他の教員からの質問や授業に関する意見交換がなされる。授業報告会によって、その授業の教授法、評価方法などに関して情報共有し、当該授業の改善に繋げていくようにするとともに、参加している教員も報告会における議論を通じて、各自の授業にも適用できる部分を汲み取っており、FDの活動の一環として位置づけ実施している。

○理事長教育諮問会議

理事長教育諮問会議は、理事長、学長、副学長で構成される会議として、2020年12月に第1回目の会議が開催され、以降、原則として隔週で定例会議が開催されている。グループ全体における決定事項についての情報共有、本学の基本方針の策定、大学院委員会で議論されるべき事項の議案策定などが行われ、必要に応じて、大学院委員会にて報告・情報の共有がなされる。

(ii) 教員間連絡ネットワークの活動実績

○専門分野内及び専門分野間連携による科目やコースパスウェイ等の見直し

本専攻では各専門分野に主任、副主任が配属されており、専門分野ごとに適宜開催される会議へ各教員が参加している。専門分野主任の主導のもとで会議において、専門分野で学ぶべき内容に関する議論、マスタープロジェクト実施状況等の情報共有、また必要に応じて科目の新規開講や名称変更、コースパスウェイの改訂などの検討を行っている。専門分野内での検討した結果を持ち寄り専門分野主任が集まる会議において、全体的な変更について議論する。例えば、「ウェブプログラミング I」「情報ネットワーク概論」「応用情報技術のための数学」「コンピュータ構成論」「ITのための統計学」「データベース概論」「コンピュータプログラミング概論」を2022年春学期カリキュラムより「基礎科目」とすることや、専門分野認定のための科目を「専門分野認定科目」と呼称することなどの方針が議論され、大学院委員会の審議を経て、学長が決定した。(資料番号4-7)

○専門分野「人工知能」の設置

数学教育検討会を中心に2019年度10月より11回の討議を経て2021年度秋学期より、第8番目の専門分野として「人工知能」を設置し、開講した。同時期に、次のような人工知能やデータサイエンスのモデルカリキュラム案が提案され、また一部大学では関連した学科・学部などが新設/検討が進められてきた。

- ・数理・データサイエンス・AI（リテラシー、基礎応用レベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～（数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム、2020年2月）
- ・Computing Competencies for Undergraduate Data Science Curricula, (ACM Data Science Task Force, January 2021)
- ・データサイエンスカリキュラム標準案（専門教育レベル）（情報処理学会、2021年2月）

これらのモデルカリキュラムを参考にしつつ、本専攻が設置する専門分野「人工知能」のカリキュラムについて検討を重ねた。本専攻の人工知能専門分野では、人工知能の基礎理論やデータサイエンスなどの関連技術を学び、人工知能の応用分野でそれらがどのように活かされているのかを実例を通して理解し、その上で多くの人工知能関連ソフトウェアに習熟して人工知能技術を活用できる専門家の育成を目指す。また、人工知能応用ソフトウェアの開発をも担える高度な技術者の育成プログラムも準備している。

○基礎数学科目の開講

本専攻に入学する学生は多様なバックグラウンドを有しており、文科系出身の学生も多く、基礎数学に関する知識が十分でない学生もいる。そのため、次の目標達成のため、2019年4月に数学教育検討会を設置し、学生に対する基礎数学に関する小テスト、高等学校/大学の数学教育内容の調査を含め、都合12回の会合を持ち、授業項目を精査した。(1) IT専門職大学院であるKCGIの修了生として相応しい数学学力のレベル向上を図る、(2) 多様なバックグラウンドを有し、多様なキャリアパスを目指す学生に配慮した数学教育を実施する。この精査の結果に基づき、次の3科目を開講した。

- ・応用情報技術のための数学（2019年秋学期より新規開講）
- ・ITのための統計学（2019年秋学期より既開講科目を一部変更して開講）
- ・人工知能のための数学（2020年度春学期より新規開講）

今後PDCAサイクルを回し、また学生の入学時点と修了時点での基礎数学の学力比較などを行い、一層の改良を目指す予定である。(表4-8)

表 4-8 基礎数学関係の科目の履修者数の推移

応用情報技術のための数学							
	2019 年秋	2020 年春	2020 年秋	2021 年春	2021 年秋	2022 年春	2022 年秋
履修者数	122	217	166	143	160	192	129
IT のための統計学							
	2019 年秋	2020 年春	2020 年秋	2021 年春	2021 年秋	2022 年春	2022 年秋
履修者数	302	212	161	157	145	182	190
人工知能のための数学							
	2019 年秋	2020 年春	2020 年秋	2021 年春	2021 年秋	2022 年春	2022 年秋
履修者数	—	34	28	31	29	24	20

《引用・裏付資料名》

1. 専門分野主任, 副主任一覧

(資料番号 4-7, p. 798)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(15) 教員の質的向上を図る仕組み(FD)の存在、開示、実施

(i) 「高等教育・学習革新センター (Center for Teaching and Learning Excellence : CTLE)」の設置

2019年4月1日に高等教育・学習活動の継続的な改善・革新の推進を目的として、土持ゲーリー法一教授・副学長をセンター長とする高等教育・学習革新センター (Center for Teaching and Learning Excellence : CTLE) を設置した。同センターでは、FDとして、「教員相互による授業評価」、「授業報告会」等を実施しているが、これに加え教育及び学修支援活動やアクティブラーニングの活性化を図るとともに、今後、授業の実態を調査し、収集したデータをもとに、本専攻の教育の質的向上を多面的に検討している。

なお、本センター設置から2022年度までに教育の質的向上を目的として開催した研修及び学修支援活動の実績については次表のとおりである。

また、2023年度は、『戦後日本の大学の近未来～外圧の過去・混迷する現状・つかみ取る未来』を読み解く」と題して高等教育のあり方について研修を行う予定である。

表 4-9 教育の質的向上を目的として開催した研修及び学修支援活動の実績

実施日	内容等
2019/8/31～9/1	授業の設計に関する研修（於滋賀）
2019/12/4	成績評価方法を考えよう
2020/1/15	アクティブラーニングと反転授業
2021/2/12	ポストコロナ時代の授業のあり方を考える
2021/2/12	学習者中心シラバスと授業デザイン
2021/2/12	単位制と成績評価
2021/2/12	オンライン授業と反転授業
2021/7/28	教員のための授業ガイド策定
2021/9/22, 27, 29	教育及び学習支援活動研修（アクティブラーニングを中心に）
2022/11/26	反転授業の活性化のための認定 TA 研修

また、CTLE センター長である土持ゲーリー法一教授の論考をイントラネットにアップして、教職員の質的向上のための資料としている。なお、土持ゲーリー法一教授が本学着任以降にアップされた論考は以下のとおりである。

タイトル	発行年月日
「SoTL 学識研究への誘い」	2019年5月8日
「大学と社会の連携」	2019年8月21日
「アクティブラーニングの現状と課題」	2019年11月13日
「アクティブラーニングの評価方法としての ICE モデル（全10回）」（※）	2019年11月～2020年1月
「単位制を再考する」	2020年5月13日
「ウイズ/ポスト・コロナ時代の授業のあり方～どう変わり、どう対応するか～」	2020年9月9日
「オンラインにおける反転授業」	2020年11月11日
「新制大学の終焉」	2021年1月13日
「オンライン授業とアカウンタビリティ～いま、大学は何ができるか～」	2021年3月17日
「エデュケーション・ディベロッパーの資質」	2021年6月2日
「ニューノーマルにおける高等教育の DX～ミネルヴァ大学の挑戦」	2021年7月28日
「観察された学修成果の仕組み～SOLO タクソノミー」	2021年10月13日

「学習させる『仕掛け』アセスメントと学習方法の整合性」	2021年12月15日
「文理融合を促すリベラルアーツ教育～STEM から STEAM へ」	2022年4月20日
「自律的学習者を育てるには～リカレント教育のための条件整備」	2022年6月1日
「『越境する学び』を促すリベラルアーツ教育」	2022年7月20日
「経営管理学修士から美術学修士へ～サイエンスからアートへの転換を示唆」	2022年9月7日
「学習者の心にどう火をつけるか～北風型アプローチと太陽型アプローチ」	2022年11月16日
「DXには発想の転換が必要～思考法の切り替えを促すリベラルアーツ教育～」	2023年1月11日
「ノーベル賞には自然科学への政策シフトが絶対条件か」	2023年3月8日

(※) は、教育新聞に掲載。その他はすべて教育学術新聞にて掲載。

○教員相互による授業評価

春学期・秋学期に各1回、本学が開講する授業科目について教員が授業を参観すると共に、授業シラバスやコンテンツなどの授業準備状況、授業の進め方や学生への対話等の授業実施状況、KING-LMS（学習管理システム）の利用状況などの項目について評価する。評価結果は担当教員にフィードバックされ、次期の授業改善の参考として利用している。

○授業報告会

授業報告会は各学期の終了時に開催している。授業報告会では、授業シラバス、授業コンテンツ、成績評価の方針と成績分布、学生からの意見などについて授業担当者より報告される。さらには「学生による授業評価」や「教員相互による授業評価」の結果と改善案も述べられる。各報告の後には質疑応答の時間が設けられており、他の教員からの質問や授業に関する意見交換がなされる。

(ii) その他の教員の質的向上に資する活動 (FD)

CTLE 主導による FD に関する各種取組以外では、企業との連携などにより産業界の技術動向やニーズを知るための取り組みとして、一般社団法人京都府情報産業協会（京情協）との共催セミナーの開催、また、日本応用情報学会（Nippon Applied Informatics Society:NAIS）における研究活動などを行っている。

○一般社団法人京都府情報産業協会（京情協）との共催によるセミナーの開催

2000 年前後に、経産省主導の下で各都道府県に情報系企業の業界団体の設立が進められた。京情協は、京都府下唯一の府知事認可情報系業界団体である。本専攻は京情協と定期セミナーを共催し、情報産業界の技術動向を把握するとともに、企業との意見交換などから、人材をはじめ、実社会の求める様々なニーズなど情報収集を行っている。

○日本応用情報学会（Nippon Applied Informatics Society:NAIS）の研究活動

本学会は、本専攻の教員が中心となり立ち上げた学会で、競争の激化するグローバルビジネス環境の中、国内外の応用情報関連学協会と緊密に連携しながら、関連分野における人材の育成、IoT 関連ビジネス技術に関わる教育及び産業の発展に寄与することを活動の目的としている。本学会が年1回発行する「NAIS Journal」には、実学志向的な専門家らが研究開発した成果を多くの人々へ公開する場として本専攻の教員が多数投稿している。また、本学会が主催する研究会は、本専攻の教員や学生が業界の最新動向などに触れたり成果発表を行ったりする場ともなっている。

その他の FD（その他教員に対する授業の質的向上に資する活動）の開示方法

FD については、大学院委員会において実施日の周知を行うとともに、実施日が近くなれば、メール等に

より再度告知を行っている。

また、授業報告会や京情協との共催セミナーにおいて使用された資料は可能な限りイントラネットにアップし、当日、出席できなかった教員も内容が確認できるようにしている。

2018年度から2022年度に実施したその他のFDは以下のとおりである。

表 4-11 2018年度～2022年度 FD実施一覧

実施日	内容等
2018/6/26	京情協共催セミナー：「NVIDIA GPUが加速するディープラーニング」について
2018/10/12	京情協共催セミナー：「ICANNとICANN国際会議について」「ダークウェブで売買される企業情報とサイバー攻撃のサービス化」「観光先進国『京都』観光情報学の最前線」
2019/1/29	京情協共催セミナー：「インターネットがなくなる日～国内外のインターネットを支える裏部隊の光と闇～」
2019/3	NAIS Journal Vol. 13 発行
2019/6/27	京情協共催セミナー：「5G時代に向けたドコモの取り組みと目指す世界」について
2019/6/30	日本応用情報学会研究会
2019/10/30	京情協共催セミナー：「デジタル革命 ～激変する私たちの社会～」
2020/1/24	京情協共催セミナー：「量子コンピュータ、なぜ動いて、どう使う？」
2020/3	NAIS Journal Vol. 14 発行
2020/10/28	京情協共催セミナー：「深層学習の実例と求められるAI人材像」
2021/1/20	京情協共催セミナー：「インターネットは誰のもの？」
2021/2/6	日本応用情報学会研究会
2021/3	NAIS Journal Vol. 15 発行
2021/6/25	京情協共催セミナー：「『I OWN』構想について」
2021/11/4	京情協共催セミナー：「富岳によるSociety 5.0に向けた高性能計算テクノロジーによるデジタルツイン」
2022/1/21	京情協共催セミナー：「インターネットはユートピアかディストピアか？」
2022/2/23	日本応用情報学会研究会
2022/3	NAIS Journal Vol. 16 発行
2022/6/21	京情協共催セミナー：「Smart City」の今とこれから
2022/10/6	日本応用情報学会講演会：「今日のAI、明日のAI」
2022/11/17	京情協共催セミナー：「ゲームAIとスマートシティ＝メタバース」
2023/1/20	京情協共催セミナー：「1億総エンジニア社会に向けた京都発次世代エンジニア育成プログラムの創成」
2023/3/4	日本応用情報学会研究会
2023/3	NAIS Journal Vol. 17 発行

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(16) 職員の質的向上を図る仕組み (SD) の存在, 開示, 実施

本専攻における SD の取り組みの一環として, 全教員・職員が出席する「全体会議」を学内で実施している。「全体会議」では, 建学の理念, 使命・目的, 教育目標を改めて確認したり, 教員間, 教員と職員の情報共有・意見交換, コミュニケーションの促進や教育活動の現状と今後の予定の報告, さらに毎年行っている学生生活満足度調査の調査結果や学生対応を行う教職員からの意見等を参考に本学の教員・職員として必要な知識に関する研修会を実施している。また, 文部科学省や日本私立大学協会, 日本学生支援機構など外部機関が行うセミナー・研修会にも積極的に参加している。

SD の開示方法

SD においては, メールまたは事務部の会議などの際に実施日の周知を行っている。また, 全体会議においては録画し動画とともに当日の資料をイントラネットにアップし, 当日, 出席できなかった教員・職員が内容を確認したり, 出席した教員・職員でも復習ができるようにしている。また, 外部機関の開催するセミナー・研修会に出席した場合は, 当日の資料をイントラネットにアップし, 他の教員・職員がいつでも閲覧できるようにしている。

SD の実績

2018 年度から 2022 年度に実施または参加した SD は以下のとおりである。

表 4-12 2018 年度 SD 実施・参加一覧

実施日	内 容 等
2018/4/12	平成 30 年度私立大学経営・財政基盤強化に関する協議会
2018/4/12	2018 年度留学生対象就職支援事業説明会
2018/5/14	OGC シンポジウム 2018 地域と行政のデジタル化による生産性革命
2018/6/8	【東京しごとセンター】第 1 回大学等キャリアセンター職員向けセミナー
2018/6/12	大学経営協会 総会記念講演会
2018/6/19	平成 30 年度「全国キャリア・就職ガイダンス」
2018/6/19	平成 30 年度私立大学等経常費補助金説明会 (入門者向け)
2018/6/20	全体会議 (メンタルヘルス講習, 最新の IT 人材動向)
2018/6/21	平成 30 年度私立大学等経常費補助金説明会 (責任者向け)
2018/6/25	下鴨来日外国人安全対策協議会
2018/6/28	教育機関における留学生就職支援関係教職員セミナー
2018/6/29	京都府大学安全・安心推進協議会 専門委員会 (防犯対策)
2018/7/12	平成 30 年度外国人留学生の在留審査手続の申請取次に係る研修会
2018/7/28	大学コンソーシアム京都 英語スキルアップ研修 “Telephoning and Emails”
2018/8/30	全体会議 (教職員のあるべき姿, 留学生のためのやさしい日本語)
2018/9/6	地域企業連合会 九州連携機構 第 25 回記念東京セミナー
2018/9/8	大学コンソーシアム京都 英語スキルアップ研修 Cross-cultural Manners and English Communication in Higher Institutions
2018/9/13	平成 31 年度科学研究費助成事業公募要領等説明会
2018/9/20	I T 産業懇話会 大学向け I T 企業との情報交換会
2018/9/30	全体会議 (避難誘導訓練, AED について)
2018/10/11	平成 30 年度日本学生支援機構奨学業務連絡協議会
2018/11/15	留学生支援関係教職員セミナー
2018/12/7	全体会議 (ティーチングポートフォリオとは何か・なぜ必要かを考えよう, iCD を使った教育

	プラットフォーム構想)
2019/1/6	全体会議 (ティーチングポートフォリオを同僚と共有しよう, 個人情報保護研修)
2019/1/25	京都府大学安全・安心推進協議会 専門委員会 (防犯対策)
2019/3/8	全体会議 (・メンターリングでTPを深めよう, ブロックチェーン勉強会の報告, 呉海上自衛隊卒業式の報告)
2019/3/14	平成30年度日本学生支援機構奨学金採用・返還業務等研修会

表 4-13 2019 年度 SD 実施・参加一覧

実施日	内容等
2019/4/6	全体会議 (写真の撮り方)
2019/4/19	学校基本調査説明会
2019/4/25	平成31年度留学生スタディ京都ネットワーク総会・情報交換会
2019/6/4	外国人安全対策協議会
2019/7/2	平成30年度私立大学等経常費補助金説明会 (入門者向け)
2019/7/3	平成30年度私立大学等経常費補助金説明会 (責任者向け)
2019/7/5	京都府大学安全・安心推進協議会総会
2019/7/4	令和元年度 外国人留学生の在留審査手続の申請取次に係る研修会
2019/7/22	薬物乱用防止に係る大学等関係者セミナー
2019/8/20	全体会議 (サステイナブル・オープンイノベーション・センターの組織構成と事業計画, 高等教育の修学支援新制度(学費無償化)の概要)
2019/9/30	全体会議 (学生指導について, 高等教育の修学支援新制度の申請結果と今後の対応, Nitza プロジェクトとマンガ・アニメ委員会の今までとこれから, KCG 高等教育・学習革新センターについて)
2019/10/18	日本学生支援機構奨学金業務研修会
2019/10/23	2019 年 学生教育研究災害傷害保険説明会
2020/1/6	全体会議 (リーダーシップセオリー特論, 青雲丸の乗船報告)
2020/1/22	留学生事業に関する業務等説明会
2020/2/12	京都府大学安全・安心推進協議会総会

表 4-14 2020 年度 SD 実施・参加一覧

実施日	内容等
2020/7/15	薬物乱用防止に係る大学等関係者セミナー
2020/9/11	京都府大学安全・安心推進協議会総会
2020/9/18	留学生対象就業支援事業説明会
2020/9/30	全体会議 (KJLTC 春学期の様子に関する報告, 春学期の登校実績と学生の意見について (OSS) 教室利用マニュアル消毒編)
2020/10/1	令和2年度 教育学術新聞オンラインセミナー「ウィズコロナ時代の大学広報」
2020/11/4	全体会議 (教育リーダーシップについて)
2020/11/24	令和2年度全国キャリア教育・就職ガイダンス
2020/12/4	京都キャリア教育推進協議会・京都創生インターンシップ会議
2020/12/11	令和2年度 学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー「新型コロナウイルス感染症への対応と学生支援の課題」
2020/12/20	令和2年度「障害学生支援理解・啓発セミナー」

2020/1/5	全体会議（リーダーシップセオリー特論「開放的水平分散，文化人類学，儀式・儀礼，教育とは何か」授業関連資料の教職員間における共有について）
2021/2/22	全体会議（IPA人材白書2020，オンラインによる教員のシラバス研修）

表 4-15 2021 年度 SD 実施・参加一覧

実施日	内容等
2021/4/10	全体会議（専門職大学院とは，グローバルな教育展開，新校舎建設，新入教職員紹介）
2021/4/23	2021 年度留学生スタディ京都ネットワーク総会
2021/6/30	キャリア教育・就職支援の取組み
2021/8/12	大学学生課と京都弁護士会との意見交換会
2021/8	日本私立大学協会関西支部次第職員研修会 「私大職員として必要な基礎知識を学ぶ」
2021/8/27	外国人材の就職活動/採用活動 3 つのポイント
2021/9/10	京都府大学安全・安心推進協議会総会
2021/9/10	令和 3 年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム：『最新の出入国の状況について』文部科学省高等教育局学生・留学生課 留学生交流室長 高橋 一郎氏
2021/9/10	令和 3 年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム：『留学と薬物対策について』（警視庁組織犯罪対策部）
2021/9/28	特定技能の現在地・特定技能活用のポイント
2021/10/14	大学教務部課長相当者研修会
2021/10/25	全体会議（教員のための授業ガイド，人工知能専門分野の発足について，専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証，新入教職員紹介，京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）について，「京都情報大学院大学新校舎」建築概要・建設進捗状況）
2021/10/26	大学・高校実践ソリューションセミナー2021 秋 「BYOD を前提とした新たな学習環境」
2021/11/2	大学・高校実践ソリューションセミナー2021 秋 「学生サービスの改革」
2021/11/5	全体会議（本学の教育の基本）
2021/11/9	2021 年度 学生教育研究災害傷害保険説明会
2021/11/9	2021 年度留学生住宅総合補償説明会
2021/11/15	大学・高校実践ソリューションセミナー2021 秋 「働き方改革・学び方改革」
2021/11/18	令和 3 年度障害学生支援理解・啓発セミナー 令和 3 年度障害学生支援専門テーマ別セミナー
2021/11/20	2021 年度インターンシップ成果報告会
2021/11/25	外国人材採用企業の日本語コミュニケーション
2021/12/10	令和 3 年度 学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー
2022/1/5	全体会議（リーダーとしてのものの見方，Blackboard プロジェクト，ハイフレックスモデル教室の紹介）

表 4-15 2022 年度 SD 実施・参加一覧

実施日	内容等
2022/4/9	全体会議（専門職大学院とは，グローバルな教育展開，新校舎建設，新入教職員紹介）
2022/4/18	令和 4 年度 私立大学経営・財政基盤強化に関する協議会
2022/6/22, 23	令和 4 年度 全国キャリア教育・就職ガイダンス

2022/7/7	学生生活指導部課長相当者研修会
2022/7/13	外国人留学生の在留審査手続の申請取次に係る研修会
2022/7/27	薬物乱用防止に係る大学等関係者セミナー
2022/9/1	ロータリー米山記念奨学金指定校担当者説明会
2022/9/13, 14	障害学生支援実務者育成研修会
2022/9/9	京都府大学安全・安心推進協議会総会
2022/9/30	全体会議（クレーム電話の対応について、ハラスメントについて、各校舎の美化について、他）
2022/11/9	留学生住宅総合補償説明会，学生教育研究災害傷害保険説明会
2022/11/17	令和4年度（通算第46回）就職部課長相当者研修会
2022/2/24	やさしい日本語研修
2023/1/5	全体会議（史観，大学概念の由来，IGFについて，他）
2023/3/10	入学直後の行政手続きガイダンス

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

◎「教育組織」について表1に記入した点数と判定理由

点検結果の点数 5

判定理由：

本専攻では、教員編成の基本方針に基づき教員組織を構成しており、教員の指導能力についても問題はない。教員と事務職員との連携も機能しており、適切な教育支援体制が取られている。専任教員数、教授数、実務家教員数、主要科目の担当教員などに関して、その他の各種法令について満たしている。教員の年齢構成においてもバランスの取れた配置となっており、それぞれの役割を担っている。専任教員の本務外業務についても、教育研究に支障のない範囲で行われている。教員評価に関しても決められた方針のもと適切に行われている。教職員の資質向上のためのFD、SDにおいても積極的に取り組んでいる。

以上のとおり、基準4の各項目について、十分に満たしているため、評価を5とした。

基準5 教育環境

(1) 施設・設備

専門職大学院における施設・設備に関する法令は、専門職大学院設置基準 第17条に以下のとおり定められており、本学はこれらに則して施設・設備を整備している。

(専門職大学院の諸条件)

第17条 専門職大学院の施設及び設備その他諸条件は、専門職大学院の目的に照らし十分な教育効果をあげることができると認められるものとする。

○校地と校舎

本学は、京都本校（本部棟、南校舎、2号館、研究棟、京都駅前サテライト）と、札幌サテライト、東京サテライト、サイバー京都研究所から構成されている。

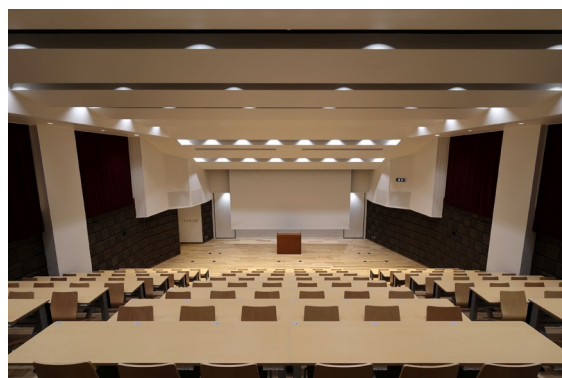
京都本校の2号館、研究棟、京都駅前サテライトについては学校法人京都コンピュータ学園との間に貸借契約を交わしている。札幌サテライトは株式会社デジックと、また東京サテライトは株式会社ヒトメディアとの間で貸借契約を交わしている。サイバー京都研究所については京都府と賃貸契約を交わしている。

京都本校については、授業が行われている本部棟、南校舎、2号館、京都駅前サテライトの間は、授業時間割に合わせて無料のシャトルバスを運行し、学生と教員の移動の便宜を図っている。

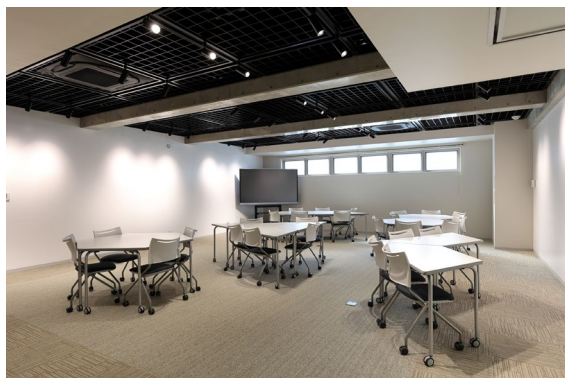
2022年8月、京都本校百万遍キャンパス南校舎の北隣に完成した本部棟は、地上4階地下1階建て延べ床面積約5,302.18㎡で、教室、実習室、演習室の他、新しい発想を促すイノベーションルーム、オンライン授業・会議用の個人用ワークブース、コンサート等を開催可能な大講義室（多目的ホール）などを備えている。また、各教室はアクティブラーニングなどさまざまな学習形態に対応できるよう、フレキシビリティを高めることで教育環境のさらなる拡大・充実を図っている。



本部棟（新校舎） 外観



本部棟（新校舎） 大講義室



本部棟（新校舎） イノベーションルーム



本部棟（新校舎） ハイフレックス仕様教室

○講義室および実習室

全ての講義室・実習室にはプロジェクターおよびスクリーンを配備しており、全ての授業はパワーポイントなどの授業資料をスクリーンに投影しながら進めることができる。また、講義室、実習室とも学生が自分のコンピュータを授業に持ち込んで利用できるよう、各所に電源コンセントが備わっている。実習室のコンピュータは通信速度1Gbpsの学内ネットワークに接続されている。

また、各キャンパスは高速ネットワークで接続され、キャンパス内は最新の通信規格であるWi-Fi6のアクセスポイントが各所に設置され、学生は自分のパソコンやスマートフォンから学内ネットワークにアクセスすることができる。

京都本校本部棟の各教室は、壁全体がホワイトボードとして利用できるようになっており、学生間の意見交換やディスカッションを促進するアイデアボードとして機能している。

○学習管理システム

本学では授業資料の配布や課題の出題・回収にWebブラウザからアクセス可能な学習管理システム(LMS: Learning Management System)を用いている。これはBlackboard社が開発・提供するもので、本学ではKING-LMSと呼称している。従来よりLMSを用いて学生への資料配付等は行っていたが、2022年4月より旧来のシステムをアップグレードし、Blackboard社のシステムを導入した。本学は英語のみで学習する学生が多数いるが、旧来のシステムはシステムの多言語化に対応していなかった。新KING-LMSは20種類以上の言語に対応し、学生各個人の設定により、LMSのメニューなどの項目を希望する言語で表示が可能となっている。新しいKING-LMSは次の機能が備わっており、教員・学生ともこれらの機能を活用している。

- ・学生の学習状況の確認・・・どのくらいの時間アクセスしていたか確認が可能
- ・掲示板の設定・・・Q&Aや、学生同士のディスカッションにも活用可能
- ・フォルダの学生への公開条件の細かな設定・・・学生へ公開する日時や、公開対象の学生グループなどの設定が可能
- ・テストの作成機能・・・選択問題だけでなく穴埋め問題や、語とその説明文を合致させる組み合わせ問題など多彩なテスト問題の作成が可能。さらに数式エディターを内蔵しているので、数学などの科目で数式の問題も出題可能。
- ・学生とのコミュニケーション・・・LMS内に学生とのやりとりを行うためのメッセージング機能があり、スレッド式に会話を追うことができるので、多くの学生との同時多発のやりとりで論点を見失うことが避けられる。
- ・これまでに提出された課題の評価一覧などの成績情報が表示される。教員の側は、未採点課題の一覧表示など、採点作業も容易となっている。

○高品位遠隔講義システム

本学では、京都本校、京都駅前サテライト、札幌サテライト、および東京サテライトは高速ネットワーク接続によって、同質の教育環境を実現している。これは、先述の学習管理システムを含み、種々の授業への高速アクセスが可能である。更に、大部分の教室には高品位遠隔講義システム用の授業収録システム(カメラ、マイク、制御装置など一式)が設置されており、学生がいずれの教室にいても、他の教室で行われている授業にリアルタイムで参加し、双方向に意見を述べる事が可能となっている。なお、これらの授業は、講師の映像・音声、教室風景、使用資料などが全て記録され保存されているので、学生は任意の時間・場所でKING-LMSを利用して授業の復習などをすることができる。

○ハイフレックス(Hybrid-Flexible)仕様教室

京都本校本部棟の教室では、グループワークやプレゼンテーションなど、学生が主体となり授業に参加するアクティブラーニングによる能動的な学習や対面とオンラインを組み合わせたハイブリット授業など様々な授業形態に対応できるシステムを整備している。スマートディスプレイや集音マイク・スピーカーなどを備え、教育と学習のためのシームレスな環境を構築して、教室内やオンライン上など受講する場所の影響を受けずに受講者が同時に授業に参加することができる。学生は、各人の授業スタイルや学習内容に応じて適切な授業形式を選ぶことができ、学習効果の向上が可能となる。

○教務システム (Campus Plan)

学生への学習支援を目的とした LMS とは別に、学生への各種案内や書類の提示、KING-LMS へのリンクや就職関連のポータルサイトへのリンクなど、学生生活の利便性を提供するキャンパスプランポータルを設置している。これには次のような機能がある。

- ・学校からの行事等の一斉連絡機能
 - ・学生便覧や履修に関する書類など、種々の書類がまとめられ閲覧可能なキャビネット機能
 - ・休講や教室変更など、個別の授業に関する連絡事項の閲覧機能
 - ・授業日や課題の締め切り日などのカレンダー表示機能
- (以下、教員が利用する機能)
- ・休講・補講の申請機能 (教員が申請した後、事務部へ転送され、承認の可否が本人へ通知される)
 - ・教員向けの連絡や、教員向けの各種書類の提示 (キャビネット機能)

上に述べたキャンパスプランポータルは、学生及び教員の利便性を図るシステムで、Web ベースのものであるが、その元データとなる学籍、学生の履修、成績、各授業の時間割、授業への担当教員の割り当て、シラバスデータなどの管理は教務システム (Campus Plan) を用いて行っている。教務システムは専用のアプリをインストールしたパソコンからログインする必要があるため、学生や教員は直接利用することはできない。

○実習設備

使用している実習用コンピュータ設備については、2022 年度は京都本校本部棟 H206 実習室 41 台、H306 実習室 41 台、京都本校南校舎 M201 演習室 11 台、京都本校南校舎 M205 実習室 51 台、京都本校南校舎 M207 実習室 51 台、京都本校 2 号館、K202 実習室 21 台、K203 実習室 26 台、京都駅前サテライト EW21 実習室 31 台、EW24 実習室 26 台、EW31 実習室 51 台、EW32 実習室 51 台の PC を設置している。

使用している主なソフトウェアは、Microsoft 社の Windows システム、データベース管理システム、SAP 社の ERP ソフトウェア、erwin 社の Data Modeler、Adobe 社のグラフィック関連、アニメ関連のソフトウェア等々。これらソフトウェアは実習用 PC ととも設備は、授業時間以外でも学生に自由使用できる。

○図書施設

図書室は、京都本校本部棟 (99.96 m²) と 2 号館 (99 m²) に設置されており、いずれも開架式で学生は自由に入出りできる。蔵書は、専門書のみならず幅広い知識・教養を身につけるよう各種のジャンルの書籍等を整備しており、蔵書数は約 25,500 冊である。図書管理システム等によって、札幌・東京サテライトからも蔵書の検索・貸出等が可能となっている。本部棟図書室には自習用大型机 (8 名着席) の他、個別の学習机 9 台が備え付けられており、提出書類やレポート作成などの自習スペースとしても利用されている。

情報検索用システムとしては、CiNii Articles (国立情報学研究所) による学術論文情報検索サービスや、情報処理学会電子図書館の大学向けサイトライセンスサービスによる情報処理学会発行の出版物の閲覧

およびダウンロードサービスを利用している。海外の学会に関しては米国の ACM (Association for Computing Machinery) の ACM Digital Library を利用して閲覧し、文献をダウンロードすることができる。利用方法は、2021 年度までは KING-LMS, 2022 年度以降はキャンパスプランポータルで学生に公開されており、学内だけでなく自宅など学外からでも利用できる。また、2021 年 9 月からは、IEEE による IEEE Computer Society Digital Library も新たに利用できるようになっている。

その他、京都本校本部棟 1 階のフリースペースと南校舎の学生ラウンジには、各種雑誌が配架されており、講義の空き時間などに利用されている。

○サイバー京都研究所

京都府が進める「産学公連携によるスマートコミュニティ形成に係る共同研究等を推進するオープンイノベーション拠点」である「けいはんなオープンイノベーションセンター」内にサイバー京都研究所を開設している。

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(2) 夜間開講等における施設利用等に関わる法令の遵守

本学では多様な学習スタイルの学生に対応するため、平日（9:30～21:40）の授業開講の他に、土曜日や日祝日での実習室、演習室、図書室等の利用、集中講義等による開講を実施するなど、社会人に対して各種のサポート体制を構築している。

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(3) 専任教員の研究室に関わる法令の遵守

専門職大学院としての教育研究活動の目的を達成するために必要な専任教員の研究室は確保されており、定員増による教員の増加に応じて研究室の確保も行っている。教員研究室の総面積は京都本校本部棟の完成によって新たに 283.09 m²増加し、現在 1,445.70 m²に拡大し全教員のスペースが確保されている(表 5-1-1, 表 5-1-2)。

表 5-1-1 過去 5 年間の推移

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
1 年生定員	360	480	600	600	600
2 年生定員	240	360	480	600	600
学生総定員	600	840	1080	1200	1200
必置専任教員数	60	84	108	120	120
専任教員数	79	87	110	123	122
専任職員数	25	22	28	23	30
校舎面積	5,024.16	5,318.46	5,318.46	5,318.46	10,591.52

表 5-1-2 教員研究室

		個室	共同研究室 (収容定員)
京都本校	本部棟	7	2 (42)
	南校舎	6	2 (18)
	2 号館	-	7 (26)
	研究棟	4	4 (18)
	京都駅前サテライト	1	4 (43)
サイバー京都研究所		-	1 (5)
札幌サテライト		-	1 (3)
東京サテライト		-	1 (4)
計		18	22 (159)
収容定員 総合計		177	

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(4) 科目等履修生等受け入れの際の教育環境に関わる法令の遵守

基準 4 (11) で言及したように、本専攻での科目等履修生の受け入れは、現状の設備および教員の教育指導に支障が無い範囲（各科目若干名）で行っている。

《引用・裏付資料名》

1. 2022 年度春学期科目等履修生募集要項

(資料番号 5-1, p. 800)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(5) 2以上の校地での施設・設備に関わる法令の遵守

基準4(12)で言及したように、大学院設置基準第8条6項は、2以上の校地での施設・設備に関して、以下のように定めている。

第八条

六 大学院は、二以上の校地において教育を行う場合においては、それぞれの校地ごとに必要な教員を置くものとする。なお、それぞれの校地には、当該校地における教育に支障のないよう、原則として専任の教授又は准教授を少なくとも一人以上置くものとする。ただし、その校地が隣接している場合は、この限りでない。

本学の校地は、京都本校のみであり、2つ以上の校地において教育を行うことはない。よって、当該法令の基準を満たしている。

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(6) 大学院大学における施設に関わる法令の遵守

本学施設の総面積は、10,591.52 m²（学生1名あたり8.83 m²）であり、2022年度の収容定員1200名および専任教員122名が教育活動を行うのに支障のない施設を配置している（表5-2）。

表5-2 講義室および実習室の収容人数

校舎名		教室名	収容人数
京都本校	本部棟	講義室 (H101)	204
		講義室 (H201)	40
		講義室 (H202)	40
		講義室 (H203)	40
		講義室 (H204)	40
		講義室 (H205)	24
		実習室 (H206)	40
		講義室 (H209)	70
		講義室 (H301)	40
		講義室 (H302)	40
		講義室 (H303)	40
		講義室 (H304)	40
		講義室 (H305)	24
		実習室 (H306)	40
		講義室 (H309)	70
		南校舎	講義室 (M102)
	講義室 (M103)		100
	演習室 (M201)		25
	演習室 (M202)		28
	演習室 (M203)		40
	実習室 (M205)		50
	実習室 (M207)		48
	演習室 (M208) (日本語ライティングセンター)		4
	演習室 (M209) (英語ライティングセンター)		4
	2号館	講義室 (K201)	60
		実習室 (K202)	20
		実習室 (K203)	25
		演習室 (K300)	15
		講義室 (K301)	60
		演習室 (K302A)	20
演習室 (K302B)		20	
演習室 (K303A)		20	

		演習室 (K303B)	20
		演習室 (K401)	10
		演習室 (K402)	30
		演習室 (K403)	28
	京都駅前 サテライト	講義室 (E601)	560
		実習室 (EW31)	50
		実習室 (EW32)	50
		講義室 (EW34)	40
		実習室 (EW21)	30
		実習室 (EW24)	25
		講義室 (E508)	50
		講義室 (E509)	50
		講義室 (E510)	50
		札幌サテライト	講義室 (SS01)
東京サテライト	講義室 (TS01)	50	
	講義室 (TS02)	50	

《引用・裏付資料名》

なし

《実地調査閲覧資料名》

なし

(7) 財源確保への取り組み

本学の財源は、学生生徒納付金、私立大学等経常費補助金、科学研究費、寄付金収入などで構成される。これらの財源のうち、学生生徒納付金の占める割合が高いため、入学者の継続的確保が必要であるが、積極的な学生募集活動により、2022年度の学生生徒納付金は、前年度比129%と順調に増加している。学生生徒納付金比率を減少させ、より安定的に収入を確保するため、科学研究費への応募も奨励しており、宇宙航空研究開発機構からの受託研究費も2016年度以降7年連続して獲得している。新校舎建築に際して、その建築費用について2021年度より金融機関からの借入金が発生したが、現在の現金預金残高は、借入金の総額を大きく上回っており、財源確保にまったく問題はない。また、基本金積立率は100%を維持しており、新校舎建築費用に関しても、一部を借入金によって支払うことにより、第1号基本金が多年度にわたってゆるやかに計上されるようにしている。

《引用・裏付資料名》

1. 学生生徒納付金の推移 (資料番号5-2, p. 804)
2. 外部資金等の実績一覧 (資料番号5-3, p. 805)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(8) 学生への支援体制

(i) 学生支援体制

入学時に学生自らの志向に応じて選択した専門分野ごとのアカデミックコーディネーターが割り当てられ、修了までの期間、学習・履修科目に関する相談を行い、一般的な学習・履修の指導を行う体制となっている。また、学生生活上の様々な相談も受け持つ。(資料番号 5-4)

本学で運用されている KING-LMS (学習管理システム) では、学生が履修している授業科目について授業スライドやドキュメント、講義ビデオなどの学習コンテンツがアップロードされており、学生が効率的に予習・復習できるようになっている。レポートの提出と返却や評価、フォーラムでの質問など担当教員とのインタラクションにもこのシステムを用いている。更に、学生が自身の時間割や履修状況、取得単位数、成績などを参照することができるため、自身による学習状況管理について有力なツールとなっている。

また、2020 年度からは、コロナ禍のため、Zoom Meeting を利用した学生向けのオンラインサポート窓口を開設し、授業や履修に関する相談などをオンラインで受け付けている。特にプログラミングや ERP などの専門分野については、授業内容や、プログラミングに関する質問に対して、学生 GA (Graduate Assistant) がオンラインで個別にアドバイスするサポート窓口を開設している。(資料番号 5-5)

また、日本語での文章作成能力向上のための日本語ライティングセンターに加え、2019 年度からは新たに英語ライティングセンターを開設し、主に英語モード学生の文章添削などのサポートを行っている。

○就職支援体制

キャリアセンターが中心となり、アカデミックコーディネーターと連携し、個別面談や進路相談の指導・助言を行っている。(表 5-4) キャリアセンターでは、毎週曜日と時間を決め(その曜日・時間は学生が参加できるように授業を設定していない) 進路指導、就職試験対策などを行う就職ガイダンスと学内企業説明会を実施している。加えて、京都ジョブパーク等の公共機関とも連携し、就職活動における情報提供を行っている。(資料番号 5-6)

日本で就職を希望する留学生向けには、入学後早々に、日本での就職活動の基本的留意事項を説明するプレガイダンスを実施している。英語で修学する留学生には個別面談、ガイダンスなどは英語でも行っている。さらに対面およびメールでの個別面談に関しては英語のみならず中国語、ネパール語、インドネシア語でも対応している。

日本での就職に必要な日本語力を高めるために教務課と連携し、ビジネス日本語を始めとする日本語講座を開講し、受講を勧奨している。

就職活動および求人に関する情報は、学内 Web サイト、メールおよび SNS で学生に情報提供している。

2021 年度修了者全体の就職率は、86.9%となっており、留学生については、14%が国内での就職、66%が母国での就職、また修了後、日本での就職活動を継続する学生は12%であった。

表 5-4 キャリアセンター相談件数 (過去 5 年)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
春学期	11 件	33 件	9 件	126 件	139 件
秋学期	14 件	15 件	64 件	45 件	22 件 (2023. 1. 6 現在)

○生活等の支援体制

学生課が中心となり、アカデミックコーディネーターと連携して支援を行っている。学生に関する情報や相談・面談内容は、イントラネット上の学生情報管理システムに入力し、情報を共有することで、学生指導の支援に活用している。2020 年度からは、上記学習支援体制の項目で述べた授業や履修に関する相談窓口とは別に、学校生活全般に対する不安や質問などに対応するオンラインサポート窓口を開設し、随時

相談を受け付ける体制をとっている。

○留学生支援体制

留学生支援は、学生課の留学生支援担当が中心となり、アカデミックコーディネーター、アドミッションセンター（受け入れ時）などが協力して行っている。日本での生活一般に関する指導、来日時の各種手続きサポート、病気の際の診察や入院時のサポート、その他緊急の際のサポート、などが含まれる。入学時には、留学生オリエンテーションを行い、日本での生活に必要な事項をまとめた「留学生ハンドブック」を配布している。各国の留学生に対応するため、現在は、英語、中国語、ベトナム語、ネパール語で対応可能な教職員を配置している。特に中国からの留学生が多いため、中国籍の職員を複数配置し、支援を行っている。（資料番号5-7）さらに、SNSを利用した留学生ホットラインを開設し、留学生からの相談などに随時対応している。

○その他の支援体制

その他、学生を支援する体制として、経済面での支援を行う奨学制度、留学生に対する学費減免制度、社会人が仕事と学業を両立するための長期履修学生制度、専門のカウンセラーを配置した学生相談室の設置があげられる。また、全教員のメールアドレスを公開しており、学生からの学生生活に関する様々な質問や面談のためのアポイントメントをとること等に利用されている。

また、ハラスメント防止のための体制として、ハラスメント相談窓口を設け、相談員を配置している。なお、各国の留学生に対応するため、相談員は中国語、英語で対応可能な教職員を配置している。

2020年度からは、事務手続きのオンライン化を推進し、Withdraw申請や海外渡航・一時帰国申請など、学生による申請手続きのほとんどをオンライン申請システムで行うことができるようにした。これにより、アカデミックコーディネーターの承認が必要なものについても、オンライン申請システムの一連のフローで処理が行われるため、利便性の向上につながっている。（資料番号5-8）

○学生生活満足度調査

定期的に学生の満足度調査を実施し、その意見を参考にして教育環境の改良を行っている。また、学生からの意見を汲み上げるために、専用のメールアドレスを設置している。

(ii) 学生支援体制の教員および学生に対する開示

(i) 学生支援体制に記載したとおり、学生は学習や学生生活に必要な情報をポータルシステムを通じて得ることができる。ポータルシステムの使用方法は、入学時の新入生オリエンテーションにおいて説明すると同時に、マニュアルを公開し、スムーズに学生生活をスタートできるように配慮している。

ポータルシステムからのお知らせは KINGLMS 内だけでなく電子メールへの転送も可能であるので、学生にはパソコンと携帯のメールアドレスを登録するように、新入生オリエンテーションで案内している。ポータルシステムのメール転送先には予め、学校から各学生に配布されるメールアドレスが登録されており、学生に対して学校提供のメールアドレスを利用するように指導している。

また、学生支援体制については、学生便覧に詳しく記載されており、新入生オリエンテーションでも案内している。（資料番号5-9、資料番号5-10）

新規採用の教員に対しては、採用時に本学の制度やポータルシステムの使用方法等について研修を行っている。

(iii) 学生支援体制の活動実施状況

学生支援体制の主な活動実施状況を以下に示す。

本学では、学業・人物ともに優秀な学生に対し、学費の一部を免除する「特待生制度」、経済的事情により修学が困難な学生を対象に学費の一部を免除する「未来 IT 人材育成奨学制度」、経済的事情により修学が困難な者に対し学費の無利子貸与を行う「貸費制度」など、複数の奨学制度を設置している。また、留学生に対しては、留学生対象の学費減免制度を設けており、ほとんどすべての留学生が対象となっている。グループ校では進学特別奨学制度を設けている。(資料番号 5-11) また、日本学生支援機構の奨学金も利用できる。

また、2020 年度より、本学に 2 年を超えて在籍する場合で、かつ履修する単位が 18 単位以下の学生に対して、学費に関して減免措置が適用される学費の特例措置制度を施行している。

長期履修学生制度は、最長で 4 年間の計画的履修を認めている。また、予定よりも早く単位を修得できる場合には、半年単位での短縮を認め、柔軟な履修を可能としている。

表 5-5 長期履修学生制度在籍者数 (過去 5 年)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
春学期 (前期)	5 名	3 名	7 名	5 名	9 名
秋学期 (後期)	3 名	5 名	6 名	4 名	8 名

学生生活全般に関する学生の満足度調査のために、毎年「学生生活満足度調査」を行っている。結果について、各担当部署で検討をし、改善につなげている。

コロナ禍における対応として、入口に体温自動検知器を設置、各教室には消毒液及び机上の消毒を行うための備品などを設置した。使用した教室については毎回消毒を行うなど、学生が安心・安全に過ごせるように、感染拡大防止の対策を行った。また、オンライン掲示板に学生及び教職員に体調管理の徹底や、感染拡大防止策の徹底についての案内を掲載するなど、常に感染拡大防止対策についての働きかけを行った。(資料番号 5-12)

《引用・裏付資料名》

1. 『2022 学生便覧』履修登録に関する記述部抜粋 (資料番号 5-4, p. 806)
2. KING-LMS (学習管理システム) の開示例 (資料番号 5-5, p. 808)
3. 就職ガイダンス実施案内 (資料番号 5-6, p. 810)
4. 留学生ハンドブック (抜粋) (資料番号 5-7, p. 812)
5. オンライン申請システム申請画面 (資料番号 5-8, p. 820)
6. 『2022 学生便覧』学生支援に関する記述部抜粋 (資料番号 5-9, p. 821)
7. 新入生オリエンテーションで使用したスライド資料 (抜粋) (資料番号 5-10, p. 832)
8. 奨学制度利用状況 (過去 5 年) (資料番号 5-11, p. 837)
9. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の案内 (2020 年) (抜粋) (資料番号 5-12, p. 838)

《実地調査閲覧資料名》

なし

◎「教育環境」について表 1 に記入した点数と判定理由

点検結果の点数: 5

判定理由:

本学の校舎および施設は、本学本専攻の学習・教育目標を達成するための環境が整備され、教育研究活

動を実現するに足る規模が確保されている。また、この教育環境を維持するための財源確保の取り組みも積極的に行われ、今後も継続的に取り組んでいく予定である。学生の各種支援体制についても構築されている。学生数の増加に伴い、グループ校である学校法人京都コンピュータ学園の校舎・設備の貸与を受けるなどして、校舎・設備も比例して増設しており、教育環境は良好に拡充しているため、5と判定した。

基準6 学習・教育目標の達成

(1) 修了認定の基準と方法およびその開示と実施

専門職大学院設置基準における（成績評価基準等の明示等）に関連した基準として第10条に以下のよう
に規定されている。

第十条

- 2 専門職大学院は、学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

この法令にしたがって、本学では、修了認定基準に関して修了条件を「京都情報大学院大学学則」、「京都情報大学院大学履修規程」および「京都情報大学院大学学位規程」に規定している。「京都情報大学院大学学則」の該当部分および関連資料を以下に示す。（資料番号6-1）

第4章 課程修了の認定

（修了条件）

第9条 専門職学位を得ようとする者は、専門職学位課程に2年以上在学し、カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、44単位以上修得しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、本学大学院学生の過去の学習歴を吟味して、所定の単位数を減免、または追加して修業年限を決定できるものとする。このような措置によって決定された修業年限の下限は1年とする。

（修了の認定）

第10条 課程修了の認定は、大学院委員会においてこれを審議し、学長が決定する。

「京都情報大学院大学履修規程」の該当部分（履修方式）を以下に示す。（資料番号6-2）

第3章 履修方式

（履修方式）

第6条 本学大学院応用情報技術研究科ウェブビジネス技術専攻修了に必要な単位の履修方法は、次のとおりとする。

修了年限は2年（4学期）の履修方式で、修了に必要な単位数は必修単位を含め44単位以上とする。

- 2 1学期間に履修可能な単位数の上限は18単位とする。

「京都情報大学院大学履修規程」の該当部分（単位認定）を以下に示す。（資料番号 6-2）

第4章 単位認定

（単位の認定）

第8条 各科目は100点満点で60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
成績はA+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、F（不可）の10段階で評価する。ただし、科目により、P（合格）またはF（不合格）で評価する場合がある。

A+	A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-	F
94点以上	93～87	86～80	79～77	76～74	73～70	69～67	66～64	63～60	59点以下

- 2 成績は、すべて成績原簿に記録・保存される。
- 3 学生は、成績に疑問がある場合は、成績発表から1週間以内に申し出るものとする。
- 4 指定の期間内に学生の申し出により担当教員が認めた場合、評価をI（Incomplete：成績未確定）とし、次学期に評価を延期することができる。次学期内に学生から評価変更申請が行われない場合、当該科目の評価はF（不合格）とする。
- 5 GPA（Grade Point Average）が一定の基準以下となった場合、次学期の履修単位を制限する等の措置をとる場合がある。次学期以降も改善が見られない場合は、学則第23条の定めにより、諭旨退学させることがある。

さらに、修了要件については「京都情報大学院大学学位規程」に定めてあり、学生便覧にも掲載し、公開している。（資料番号 6-3）

第3章 専門職学位課程の修了要件

（修了要件）

第5条 専門職学位課程の修了には、以下の3つの要件をすべて満たすことが必要である。

1. 定められた修了年限を全うすること（標準：2年）
2. 定められた必要単位数を修得すること（標準：44単位以上）
3. カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、必要単位を修得していること

（審査方法）

第6条 大学院委員会は、前条の要件を満たしたものに対して、総合的な審査を行い、出席者の3分の2以上の同意をもって合否判定案を作成する。

（決定）

第7条 学長は、前条の合否判定案を基に、合否を決定する。

各科目のシラバスには教育目標が示されており、科目に合格することで、それぞれの科目に割り当てられた本専攻の教育目標1～4（基準1参照）が達成される。学生は、必修科目を含む定められた必要単位を修得することで、本専攻の教育目的「情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等の教授・研究を通じ、広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要の高度の技術能力を備えた、高度専門職業人の養成」を達成できるものとする。

これらの規程を学習者の立場からまとめたものを学生便覧に記載している。すなわち「履修登録から試験まで」に「修了条件」、「試験と学業成績」として記載している。（資料番号 6-4）

(ii) 修了認定基準と方法の学生への明示

修了認定基準と方法が規定されている「京都情報大学院大学学則」および「京都情報大学院大学学位規程」の関連部分、すなわち、修了要件並びに修了認定の基準と方法は、学生便覧に記載し、新入生オリエンテーションで解説している。この学生便覧は「キャビネット」（教務システム上で教員・学生向けにファイルを公開するための場所）で学生、教員に公開されている。（資料番号 6-5）

(iii) 修了認定基準と方法の運用実績

規定された修了認定基準と方法によって運用している。修了判定は、毎年2月下旬、および8月下旬に開催される大学院委員会修了判定会議で審議し、学長が決定している。修了認定のための大学院委員会・修了判定会議の開催実績を以下の表に示す。修了判定会議においては規定された修了認定基準に合致する学生の成績データが示され、確認の後、審議を行っている。

表 6-1 修了認定のための大学院委員会・修了判定会議の開催実績（最近5年間）

年度	9月修了判定会議	3月修了判定会議
2018年度	2018年8月27日	2019年2月25日
2019年度	2019年8月28日	2020年2月26日
2020年度	2020年8月26日	2021年2月24日
2021年度	2021年8月25日	2022年2月24日
2022年度	2022年8月24日	2023年2月22日

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学学則抄（2022年度）（資料番号 6-1, p. 842）
2. 京都情報大学院大学履修規程抄（2022年度）（資料番号 6-2, p. 845）
3. 京都情報大学院大学学位規程抄（2022年度）（資料番号 6-3, p. 847）
4. 『2022 学生便覧』修了要件に関する記述部抜粋（資料番号 6-4, p. 849）
5. 新入生オリエンテーション資料（修了条件説明部分抜粋）（資料番号 6-5, p. 853）

《実地調査閲覧資料名》

1. 修了判定会議議事録（例）（資料番号 29）
2. 修了判定資料（資料番号 30）

(2) 修了認定に必要な在学期間および修得単位数に関わる法令の遵守

専門職大学院設置基準の第 15 条で、修了認定に必要な在学期間および修得単位数に関して以下のように規定されている。

(専門職学位課程の修了要件)

第十五条 専門職学位課程の修了の要件は、専門職大学院に二年（二年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限）以上在学し、当該専門職大学院が定める三十単位以上の修得その他の教育課程の履修により課程を修了することとする。

基準 6-(1)に示したように本学では、修了認定に必要な在学期間および修得単位数に関して修了要件として、「京都情報大学院大学学則」および「京都情報大学院大学履修規程」に以下のように規定し、上記関連法令を遵守している。

「京都情報大学院大学学則」の抜粋を再掲する。（資料番号 6-1）

第 9 条 専門職学位を得ようとする者は、専門職学位課程に 2 年以上在学し、カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、44 単位以上修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、本学大学院学生の過去の学習歴を吟味して、所定の単位数を減免、または追加して修業年限を決定できるものとする。このような措置によって決定された修業年限の下限は 1 年とする。

「京都情報大学院大学履修規程」の抜粋を再掲する。（資料番号 6-2）

第 3 章 履修方式

(履修方式)

第 6 条 本学大学院応用情報技術研究科ウェブビジネス技術専攻修了に必要な単位の履修方法は、次のとおりとする。

修了年限は 2 年（4 学期）の履修方式で、修了に必要な単位数は必修単位を含め 44 単位以上とする。

2 1 学期間に履修可能な単位数の上限は 18 単位とする。

また、「京都情報大学院大学学位規程」においても修得単位数の要件を以下のように定めている。（資料番号 6-3）

(修了要件)

第 5 条 専門職学位課程の修了には、以下の 3 つの要件をすべて満たすことが必要である。

1. 定められた修了年限を全うすること（標準：2 年）
2. 定められた必要単位数を修得すること（標準：44 単位以上）
3. カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、必要単位を修得していること

本学において定めた上記の規程は、修了認定に必要な在学期間および修得単位数に関わる法令を遵守しており、本規程通りに修了の認定を行っている。

また、本学では、長期履修学生制度を採用している。学則の該当部分を示す。

(長期履修)

第8条の2 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に履修し課程を修了することを希望するときは、その計画的な履修を認めることがある。

- 2 前項の規程により計画的な履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という）に関する必要な事項は別に定める。

長期履修学生の修業年限は、3年または4年とし、修了の要件は通常の学生と同じである。また、修業年限に応じて、1学期間に履修可能な単位数の上限を定めている。

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学学則抄（2022年度） (資料番号6-1, p.842)
2. 京都情報大学院大学履修規程抄（2022年度） (資料番号6-2, p.845)
3. 京都情報大学院大学学位規程抄（2022年度） (資料番号6-3, p.847)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(3) 在学期間の短縮に関わる法令の遵守

専門職大学院設置基準 第16条では、在学期間の短縮に関して以下のように規定されている。

(専門職大学院における在学期間の短縮)

第十六条 専門職大学院は、第十四条第一項の規定により当該専門職大学院に入学する前に修得した単位（学校教育法第百二条第一項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を当該専門職大学院において修得したものとみなす場合であつて当該単位の修得により当該専門職大学院の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して当該専門職学位課程の標準修業年限の二分の一を超えない範囲で当該専門職大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、当該専門職大学院に少なくとも一年以上在学するものとする。

本学では、在学期間の短縮に関して、「京都情報大学院大学学則」第9条2項に以下のように規定し、上記関連法令を遵守している。（資料番号6-1）

第4章 課程修了の認定

(修了条件)

- 第9条 専門職学位を得ようとする者は、専門職学位課程に2年以上在学し、カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、44単位以上修得しなければならない。
- 2 前項の規定にかかわらず、本学大学院学生の過去の学習歴を吟味して、所定の単位数を減免、または追加して修業年限を決定できるものとする。このような措置によって決定された修業年限の下限は1年とする。

他大学院で取得した単位の認定に関しては、「京都情報大学院履修規程」に以下のように規定している。（資料番号6-2）

(他大学院で修得した単位の認定)

- 第9条 他の大学院で修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）は、大学院委員会の議に基づき、必要と認められた場合は、必修単位以外の、修了に必要な総単位数の半分までを認定することができる。
- 2 本学大学院の姉妹校における修得単位については別に定める。

また、本学では、科目等履修生制度があり、学則第26条に以下のように定めている。（資料番号6-1）

(科目等履修生)

- 第26条 本学大学院に設置する一または複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者について、科目等履修生とすることができる。
- 2 科目等履修生が履修した授業科目について試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。
- 3 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する規則は、別にこれを定める。

これまでに、本学の科目等履修生として修得した単位を認め、修業年限を短縮した例が1名のみある。他大学院で取得した単位の認定による修業年限短縮の例はない。

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学学則抄（2022年度）（資料番号6-1, p. 842）

2. 京都情報大学院大学履修規程抄 (2022 年度)

(資料番号 6-2, p. 845)

《実地調査閲覧資料名》

1. 在学期間短縮の実績

(資料番号 31)

(4) 単位互換等で取得した単位の評価方法・評価基準の作成とその実施

(i) 評価方法と評価基準の作成

専門職大学院設置基準では、単位互換等で取得した単位の評価方法・評価基準に関して以下のように規定されている。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第十三条 専門職大学院は、教育上有益と認めるときは、学生が専門職大学院の定めるところにより他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、当該専門職大学院が修了要件として定める三十単位以上の単位数の二分の一を超えない範囲で当該専門職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学院に留学する場合、外国の大学院が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合、外国の大学院の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

本学では、他大学院の授業科目の履修に関して、「京都情報大学院大学履修規程」に以下のように規定し、上記関連法令を遵守している。(資料番号 6-2)

(他大学院で修得した単位の認定)

第9条 他大学院で修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)は、大学院委員会の議に基づき、必要と認められた場合は、必修単位以外の、修了に必要な総単位数の半分までを認定することができる。

- 2 本学大学院の姉妹校における修得単位については別に定める。

他の大学院で修得した単位に関しては、学生により提出される以下の資料から、専攻主任が、必要に応じて授業担当者または他の教員の意見も参考にして案を作成し、大学院委員会で本学単位としての認定を行う。

- 既修得単位認定申請書
- 申請科目の単位を修得した大学院の成績証明書
- 申請した授業科目の内容を示すもの(単位修得年度のシラバス等)
- カリキュラムの内容を示すもの(履修の手引き等)

単位認定にあたっては、既修得単位の授業科目の内容が本学(本専攻)の開講科目の内容とレベルに相当しているかという基準で審議を行う。本専攻で開講されている科目に該当しない場合は認定されることはない。他大学大学院での既修得単位の認定が本専攻の教育水準と教育課程としての一体性を損なうことはない。

(ii) 評価方法と評価基準の運用

他の大学院で修得した単位の認定に関しては、(i)で記述したとおりに運用している。

例えば、2018年度春学期新入生から2科目について単位認定の申請があったが、1科目については本学の科目と内容的に異なること、単位数も異なることから、認定はなされなかった。2018年度秋学期以降、他大学院で修得した単位認定の申請は行われていない。

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学履修規程抄(2022年度)

(資料番号 6-2, p. 845)

《実地調査閲覧資料名》

1. 他大学院で修得した単位認定審査の実績例

(資料番号 32)

(5) 学位名称に関わる法令の遵守

本専攻の学位名称は京都情報大学院大学学則第 11 条に記載のとおり

学位名称: 情報技術修士 (専門職)

Master of Science in Information Technology (M.S. in IT)

である。

第 5 章 学位の授与

(学位の授与)

第 11 条 本学大学院において、課程修了の認定を得た者には、次の学位を授与する。

情報技術修士 (専門職)

Master of Science in Information Technology (M.S. in IT)

本専攻では、本専攻の特性および教育内容から、本専攻が育成しようとしている人材の主な職種である IT 専門職技術者の大学院修士の学位を的確に表現する名称として「情報技術修士 (専門職)」という名称を用いている。2020 年度以降の入学者は、選択した専門分野に配当されている専門分野認定科目を、指定単位数以上履修して修得すると、専門分野を履修したことの証明として、修了証明書に記載される。

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学学則抄 (2022 年度)

(資料番号 6-1, p. 842)

《実地調査閲覧資料名》

なし

◎ 「学習・教育目標の達成」について表 1 に記入した点数と判定理由

点検結果の点数: 5

判定理由:

本専攻の学習・教育目標が達成できるように、修了基準が設定され、運用されている。在学期間、修得単位数、在学期間の短縮、科目等履修生に関する規程、および他大学院で取得した単位認定に関する規程等に関しては、関連法令を厳守し、また本専攻の目的に対して適切に設定されている。授与する学位の名称は本専攻の教育内容に適したものが設定されている。以上、基準 6 の各項目を十分に満たしているため、判定を 5 とした。

基準7 教育改善

(1) 教育点検システムの存在と実施

(i) 教育点検システム

本学は、学則第4条に「本学大学院は、教育水準の向上を図り、本学大学院の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。」と定め、自己点検および自己評価を自主的・自律的に行うこととしている。

本学では、自己点検・評価の実施組織として、自己点検・評価委員会を設置している。自己点検・評価にあたっては、自己点検・評価委員会のもとに運営部会を置き、教育および事務の各組織の自己点検・評価を行うとともに、自己点検・評価報告書案を作成して自己点検・評価委員会の委員長に提出することとしている。(資料番号7-1, 資料番号7-2)

教育点検の方法としては「授業報告会」、「学生による授業評価」、「教員相互による授業評価」がある。

○授業報告会

各学期の終了時に専攻主任より案内がなされ、授業報告会を開催している。特に、本学で初めて授業を担当する教員の科目、あるいは新規開講科目を中心に選択して報告されている。

報告内容は、シラバスの説明、授業コンテンツの紹介、成績評価の方針と成績分布、学生からの意見などである。また、「学生による授業評価」や「教員相互による授業評価」の結果と改善案も報告される(表7-1)。なお、表7-1は、2018～2022年度の授業報告会の内容を示したものである。各報告の後には質疑・応答の時間を設定しており、教員間の質問や授業に関する意見交換がなされる。この授業報告会によって、その授業の教授法、評価方法などに関して情報を共有し、当該授業の改善に繋げていくようにするとともに、参加している教員が改善等のコメントを自分の授業にも適用できるようにしており、教職員に対する教育及び学修支援活動の一環として位置づけ実施している。(資料番号7-3)

表 7-1 授業報告会の内容

	開催日	内 容
2018年度 春学期	2018年 9月12日	手塚正義：今期の開講科目・授業評価報告 甲斐良隆：経営学特論・金融論 小倉隆志：財務会計システム開発 I 大槻佐保子：アニメ作画基礎 A Samar Helou：データベース概論・IoTと無線ネットワーク
2018年度 秋学期	2019年 3月13日	手塚正義：今期の開講科目・授業評価結果 田渕 篤：オブジェクト指向プログラミング 望月バドル：コンピュータ構成論 今井正治：IoTと無線ネットワーク 嘉島叶人：観光情報システム設計
2019年度 春学期	2019年 9月11日	植田浩司：今期の開講科目・授業評価結果 伊藤雅之：図書館情報学 倉谷昌伺：海洋産業論 束 倩霏：ビジネスエコノミクス I 藤原正樹：アクセンチュアERP産業連携講座 青木成一郎：マスタープロジェクト基礎演習

2019年度 秋学期	2020年 3月11日	手塚正義：今期の開講科目・授業評価結果 藤原隆男：コンピュータグラフィクス 作花一志：応用情報技術のための数学 今井正治：IoT応用システム Amit Pariyar：E-Commerce Methodologies
2020年度 春学期	2020年 9月9日	手塚正義：今期の開講科目・授業評価結果 安 平勲：コンピュータプログラミング概論 Ling Xu：Tourism Data Analysis 古澤昌宏：ERPコンサルティング特論 Volodymyr Mygdalskyy：Fundamental Mathematics for Applied Informatics
2020年度 秋学期	2020年 3月10日	CTLE：教員相互評価/学生アンケート結果 佐藤孝司：データベース特論 眞弓浩三：ビジネスエコノミクスⅠ 望月バドル：「経路制御と交換」及び「経路制御と交換特論」 Nishan Sameera：Human Resource Management System Development 中口孝雄/望月バドル：マスタープロジェクトの報告
2021年度 春学期	2021年 9月8日	CTLE：教員相互評価/学生アンケート結果 福嶋雅夫：応用情報技術のための数学 陳 曦：観光IT特論 Benjamin Nouvel：技術英語Communication Izu Matsuo：Tourism Destination Management
2021年度 秋学期	2022年 3月9日	CTLE：教員相互評価/学生アンケート結果 石田勝則：人工知能概論 DINH Duy Tai：Object Oriented System Design Milan Kostak：Machine Learning 今井正治：新制度でのマスタープロジェクトの実施経験
2022年度 春学期	2022年 9月7日	CTLE：教員相互による授業評価/学生による授業評価結果 孫宜蒙：人工知能ソフトウェア活用Ⅰ 近藤正：人工知能ソフトウェア活用Ⅱ
2022年度 秋学期	2023年 3月8日	CTLE：教員相互による授業評価/学生による授業評価結果 Dinh Duy Tai：Fundamentals of Database Technology (e4) Drdla Matej：Object Oriented Programming (e)

○担当科目終了報告書の作成

授業を実施した後の成績分布，主要トピック，学生からの要望，改善事項とその対応等について記録に残し，教員自身の授業の振り返りと改善のため，毎学期末に通常科目とマスタープロジェクトの終了報告書を作成している。（資料番号7-4）

○「学生による授業評価」と「教員相互による授業評価」

各学期中に自己点検・評価委員会より案内がなされ，「学生による授業評価」および「教員相互による授業評価」を実施している（表7-2）。なお，表7-2は，2018年度～2022年度における活動記録を示した

ものである。「学生による授業評価」では学生は授業の進め方、教授方法などに関するアンケートに答え、授業の良い点・改善を要する点に関して意見を述べることができる。また、「教員相互による授業評価」では、教員が他の教員の授業を参観し、授業の運営・授業方法などを評価する。

評価は、多肢選択形式になっているが、授業の良い点・改善を要する点に関しては自由記述形式で、自由に記載できるようになっている。授業担当者は、担当科目終了報告書にこれらの評価の結果と、改善案等を記載して提出することとなっている。

このように「学生による授業評価」や「教員相互による授業評価」を利用し、各授業担当者が、担当授業を振り返り、担当科目終了報告書に記載することにより、次学期の授業の改善を図ることができる仕組みとなっている。(資料番号7-4, 資料番号7-5, 資料番号7-6, 資料番号7-7)

表 7-2 活動記録

時 期	内 容
2018/7/1～8/11	2018年度春学期 教員相互による授業評価
2018/7/17～8/11	2018年度春学期 学生による授業評価
2018/12/14～2019/2/19	2018年度秋学期 教員相互による授業評価
2019/1/23～2/15	2018年度秋学期 学生による授業評価
2019/7/1～8/10	2019年度春学期 教員相互による授業評価
2019/7/22～8/15	2019年度春学期 学生による授業評価
2019/12/16～2020/2/18	2019年度秋学期 教員相互による授業評価
2020/1/21～2/14.	2019年度秋学期 学生による授業評価
2020/7/1～8/10	2020年度春学期 教員相互による授業評価
2020/7/22～8/8	2020年度春学期 学生による授業評価
2020/12/22～2021/2/17	2020年度秋学期 教員相互による授業評価
2021/1/19～2/15	2020年度秋学期 学生による授業評価
2021/7/5～8/6	2021年度春学期 教員相互による授業評価
2021/7/23～8/16	2021年度春学期 学生による授業評価
2021/11/24～2022/2/28	2021年度秋学期 教員相互による授業評価
2022/1/24～2/28	2021年度秋学期 学生による授業評価
2022/5/20～2022/8/31	2022年度春学期 教員相互による授業評価
2022/7/23～2022/8/31	2022年度春学期 学生による授業評価
2022/11/14～2023/2/14	2022年度秋学期 教員相互による授業評価
2023/1/31～2023/2/28	2022年度秋学期 学生による授業評価

(ii) 教育点検システムに関する活動の実施

理事長教育諮問会議

理事長、学長、副学長で構成される理事長教育諮問会議では、教育点検に関して、授業関連資料の教職員間における共有、教員相互評価、その他教育に関わるものとして、マスタープロジェクト (MP) に関するガイドライン、マスタープロジェクト (MP) に関するマニュアル、Blackboardの導入、人工知能専門分野などの議題について議論された。

大学院委員会

2018～2022年度に開催した大学院委員会では、教育点検に関しては、分野別認証評価、授業報告会の実施予定日、授業関連資料の教員間の共有、教員相互評価等について、その他教育関係として、カリキュラム再編の検討、カリキュラムポリシーの変更、授業科目の新設、専門分野の新設、マスタープロジェクト（MP）に関するガイドライン、マスタープロジェクト（MP）に関するマニュアル、Blackboardの導入などの議題について話し合われた。

表7-3 大学院委員会における教育点検に基づく議題

年 度	開催日	会 議	内 容
2018	11月14日（水）	第14回大学院委員会	分野別認証評価について
2019	8月28日（水）	第9回大学院委員会	新カリキュラムの説明
	1月22日（水）	第18回大学院委員会	カリキュラム改編の検討について
	2月13日（水）	第19回大学院委員会	カリキュラムポリシーの変更について
2020	9月23日（水）	第11回大学院委員会	授業運営のガイドラインについて
	2月10日（水）	第20回大学院委員会	カリキュラムポリシーの変更について
2021	4月14日（水）	第1回大学院委員会	分野別認証評価について
2022	5月11日（水）	第3回大学院委員会	教員相互による授業評価について
	5月25日（水）	第4回大学院委員会	自己点検・評価の実施について
	3月8日（水）	第20回大学院委員会	担当科目終了報告書様式の改訂について

《引用・裏付資料名》

1. 自己点検・評価に関する規程 (資料番号7-1, p. 855)
2. 自己点検・評価委員会委員名簿 (資料番号7-2, p. 858)
3. 授業報告会資料例 (資料番号7-3, p. 863)
4. 担当科目終了報告書例 (資料番号7-4, p. 868)
5. 教員相互による授業評価フォーマット (資料番号7-5, p. 871)
6. 「学生による授業評価」入力フォーム (資料番号7-6, p. 877)
7. 2022年度秋学期 学生による授業評価 報告書 (資料番号7-7, p. 879)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(2) 教育点検システムの社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みと教育点検システム自体の機能も点検できる構成

(i) 社会の要求や学生の要望に配慮する仕組み

基準4でも述べたように、本学では、学内に一般社団法人日本応用情報学会（NAIS）事務局が設置されているほか、本学理事長が一般社団法人京都府情報産業協会会長、一般社団法人全国地域情報産業団体連合会（ANIA）会長、一般社団法人日本IT団体連盟代表理事・筆頭副会長を務めていることから、積極的に産業界の動向や意見を収集している。また、教員も積極的に各種企業セミナーやユーザー会に参加している。これらで得た意見や情報は、大学院委員会内や各種ワーキンググループ内でも取り上げられ、教育活動に反映される。

また、本学では、専門職大学院に対し「高度の専門性が求められている職業に就いている者、当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者の協力を得て、教育課程を編成」するよう求めた改正学校教育法（2017年度法律第41号）に基づいて、専門職大学院設置基準（改正文部科学省令＝2019年4月1日施行）が新設した規定により、「教育課程連携協議会」を設置している。「教育課程連携協議会」は、本学に以前より設置されていた、学外の専門家で構成する「外部評価委員会」が改組された組織である。同協議会は、年に1回、高度な教育や実務に豊富な経験を持つ委員から、授業科目の開発や教育課程の編成に関する事柄などにつき、多くの貴重な意見が出され、カリキュラム等への見直しの際の検討材料となっている。

また、前述(1)で述べたように、本学では学生による授業評価を行い、授業での満足度や、内容の適切さ等に関する情報を収集している。この結果はCTLEにてとりまとめ、授業報告会において報告している。（資料番号7-3）授業評価の項目には、学生は希望することがあれば記入することができ、これによって学生からの要望をくみ取ることができるようにしている。（資料番号7-6）この結果は担当教員にフィードバックされるほか、次学期以降のカリキュラムや授業方法等にも参照される。さらに学業に関するだけでなく、「学生生活満足度調査」を実施し、校舎設備や学生サービス面でも学生の要望をくみ取ることができるようにしており、自己点検・評価委員会にて要望をとりまとめ、大学院委員会において報告し、必要な改善施策を行うようにしている。

以上のように、点検・評価システムは社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みとなっている。

(ii) 点検システム自体の点検

自己点検・評価委員会の活動は大学院委員会で報告される。その報告内容に加えて自己点検・評価のものにも問題ないかも確認したうえで、承認がなされる。現在のところ、問題点が指摘されたことはなく、教育点検システムは良好に機能していると判断されている。

《引用・裏付資料名》

1. 授業報告会資料例 (資料番号7-3, p. 863)
2. 「学生による授業評価」入力フォーム (資料番号7-6, p. 877)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(3) 情報公開に関わる法令の遵守

本学では、法令に基づき、7年に1度の機関別認証評価および5年に1度の分野別認証評価を受審している。この受審をもって自己点検・評価とし、これらの外部評価を受けない期間が長くなる場合においては、自己点検・評価を行うとの認識であったが、改めて2016年5月に自己点検・評価委員会より、両評価の期間が3年を超えて開く場合は3年以内に実施することを大学院委員会に提案し、承認された。

認証評価および自己点検評価の結果については、本学ウェブサイトに掲載し、学内外に公表している。また、学校教育法施行規則第172条の2に基づき、情報の公表を行っている。

教員および学生による授業評価の結果および授業報告書は、学内ファイル共有システムにて、教職員に公表している。

《引用・裏付資料名》

1. 京都情報大学院大学（ウェブサイト） 認証評価結果 (資料番号7-8, p. 881)
機関別認証評価 (<https://www.kcg.edu/school-info/jihee>)
分野別認証評価 (<https://www.kcg.edu/school-info/evaluation>)
自己点検・評価 (<https://www.kcg.edu/school-info/self-assessment>)
2. 京都情報大学院大学（ウェブサイト） 情報の公表 (資料番号7-9, p. 885)
(<https://www.kcg.edu/school-info/publication>)

《実地調査閲覧資料名》

なし

(4) 点検結果に基づく教育システムの継続的な改善の仕組みの存在とその実施

(i) 改善システム

点検結果に基づき、改善が必要とされる事項については、大学院委員会にて必要に応じてワーキンググループを指名し、活動を行う。活動結果は大学院委員会で報告・提案がなされ、検討される。

(ii) 改善活動の実施状況

実際に行われた近年の改善の例として、以下のようなものがあげられる。

○数学教育のための授業科目新設

数学の知識が不足する学生が散見されることから、本学の修了生として身につけるべき数学学力のレベル向上を目的として、科目の新設などの検討を担う数学教育検討会が2019年から2021年の期間に設置された。同検討会では、学生の基礎知識レベルの把握のために簡単な数学テストを実施し、各専門分野から広く意見を集め、教務課と連携しながら検討した。その結果、2019年度より「ITのための統計学」「応用情報技術のための数学」、2020年度「人工知能のための数学」が授業科目として新設された。なお、「人工知能のための数学」は専門分野「人工知能」設置を見据え、専門分野「ビジネスデータアナリティクス」の科目として新設された。さらに、数学教育検討会の機能は、2022年から人工知能専門分野委員会に引き継がれている。

○専門分野への教員の関与

各専門分野において、専門分野で学ぶべき内容に関する議論、科目の新規開講や名称変更、コースパスウェイの改訂などに多くの教員の関与が求められる状況を受け、各専門分野に主任、副主任が配属され、専門分野ごとに適宜開催される会議へ各教員が参加している。（資料番号 4-7）

各専門分野の主任から成る専門分野主任会議で挙げられた2022年度の主な議題等は、以下のとおりである。

表7-4 専門分野主任会議における議題

	日付	議題
第1回	2022年5月26日	・「修了時学生表彰に関する内規」の策定 ・マスタープロジェクトの論文公開 ・社会人学生の履修方法に対する提言 など
第2回	2022年6月30日	・マスタープロジェクトの論文公開 ・社会人学生の履修方法に対する提言 など
第3回	2022年7月28日	・学生表彰選考スケジュールと提出書類の確定 ・「講義ビデオの公開のお願い」文の精査 など
第4回	2022年8月29日	・学生表彰内規に従って表彰者を選考 など
第5回	2022年3月9日	・学生の懲戒処分規定案について など
第6回	2022年12月26日	・MP運用マニュアルの見直し ・産業科目、共通科目、基礎科目の検討 など
第7回	2023年1月26日	・MP運用マニュアルの見直しの最終確定 ・産業科目、共通科目、基礎科目の検討 など
第8回	2023年2月21日	・学生の不正行為に対する処分に関する内規の制定 など

○専門分野の新設

インバウンド人材育成の強化のため、産業科目群に含まれていた「観光」関連科目を2019年度春学期より、「観光IT」として1つの専門分野を設置することとなった。この専門分野化に伴い、科目が新設された。また、近年注目され、多くの大学で人工知能に関する学部や学科が設置されている状況を踏まえ、2021年度秋学期より専門分野「人工知能」が新設された。なお、専門分野「人工知能」新設に伴い、専門分野「ビジネスデータアナリティクス」が2022年度より、専門分野「データサイエンス」へ改編されることとなった。

・観光IT専門分野の概要

近年、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光産業が未曾有の事態にさらされている一方、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりの実現や、持続可能な観光のあり方が求められている。本専門分野では多言語・マルチメディアでの観光情報の提供、観光客の行動履歴・体験・感想の情報化と分析・予測など、ICTを応用した新しい観光サービスや観光ビジネスモデルの創出について学ぶ。観光産業が新たな課題に直面する現在、様々な課題解決の担い手、すなわちバーチャル観光等のオンラインツアーでデジタル資源を創出・活用する観光DX（デジタル・トランスフォーメーション）による観光地域活性化を図る提案ができる人材を育成する。コースパスウェイは、「図3-1 各専門分野のコースパスウェイ」を参照のこと。

・人工知能専門分野の概要

人工知能は、20世紀半ばから注目されてきた情報科学の主要分野のひとつである。21世紀に入った頃から、深層学習理論が飛躍的に進展してきたこと、インターネットを通してビッグデータの取得が容易になり、データサイエンスの新たな中核技術の一つとして利用可能となってきたこと、マイクロプロセッサをはじめとするコンピュータシステムの高速度化・大容量化が一層加速したことなどが相俟って、人工知能は社会を大きく変革する基盤技術となった。自然言語、音声、画像理解や探索・推論などを中核技術として、自動翻訳、速記録の自動作成、顔認識、自動車の自動運転、医療情報処理、介護サービス等のロボット、囲碁等のゲーム、eスポーツ等の各種エンターテインメントなど、人工知能の応用分野の対象範囲は大きな広がりを見せている。さらにはデータサイエンスの新たな中核技術として、ビッグデータを活用した企業ビジネス戦略の立案・再構築、ウェブビジネス、農業経営、金融工学（フィンテック）など新ビジネスの展開、大量非定型文書に対する新たな情報発掘と利活用（テキストマイニング）など、従来の統計学では成しえなかった新しい応用分野での人工知能の活用は枚挙にいとまがない。

本学が設置する人工知能専門分野では、人工知能の基礎理論やデータサイエンスなどの関連技術を学び、人工知能応用分野でそれらがどのように活かされているのかを実例を通して理解し、その上で多くの人工知能関連ソフトウェアに習熟して人工知能技術を利活用できる専門家を目指す。また、人工知能応用ソフトウェアの開発をも担える高度な技術者の育成プログラムも準備している。

・データサイエンス専門分野の概要

データサイエンスは、最近、注目されるようになった情報系の分野である。最近、大規模な蓄積データを種々のIT応用分野で効果的に活用する必要性が叫ばれるようになり、その為のデータ管理技術、データ分析法を研究・教育する専門分野である。データ管理・データ分析に関しては早くから、データベース技術や統計解析法が広く用いられてきたが、最近の爆発的に出現する巨大データ（ビッグデータ）を扱う為には旧来の技術では対応できなくなり、ハードウェア分野でもソフトウェア分野でも更に高度なデータ処理技術が必要となった。

データサイエンスではITの多くの分野で必要とされる授業科目が多くあるが、特に関連の深いものは人

工知能 (AI) の分野である。本学では、2021年に発足した専門分野「人工知能」でこれらの科目が用意されている。専門分野「データサイエンス」では、その学習目標を広い意味でのビジネス分野においており、先行カリキュラムにおける専門分野「ビジネスデータアナリティクス」（2022年度より「データサイエンス」へ改編）との継続性が保たれている。

コースパスウェイは、「図3-1 各専門分野のコースパスウェイ」を参照のこと。

○「教員のための授業ガイド」の策定

1990年代初頭、学生の学習に焦点が当てられるようになり、大学教育が「教員中心」から「学習者中心」へとパラダイム転換した。大学教員のファカルティディベロップメント (FD) が、日本国内において2007年に「大学院設置基準」において義務化され、翌年の2008年には、「大学設置基準」においてその義務が制度化されている。本学においては、開学以来、学習者中心の教育に注力するとともにFDに力を入れてきたが、さらなる強化を図るため、2019年4月に新たに高等教育・学習革新センター (CTLE) を設置し、本学教員の教育力向上の促進に努めている。さらに、本センターとしての活動を進める中で、本学の教員に「いかに教えるのか」という「教える技術」について再確認し、改めて考えてもらうため、教員としての心構え、授業シラバス作成、授業準備、アクティブラーニングを含む授業運営などを含む詳細な授業に臨む際の心得を「教員のための授業ガイド」として2021年春学期に策定した。

○「認定TA」の設置

TAの役割は、教員の授業関連業務と学生の学びを支援することである。本学では従来よりTAを採用していたが、2023年春学期より新たに「認定TA」制度を設置した。認定TAは、具体的に、「反転授業」を支援するためのTAであり、そのための特別なトレーニングを受けていることが条件となる。さらに、認定TAは、反転授業支援を希望する教員だけでなく、授業を履修している学生へのサポートも行う。たとえば、事前課題ビデオを正しく視聴しているかどうか、教室内グループ活動に積極的に参加しているかどうか、教員からの課題を正しく理解しているかどうかなど、履修学生とのコミュニケーションを円滑にする役割も含まれる。また、教員が反転授業用の「動画」を作成するための準備を手伝うことも認定TAには求められる。たとえば、録画した「動画」が履修学生にわかりやすいかどうか、「学生目線」にたって教員にコメントやフィードバックをする。教員から「動画」を一緒に作って欲しいとの要望がある場合は、手伝うことができる。

《引用・裏付資料名》

1. 授業報告会資料例 (資料番号7-3, p. 863)
2. 教員のための授業ガイド (資料番号7-10, p. 887)

《実地調査閲覧資料名》

なし

◎「教育改善」について表1に記入した点数と判定理由

点検結果の点数：5

判定理由：

教育点検について、大学院委員会を中心として、常に情報の共有、問題点等の検討がなされている。必要に応じて活動をするワーキンググループにおいて、各種の提案および検討がなされており、持続的な改善活動が行われている。したがって、基準7の各項目を満たしていると判断し、評価を5とした。

基準8 特色ある教育研究活動

(1) 特色ある教育研究活動

本学は、建学の理念として、「社会のニーズに応え、時代を担い、次代をリードする高度な実践能力と創造性を持った応用情報技術専門家を育成する。」と掲げている。これを実現するための対応を種々検討・立案し、その実施に努めている。以下にその主要なものについて述べる。

○アクティブラーニング（能動的な学習）（反転授業を含む）で授業を実施するための教職員に対する啓発
アクティブラーニングは、学生が発言する、議論する、書く、発表するなどの能動的な学習活動であり、日本の大学においても多くの授業で取り入れられている。本学においても、開学当初よりディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどを授業に多く取り入れている。このアクティブラーニングをより効果的に実施するために、高等教育・学習革新センター（Center for Teaching and Learning Excellence：CTLE）の設置を契機に、2020年1月、2021年2月及び9月に「教育の質的向上を目的として開催した研修及び学修支援活動」の一端として、その概要と具体的な手法について研修を行っている。また、反転授業についても以前より周知されていたが、あらためて同研修において取り上げ、実際に授業に取り入れるようにしている。（研修の実績は基準4の(15)を参照）

一方で、本学では教員による反転授業の実践だけではなく、学生を授業にどのように関与させるかという点も重要であるという認識に至った。そこで、教室外学修に重点がおかれる反転授業を実現するための支援体制を構築するため、教員と学生との間で「媒体」の役割を担う新たなTA（Teaching Assistant）として「CTLE/TA」制度を創設した。CTLE/TAには、高等教育・学習革新センターが企画実施した研修を受講しその修了した学生が認定される。CTLE/TA 候補となる学生は、学内での公募、または教員からの推薦によって確保する。CTLE /TA の第1期生の研修が完了し、2023年度春学期より稼働開始予定である。

○英語モードの教育について

本学は当初より留学生の受け入れを重視してきたが、世界的に主流言語となっている英語による教育（本学では“英語モード教育”と称する）ができる環境を整え、英語モード学生を受け入れる体制を整え、英語で実施される科目のみ履修して修了することが可能となっている。世界の多くの国においては英語を自国語とする国、英語を準国語（あるいは公式言語）とする国も多い。また、教育システムにおいて第一外国語は英語である国が多い。従って、この圧倒的に巨大な英語学生人口を募集の対象とすることにより、優秀な留学生を多数獲得することが可能となる。

英語モード教育には、その英語使用のレベルにより、2種類の形態を可能としている。すなわち、①完全に英語だけで行う授業（英語モード指導が可能な教員“英語モード教員”が担当）、②英語と日本語を用いて行う授業（Mix方式の授業）がある。Mix方式の授業では、授業：教員は英語もしくは日本語どちらかの言語により講義し通訳者が通訳して授業を進める。あるいは、英語・日本語のそれぞれの言語を話す複数の教員を配置し、それぞれが英語・日本語両方で講義をする場合もある。この場合、内容によって授業時間内で日本語・英語モード学生をグループ別に指導することもある。授業資料：日本語版・英語版の双方を用意または、日英併記となっている。英語モードと日本語モードの学生を同じ教室で教えることは、異文化を理解し日本と自国の架け橋になる人材育成という点からも意義がある。（資料番号8-1）

本学では、英語モード学生を受け入れ、その充実に努めてきた（英語モード教育が可能な教員については基準4の表4-2参照）。

この英語モード教育体制を維持するための最も重要なことは、有能な英語モード教員の確保であり、そのための様々な努力が必要となっている。本学では、英語モード教員は次のように分類される。

- ①英語を母国語とする教員
- ②英語を母国語としないが流暢な外国人教員
- ③英語が流暢な日本人教員

②、③に関しては英語能力に関してしかるべき確認をしてから英語モード授業の担当に任命する。

英語モード学生に対する事務は以下のとおりである。

- 学生とのコミュニケーションに必要な印刷物の英語化（学生便覧、各種お知らせ、申請書類など）
- 学習管理システム（KING-LMS）の英語メニュー表示
- 英語対応可能な職員の受付事務への配置
- 生活面でのサポート体制（基礎日本語のトレーニング）
（資料番号 8-2）

本学における 2022 年度の英語モードの学生数は、447 名である。その国籍別のリストは以下のとおりである。

表 8-1 英語モード在学生 国籍別（単位：人）

国名	2022 年度
ネパール	304
スリランカ	93
バングラデシュ	29
インド	11
中国	3
インドネシア	2
カンボジア	1
フィリピン	1
モロッコ	1
ベトナム	1
ラトビア	1
合計	447

○SDGs の実践教育

全世界規模での取り組みである持続可能な開発目標（SDGs）は、理系・文系を問わず全ての人々が取り組むべき重要課題である。この考えのもと、本学は 2019 年にサステイナブル・オープンイノベーション・センターを開設した。センターが行っている、学生の実践的教育に関する具体的な活動は次のものである。

(1) SDGs×ICT 研究会開催

SDGs 達成のための ICT 技術による貢献の視点で、本学の教員や学生、産業界の研究者が参加し、オープンイノベーションを目指して研究・開発の成果発表と意見交換をしている。本研究会では、本学学生もプロジェクトの成果を発表し、本学の教員や企業研究者と交流を行っている。（資料番号 8-

3)

(2) SDGs 教育

センターに所属する教員が、必修科目「リーダーシップセオリー」において SDGs の入門的内容を担当している。また、IT 応用技術関連授業（「IoT と無線ネットワーク」、「IoT 応用システム」など）では、同センター所属の教員の指導により、SDGs の視点での社会課題を ICT や IoT の応用により解決する方法について学生が調査し、プロジェクトを立案している。

(3) 「2030 SDGs カードゲーム」ワークショップ開催準備

学生と教職員が SDGs の理念を体感できるよう「2030 SDGs カードゲーム」によるワークショップ開催準備を進めている。その第 1 段階として、ワークショップのファシリテータを 2 名育成した。今後、新型コロナウイルス感染症による健康面での安全性確保した上でのワークショップ開催を検討している。

(4) グループ校校友会誌機関誌における普及活動

KCG グループの校友会機関誌「Accumu」（アキューム）に、センター所属教員が執筆した SDGs 関連記事が掲載され、本学学生が京都本校百万遍キャンパスにおいて閲覧できるよう配架している。

○企業との連携による実践的教育

本学及びグループ校の京都コンピュータ学院の学生と BIPROGY 株式会社（旧日本ユニシス株式会社）の研究者が相互交流し、様々な学術・研究の協力関係を築くことにより次代を担う IT 人材を育成することを目的として、産学連携協定が 2017 年 2 月に締結された。その連携事業を推進する組織として本学では「未来環境ラボ」を開設した。本ラボが、多様な学びの場として主催・共催している勉強会（テーマ：深層学習、画像認識、機械翻訳、プログラム自動評価、SportsTech、高速トレーディング技術、文字コード、画像処理技術など）やハッカソンには、本学教員や学生および BIPROGY 株式会社の関係者に加え、他学の学生、IT 企業の研究者、ソフトウェアエンジニアも参加して、活発にディスカッションを行い、それに基づき研究・開発活動を進めている。また、アドバイザーとして本ラボが関わり、本学に在学した社会人学生が、学生自身の業務における問題を発見し、本学で修得した知識やスキルの社会への応用としてインディペンデント・スタディに取り組み、問題解決のための方法を学生が考案して新たにシステムを開発した。

○産業界との交流・協力による実践的な教育

本学理事長が一般社団法人日本 IT 団体連盟（60 以上の IT 業界団体、およそ 5,000 社、社員数およそ 400 万人を束ねる）の創業者であり、代表理事・筆頭副会長を務める関係から、本学は多くの IT 企業との交流が活発である。また、本学実務系教員にはその業界をけん引するトップリーダーが在籍しており、今後の業界の方向性や新規事業・技術に関しての的確でタイムリーな情報を得ることができる環境を有している。このような IT 産業界との太いチャンネルを活かして、学生が受けるメリット等の特筆すべき項目を以下に列挙する

[各産業界での実績あるプロフェッショナルズによるメリット]

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社代表取締役が教授

初音ミクで有名な同社代表取締役を教授に迎えることによって、学生は同社の考える IT と音楽、さらに 2 次創作によるボーカロイド（プログラムによって歌声を合成するソフトウェア）のコミュニティの拡大と、他者とのコラボレーションといった、新しい方法の作品発表の仕組みやこれからの方向性等について知ることができる。これらは学生の創作意欲を刺激することにもつながる。また、人気バーチャルキャラクターの戦略など、他では知る機会が少ない知見を得ることになる。（資料番号 8-4）

株式会社 GAINAX 京都代表取締役が教授

著名なアニメ制作会社である GAINAX 京都の代表取締役を教授に迎え、その授業を通してアニメに関して、制作技術だけではなく、制作予算やどのように費用を回収するかなど、業界の仕組みと抱える問題などを知ることができる。さらに同社とのパイプによって、同社の専門職（キャラクターデザイナー、演出家、著作権担当者）や同社アニメのノベライズ作家を教授として迎えセミナーや授業（2019年度春学期以降）も実施しており、他では知る機会が少ない知見を得ることになる。（資料番号 8-5）

音楽アーティストが教授

著名なパフォーマンス団体であるシルク・ドゥ・ソレイユでメインボーカルを務めたアーティストを教授に迎え、商業ベースの音楽パフォーマンスでのコンピュータや IT の活用、さらに職場でのコミュニケーション、クリエイティブ性の重要性など、年間数百回を超えるステージに立っていたアーティストからのヒューマンスキルを含めた、あまり知ることのできない業界での実際的なタスクや問題点など知見を得ている。（資料番号 8-6）

[地域産業の発展への貢献・社会との連携]

京都府警との連携

京都府警は、1970年代から本学グループ校の京都コンピュータ学院に、毎年職員一人を国内留学させてきた実績があり、全国でも屈指の IT/コンピュータに強い警察である。その由来により、本学とも良き友好関係を築いている。2016年5月31日、本学は「サイバー空間の脅威への対処を担う優秀な人材の育成に関する協定」を京都府警と締結した。この協定はサイバー空間が国民生活や経済活動に不可欠な基盤となる中、本学と京都府警が相互の連携と協力のもとに、サイバー空間における脅威への対処を担う優秀な人材を育成することを目的としており、毎年「京都府警職員に対して IT 講習の実施を行っている。また、外国人留学生や研修生が、不正アクセスによるインターネットバンキングの不正送金事件での現金引き出し役やネットショッピングでのクレジットカード詐欺等事件での詐欺金品の受取役など、サイバー犯罪に巻き込まれないよう、京都府警察本部サイバー犯罪対策課が京都府クレジットカード犯罪対策連絡協議会と連携して「留学生の皆さんへ」と題する防犯リーフレットを制作した際には、本学の留学生がイラスト作成や翻訳等の協力を行った。このように本学では学生も参加しながら、京都府警と連携した活動に取り組んでいる。

京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）への共催者としての参加

本学は西日本最大規模のマンガ・アニメ関連のイベントである京都市主催の「京都 国際マンガ・アニメフェア（京まふ）」に共催者として参加している。学生は、京都市の当該イベント担当者の協力を得て素材提供などを受け、オフィシャルな WEB サイトや SNS と連動した広報戦略を企画・立案、広報活動の実施（アプリ及び動画作成や海外向け発信）、及び会場来場者へのアンケート実施による検証などを行っている。このような貴重な体験は他では容易には得られないものである。（資料番号 8-7）

地理的名称トップレベルドメイン「.kyoto」を管理運営

国際的なドメイン管理団体である ICANN（Internet Corporation for Assigned Names and Numbers）の承認を受けた「.kyoto」の管理運営主体として、安心・安全なクリーンドメインの実現と地域貢献の一環としての京都府全体の価値の向上への貢献及び京都ブランド力の強化を目標に掲げて管理運営を担っている。なお、学校法人が管理運営する地理的名称トップレベルドメインは「.kyoto」が世界で唯一のものである。

このように実務に熟達した教員、講師による実践的・実地的な知識・技術の提供の場が設けられており、学生は幅広い知識と IT の応用分野の多様性を直に感じ、その分野の専門知識・関連知識を学び取ることができる。さらに地域社会や産業発展への活動にも協力することで、倫理観、職業人意識の涵養ができる。

《引用・裏付資料名》

1. Mix 方式の授業の日本語及び英語シラバス 例 (資料番号 8-1, p. 899)
2. 英語翻訳された案内 (資料番号 8-2, p. 908)
3. 第 4 回 SDGs×ICT 研究会開催案内 (資料番号 8-3, p. 910)
4. 『2022 年度大学案内』
クリプトン・フューチャー・メディア株式会社代表取締役 伊藤教授 (資料番号 8-4, p. 911)
5. 『2022 年度大学案内』株式会社 GAINAX 京都代表取締役 武田教授 (資料番号 8-5, p. 913)
6. 『2022 年度大学案内』ライブパフォーマンスと IT 活用例 Melas 教授 (資料番号 8-6, p. 915)
7. 京都国際マンガ・アニメフェア 2022 ウェブサイトおよび学内ニュース (資料番号 8-7, p. 917)

《実地調査閲覧資料名》

1. 2022 年度開講科目一覧 (資料番号 10)
2. 京都情報大学院大学 2022 大学案内 (資料番号 2)

◎ 「特色ある教育研究活動」について表 1 に記入した点数と判定理由

点検結果の点数： 5

判定理由:

高等教育・学習革新センターが設置され、教育の質的向上を目的とした研修及び学修支援活動を開催している。また、本学は留学生の受け入れを重視しており、優秀な留学生を多数獲得するためにも教員、事務部門とも英語での対応が可能な環境を整備していることも、本学の特徴の特筆すべき点として挙げられる。また、産業界や社会とのかかわりについても、企業との連携による実践教育や SDGs の実践教育に加え、その産業における実績ある人材、地域社会を巻き込むイベントへの参加や警察との協力関係など、専門職大学院として特筆すべき特徴を有していると判断した。これらを総合し、評価を 5 とした。